クボタトラクタ

取扱説明書

A-13 A-14

F-6862

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

火気厳禁

燃料(残量)

アワーメータ(積算時間計)

エンジン予熱

チャージランプ

エンジンオイル圧力

エンジン停止

水温計

ホーン

方向指示器表示

ヘッドライト(上向)

オイルゲージ

はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **警　告**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注　意**：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重　要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補　足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

67980-6252-4

目　次

▲ 安全に作業するために

必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で▲警告・▲注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．運転前に

(1)トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある▲表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。

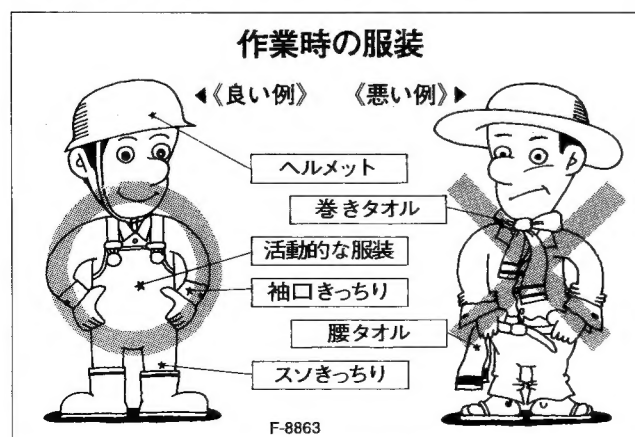
(2)トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。

(3)本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。

F-8822

(4)飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。

(5)ダブダブやかさばった衣服を着用しないでください。
回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。

F-8863

(6)トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。

(7)安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
紛失したり損傷した部品は交換してください。
ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。(詳細は **"トラクタの簡単な手入れと処置"** の章参照)

(8)トラクタは常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

2．始動時に

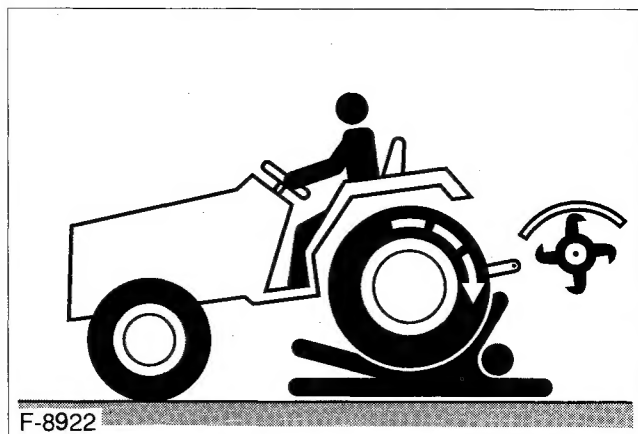
(1)エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やＰＴＯ変速レバーが **"中立"** かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。

(2)地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
トラクタが突然動き出す恐れがあります。

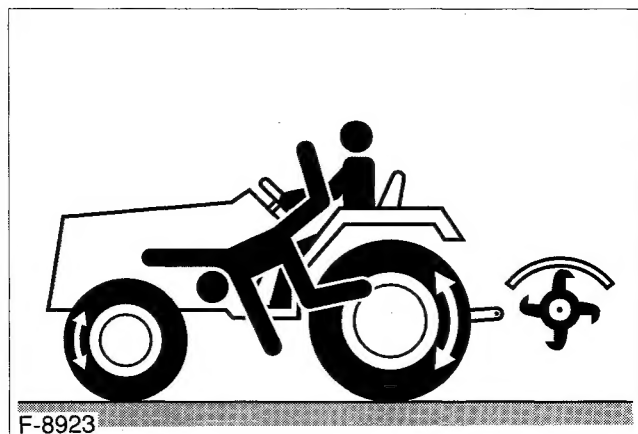
F-8861

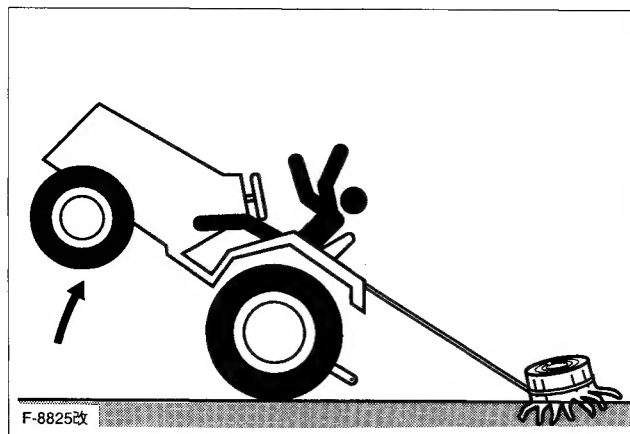
安全に作業するために

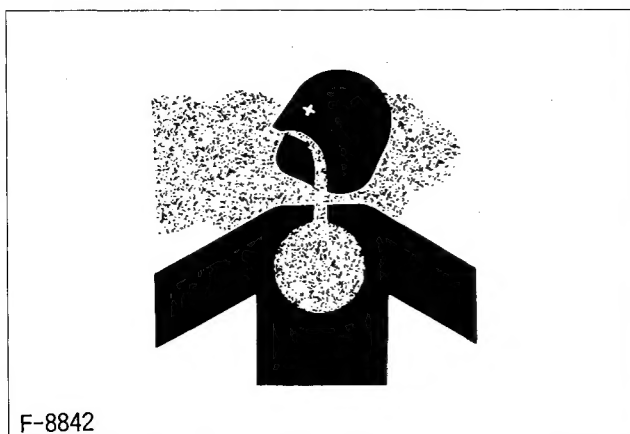
(3)トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になる恐れがあります。

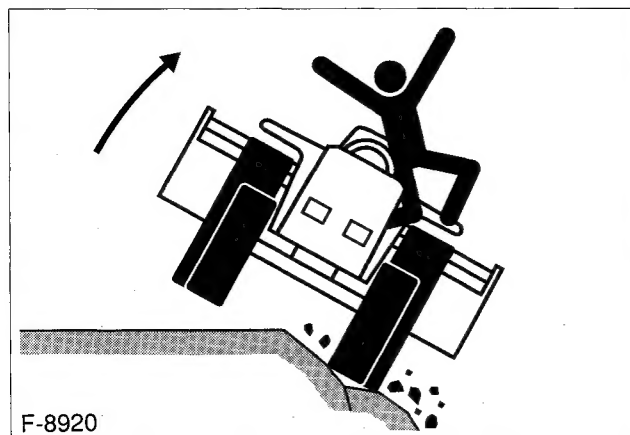
F-8922

3．運転時に

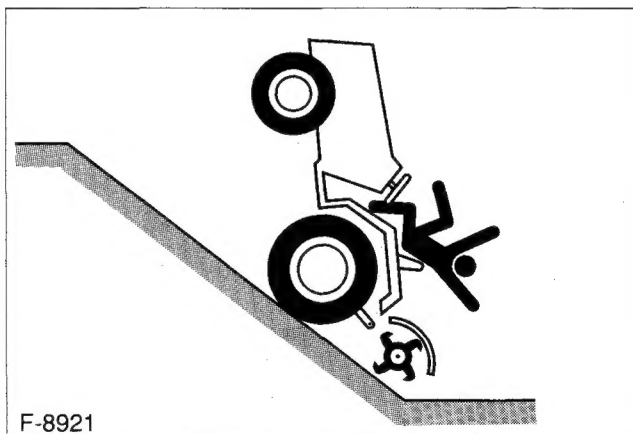
(1)子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
又，必ずシートに座って運転してください。

F-8923

(2)けん引作業には，けん引ヒッチを用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
トラクタの破損や転覆の原因となります。

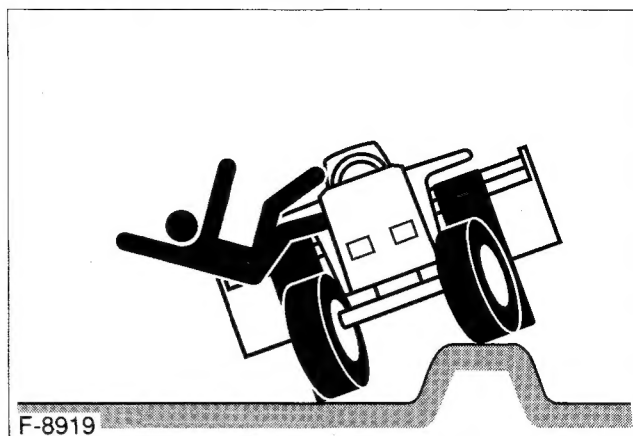
F-8825改

(3)換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。

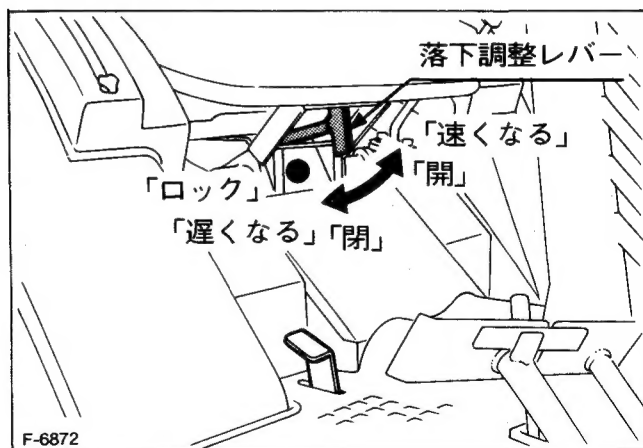
F-8842

(4)溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。

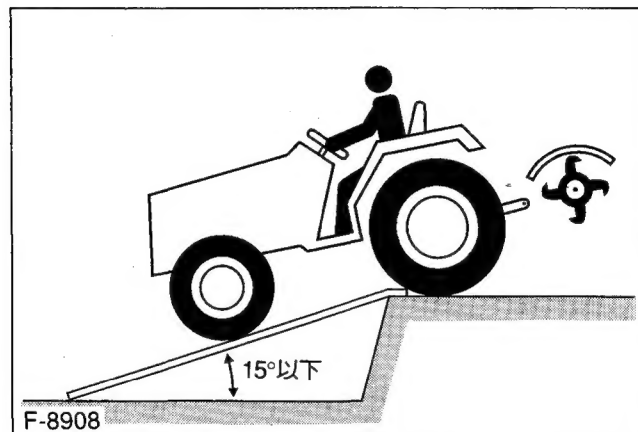
F-8920

(5)溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する恐れがあります。このような所では，バックで運転してください。

F-8921

(6)共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。

(7)ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。

F-8919

(8)ほ場外では，油圧ロックをして作業機の落下を防止してください。

F-6872

(9)ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。

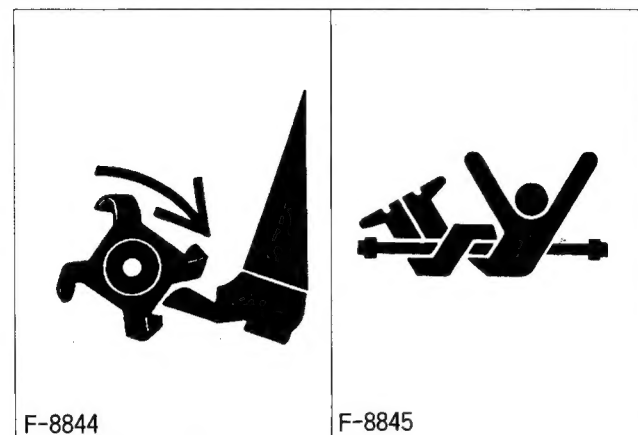
F-8908

傾斜が15°以下になる長さのものを使用する。

(10)急な坂道・車両への積込み積降し・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

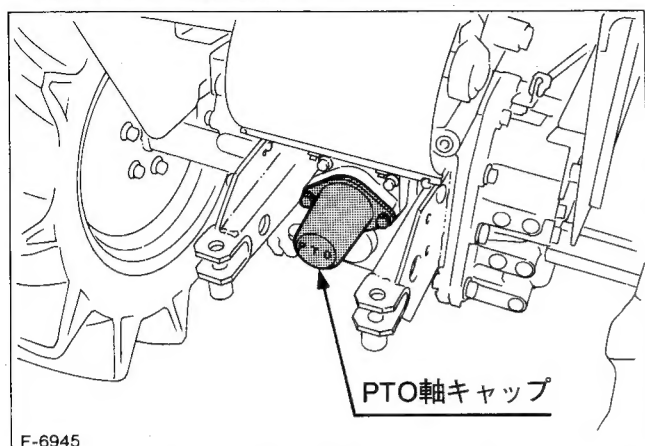
4．作業機使用時に

(1)作業機の着脱は，平たんで安全な場所で行なってください。

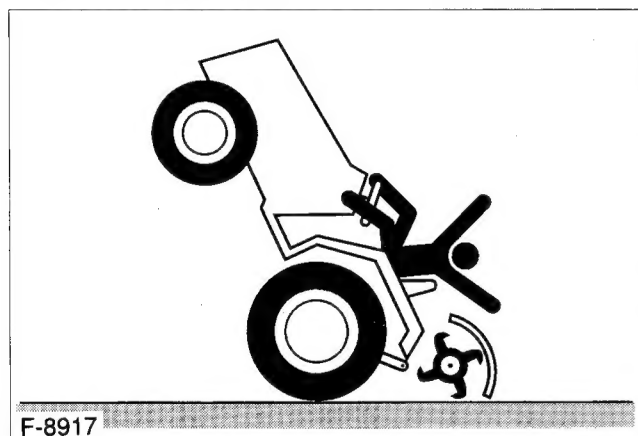
(2)トラクタから降りるときや，ロータリなどＰＴＯ作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。

F-8844　F-8845

安全に作業するために

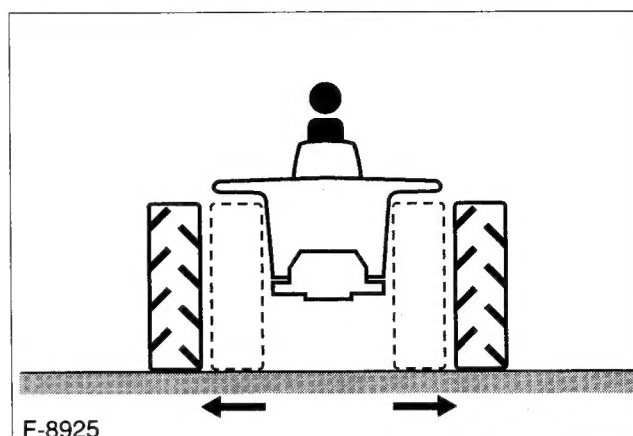
(3)ＰＴＯを使用しないときは，ＰＴＯ軸キャップを装着しておいてください。

F-6945

(4)ＰＴＯ作業機は，その作業機で定められたＰＴＯ回転以上で使用しないでください。
機械の破損や人身事故の恐れがあります。

(5)作業機を使用するときは，必要に応じトラクタ前部に適正なウエイトを取付けてください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故の恐れもあります。

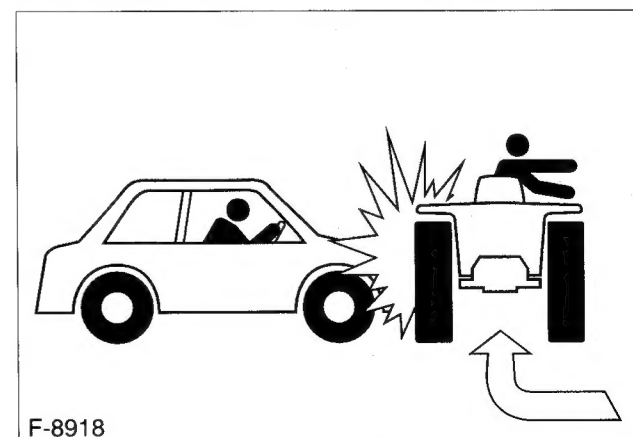
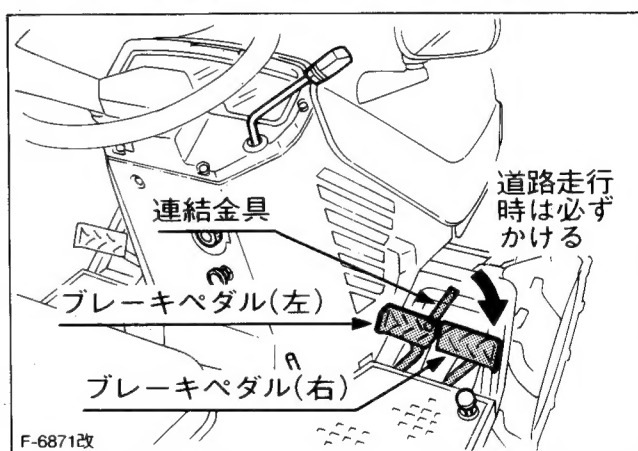
F-8917

(6)作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
詳細は購入先にご相談ください。

(7)傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距(タイヤ中心間の距離)を大きくしてください。

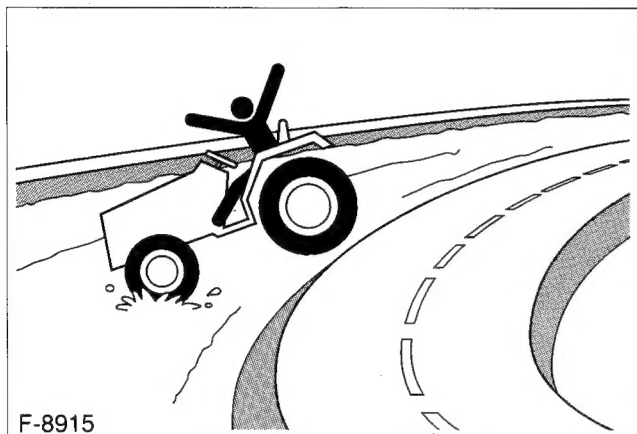
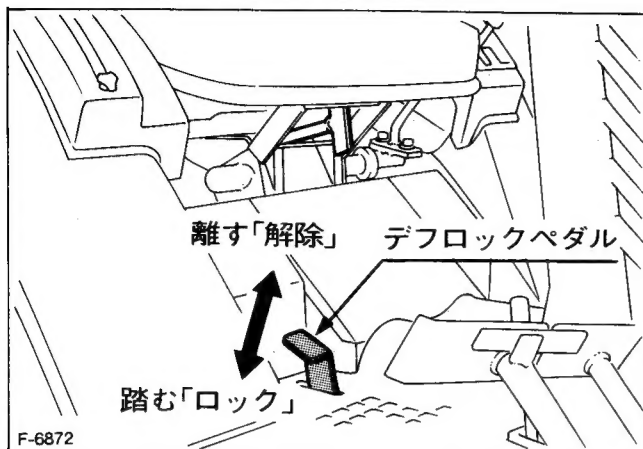
F-8925

5．道路走行時に

(1)道路走行時は，左右のブレーキペダルを連結してください。
高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ転倒や交通事故の恐れがあります。

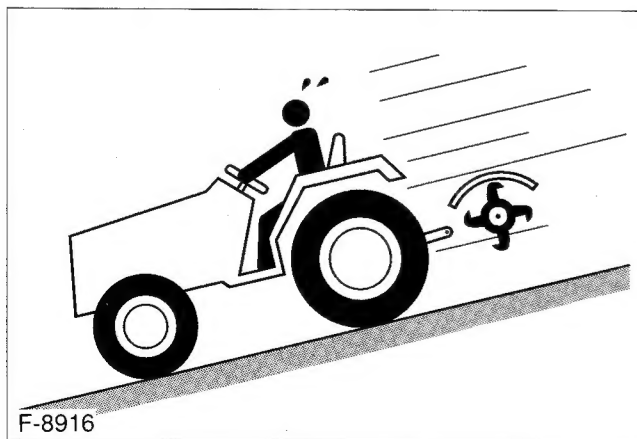
F-6871改

F-8918

(2)道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
ハンドル操作が出来なくなります。

F-6872

F-8915

(3)旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
高速で旋回するとトラクタが転倒する恐れがあります。

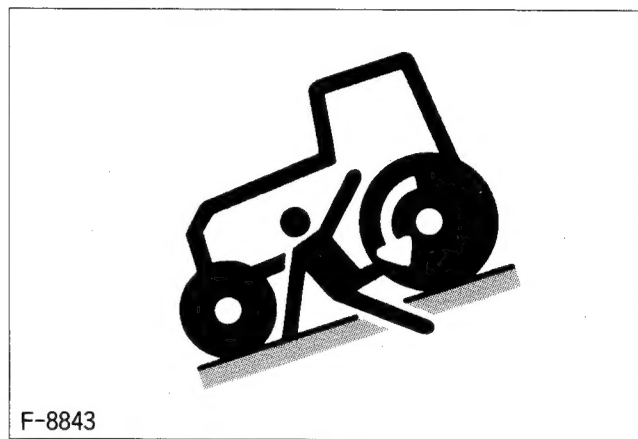
(4)坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を中立にして惰性で走行しないでください。操縦ができなくなる恐れがあります。

F-8916

(5)トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。（道路運送車両の保安基準）
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。

(6)交通や安全規則を守ってください。
ナンバプレートを付け，車検証（大型特殊自動車のみ）と運転免許証は携行してください。

6．駐車，格納時に

(1)駐車するときは，平たんでトラクタが安定する場所を選び，ＰＴＯを **“切”**，作業機を **“下げ”**，変速レバーを **“中立”**，駐車ブレーキを **“掛け”**，エンジンを **“停止”** してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。

F-8843

(2)乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災の恐れがあります。

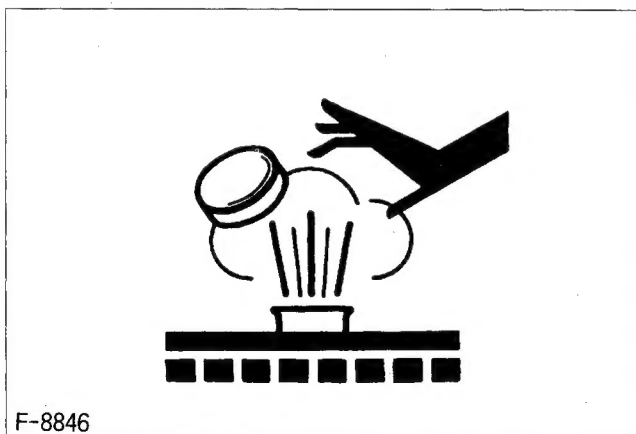
(3)格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行ってください。火災の原因になります。

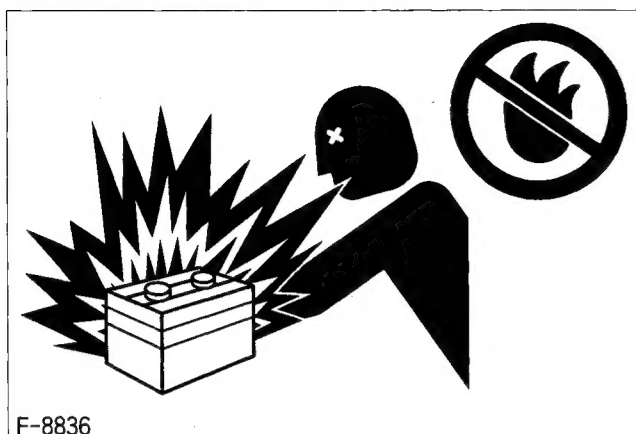
安全に作業するために

7．点検・給油・整備時に

(1)平たんな場所に駐車し，作業機を**“下げ”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，変速レバーを**“中立”**にし，そしてエンジンを停止してください。

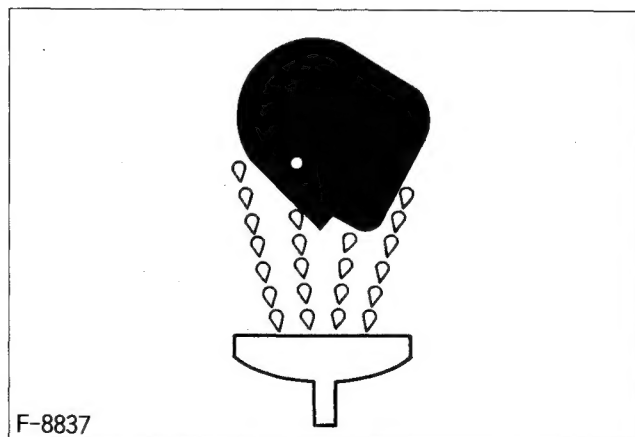
(2)エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドの恐れがあります。

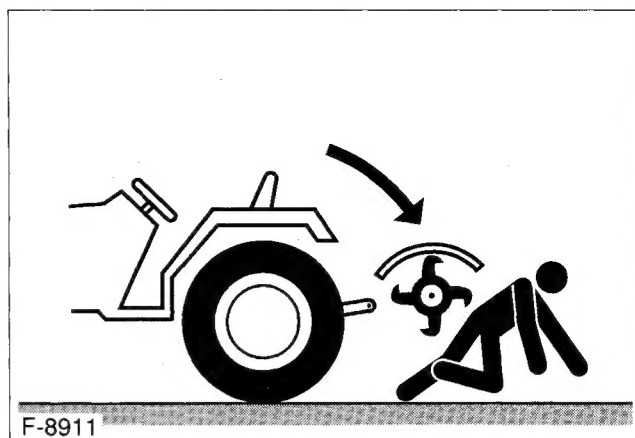
F-8846

(3)燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発の恐れがあります。

F-8836

(4)放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
(上手な運転のしかたの章**“バッテリあがりの処置”**を参照)

(5)バッテリをはずすときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。

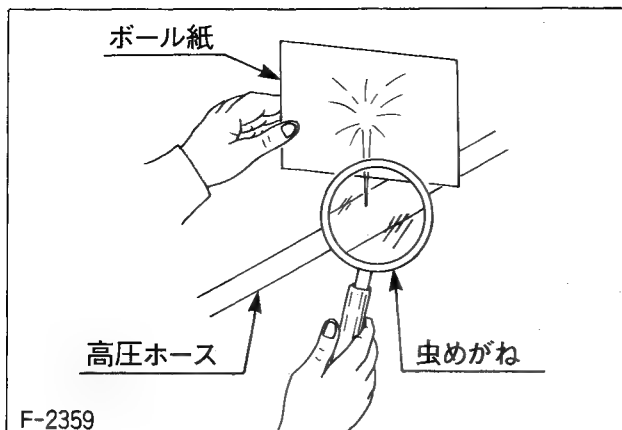
(6)バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。

F-8837

(7)作業機を上げた状態で点検整備を行う場合，シート下部にある油圧ロックを締めて落下防止を行なってください。

F-8911

(8)圧力がかかり噴出した油は，皮膚に浸透する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

(9)見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚に浸透したときは，強度のアレルギーを起こす恐れがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。

F-8847

F-2359

8．ロータリの着脱時に

(1)PTOを中立にして平たんな場所で行なってください。

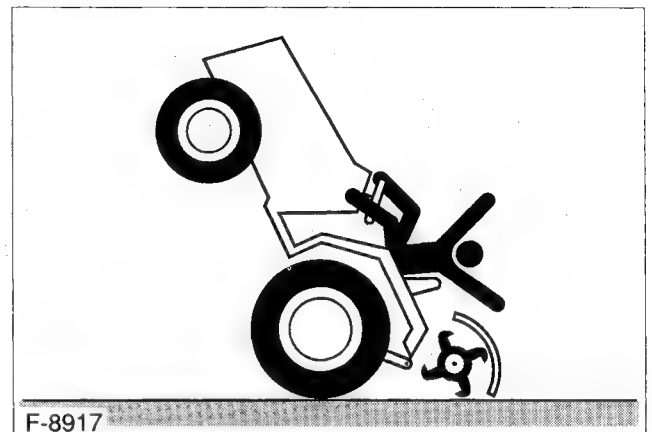
(2)トラクタとロータリの間に立たない，また立たせないでください。
挟まれるおそれがあります。

F-8848改

(3)二人作業の場合はお互いに合図しあい，注意して作業してください。

(4)2点リンクの止めピンやユニバーサルジョイントのロックピンが確実にセットされていることを確認してください。

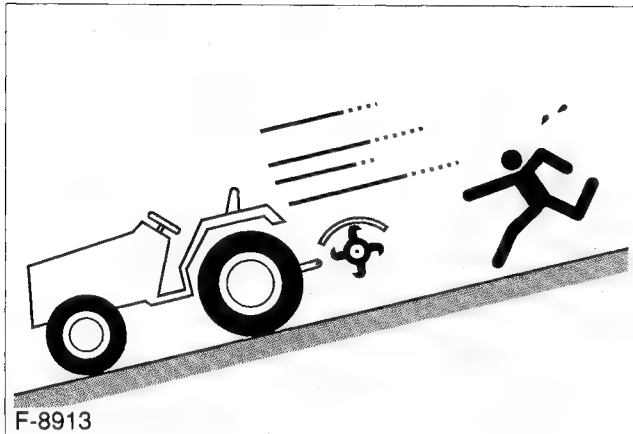
(5)装着するトラクタによってそれぞれ前後バランスが異なりますので，前部ウエイトの指示がある場合は必ず装着してください。
前輪が浮上がり事故の原因になります。

F-8917

安全に作業するために

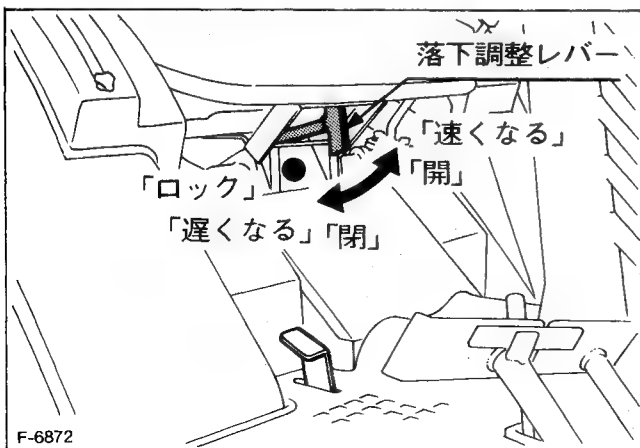
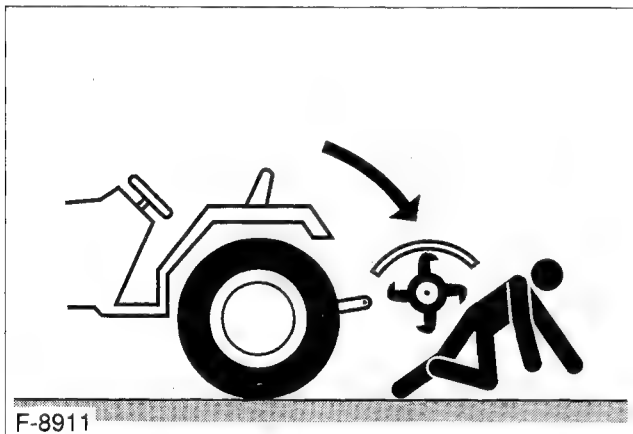
9．耕うん爪の点検や交換及び調整時に

(1)トラクタを平たんな場所に置いてください。

(2)駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止してください。
トラクタが動き出すおそれがあります。

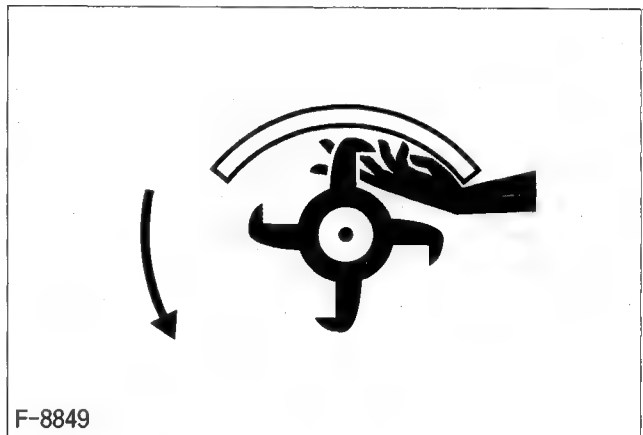
F-8913

(3)ロータリの落下防止のため油圧ロックをしてください。
ロータリが落下するおそれがあります。

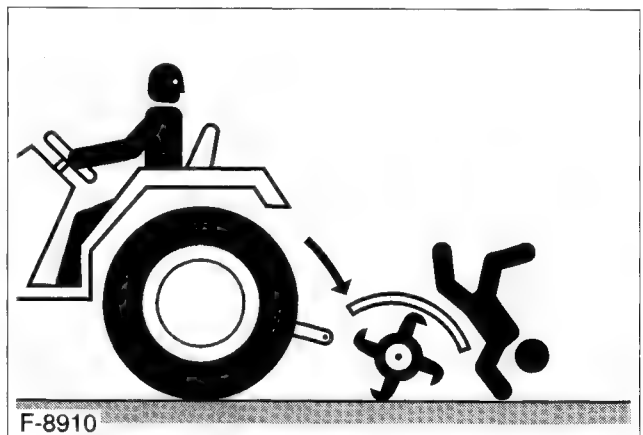
F-8911

F-6872

10．ロータリ運転時に

(1)安全カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。又紛失したり損傷した場合，交換してください。
巻込まれや，切傷事故の原因になります。

(2)ユニバーサルジョイント，爪軸等回転部分には近づかないでください。
裂傷・巻込まれ等，事故のおそれがあります。

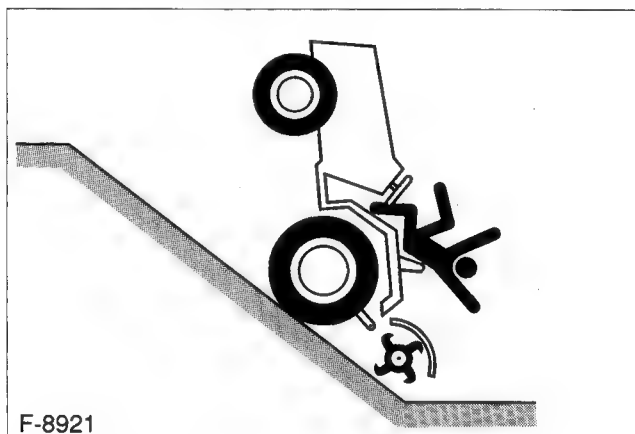
F-8849

(3)ロータリの上に人を乗せないでください。

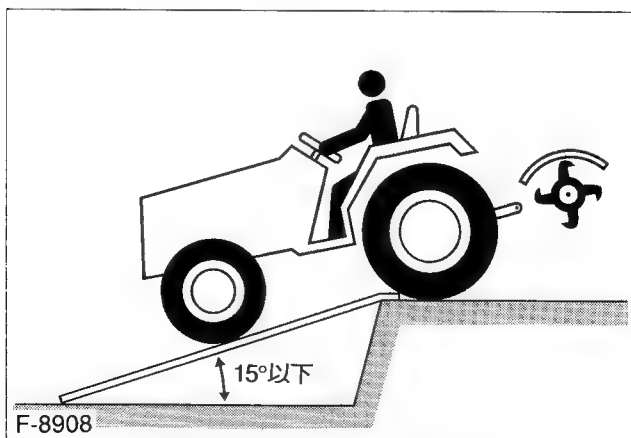
F-8910

(4)必ず座席に座ってロータリ作業を行なってください。作業中，トラクタの飛降り，飛乗りは重大事故につながります。

(5)ロータリを持上げ，バック及び急旋回するときは，周囲の安全確認を行なってください。

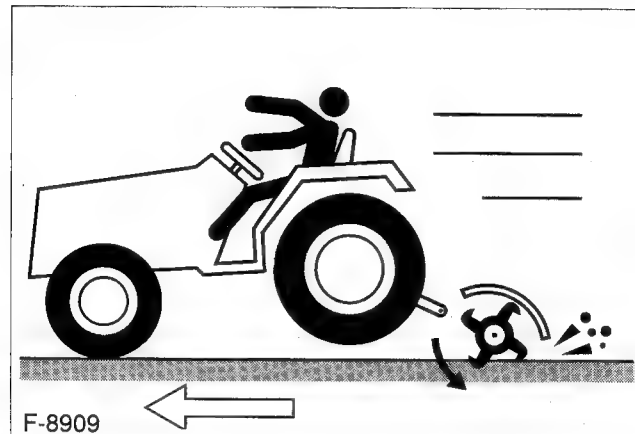
F-8907

(6)傾斜地やあぜを登るときは，転倒防止のためロータリを下げて前輪の浮上がりを防いでください。

F-8921

(7)ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。

F-8908

傾斜が15°以下になる長さのものを使用する。

(8)耕うん中，硬いほ場でトラクタが前に飛出した場合，すぐクラッチを切り，ブレーキを踏んでください。次に，より遅い車速に変速し，爪軸回転を上げて飛出しが起こらないように作業してください。
２輪駆動，４輪駆動の切り換え可能なトラクタは，４輪駆動にしてください。

F-8909

(9)ロータリをトラクタに装着して公道を走行できません。(道路運送車両の保安基準)
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。

安全に作業するために

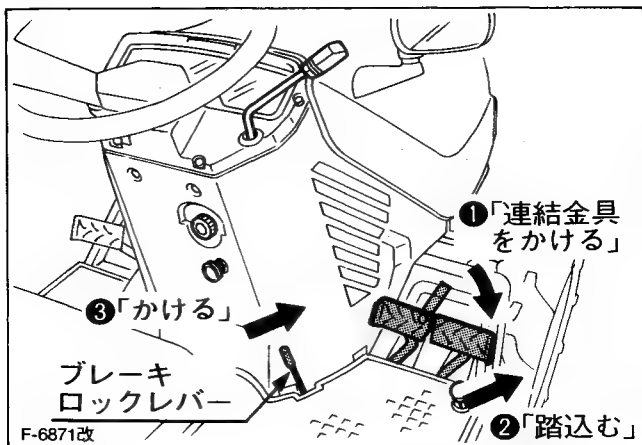
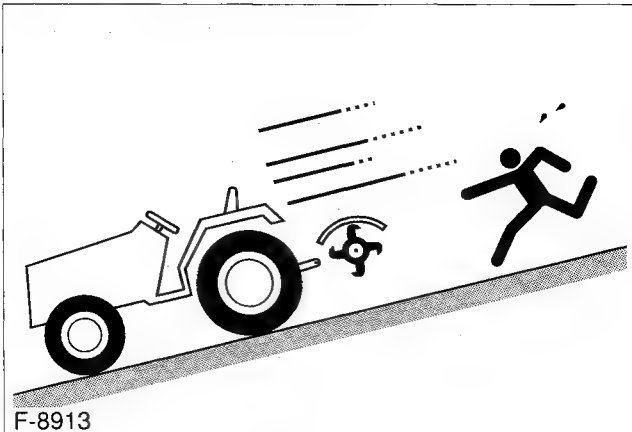
11. ロータリの格納時

(1)トラクタを平たんな場所に置いてください。

(2)ロータリを下げ，地面に接地させてください。ロータリが落下するおそれがあります。

(3)駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止してください。
トラクタが動き出すおそれがあります。

F-8913

F-6871改

12. ▲表示ラベルと貼付位置

① 品番　67980-4907-1

▲ 注　意

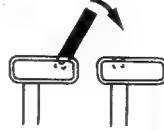
傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- シートにすわり、ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にすること
- 前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
- 運転者以外に人を乗せないこと
- 排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- 溝や穴の近く、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
- 道路走行時はデフロックを使用しないこと
- 道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
- エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- 作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

② 品番　67955-4746-1

▲ 警　告

転倒や衝突による死傷事故をふせぐために、道路走行時は左右のブレーキペダルを連結すること

③ 品番　T0180-4957-1

▲注意

指を切傷するのでファン、ベルトに触れないこと

④ 品番　T0180-4958-1

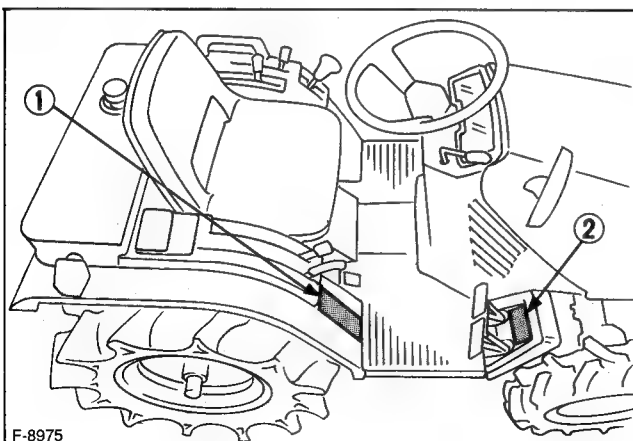
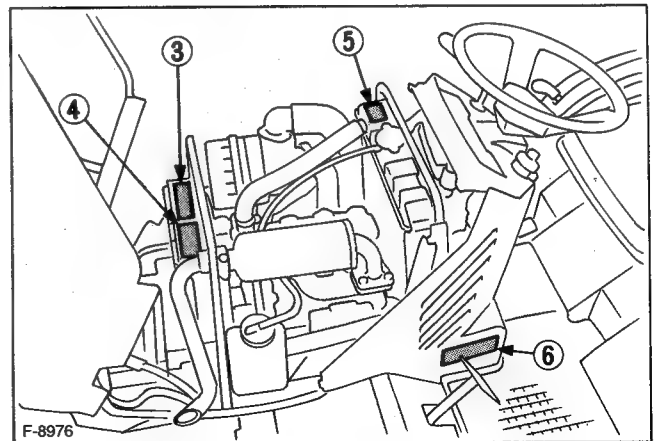
▲注　意

ヤケドをするのでマフラーに触れないこと

⑤ 品番　67980-4737-1

⑥ 品番　T0180-4965-2

▲ 警　告

トラクタが突然動きだす恐れがあるため
- 地上に立って、エンジンを始動しないこと
- 安全スイッチ回路を直結しないこと
- スタータを直結してエンジンを始動しないこと

F-8975

F-8976

▲ 安全に作業するために　必ず読んでください。

① 品番　T0180-4956-1

③ 品番　T0180-4959-1

警　告

巻きこまれによる死傷事故をふせぐために
・ＰＴＯ軸の回転中は近づかないこと
・使用しないときは、ＰＴＯ軸キャップを装着すること

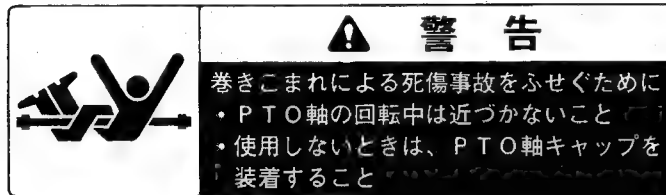
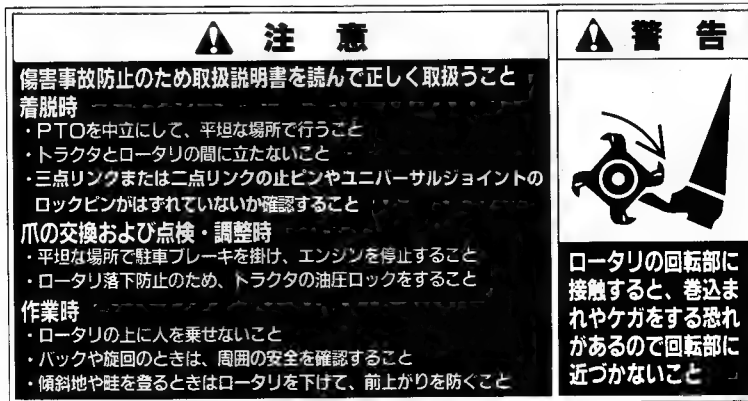
④ 品番　T0180-4904-1

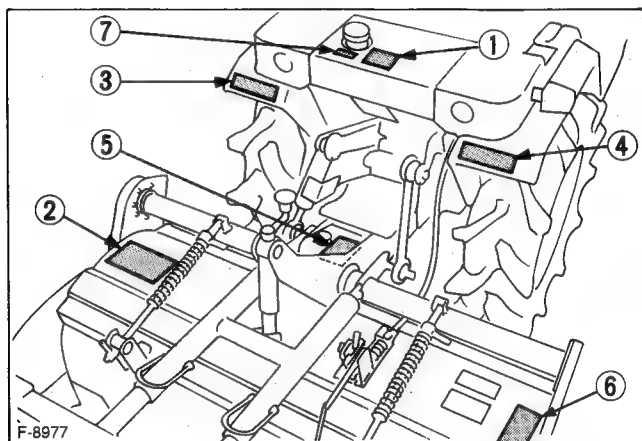
警　告

転倒による死傷事故をふせぐために
けん引は、けん引ヒッチを使用し、車軸やトップリンクブラケット等で行わないこと

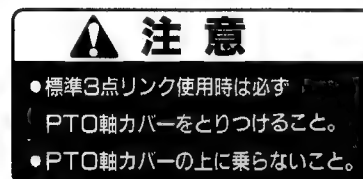
② 品番　7C705-5646-2

警　告

ロータリの回転部に接触すると、巻込まれやケガをする恐れがあるので回転部に近づかないこと

⑤ 品番　7C705-5881-1

⑥ 品番　7F712-5613-1

⑦ 品番　6A100-4771-1
【標準三点リンク(P)仕様のみ】

注　意

●標準3点リンク使用時は必ずPTO軸カバーをとりつけること。
●PTO軸カバーの上に乗らないこと。

13. ▲表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(3)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買いあげいただいた購入先に，それぞれ**"ご相談窓口"**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際，(1)トラクタ名称と車台番号
(2)エンジン名称とエンジン番号
(3)ロータリ名称と機械番号

を併せてご連絡ください。

なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

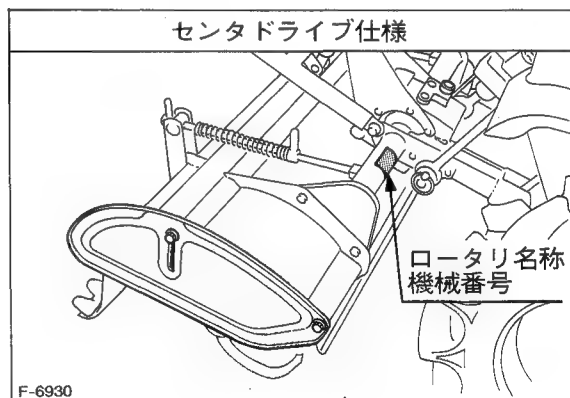
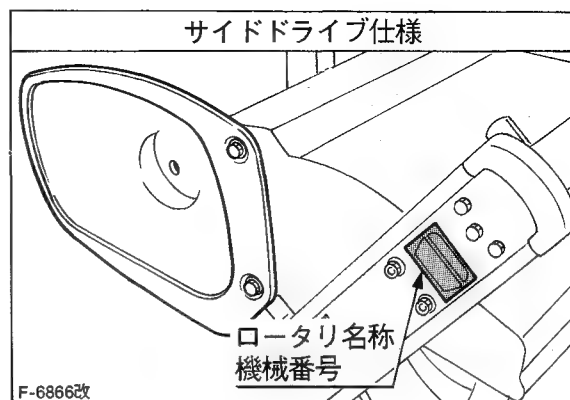
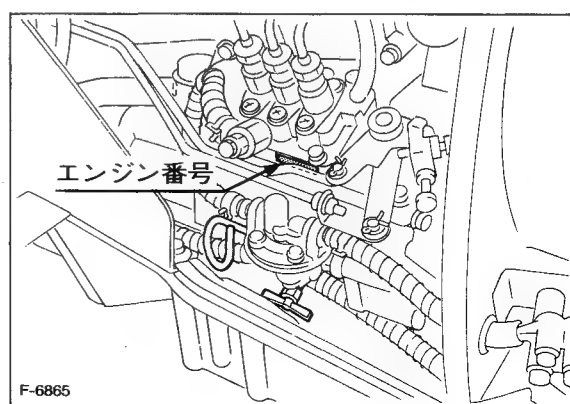
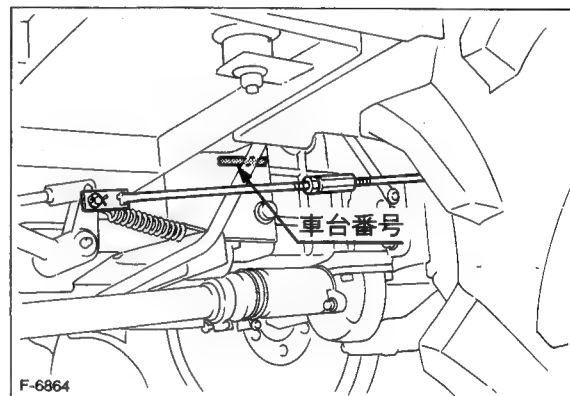
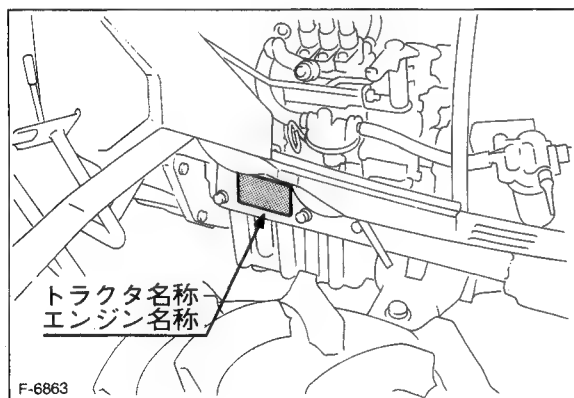
◆安全鑑定適合番号

クボタA-13………16039
クボタA-14………16040
クボタB52 ………申請中

◆型式認定番号

クボタA-13………農1845
クボタA-14………農1846
クボタB52 ………農1846

サイドドライブ仕様

センタドライブ仕様

小型特殊自動車について

このトラクタは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

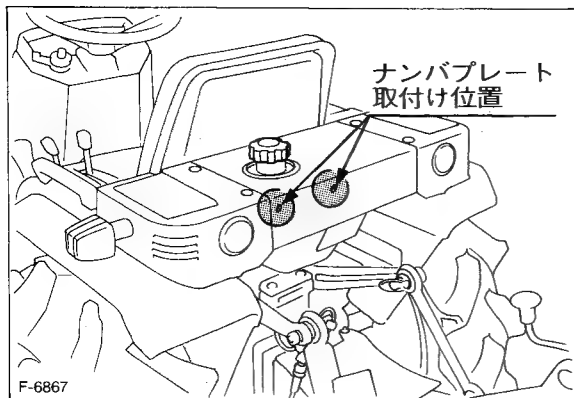
■小型特殊自動車取得の届出とナンバプレートの取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届出，ナンバプレートの交付を受けなければなりません。

(手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。)

❶小型特殊自動車取得の証明書など(購入先で発行)に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。

❷届出が済むとナンバプレートが交付されます。

❸ナンバプレートを車体の取付け位置に取付けてください。

■運転免許

公道を走行する場合は，小型特殊自動車の運転免許証が必要です。必ず所持してください。

■自動車損害賠償責任保険のお勧め

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

■小型特殊自動車とは

車体の大きさ	全　長	4.70m以下
	全　幅	1.70m以下
	全　高	2.00m以下
最　高　速　度		15km/時以下
原動機の総排気量		1500cc以下

上記の条件を有する自動車で，このうち一つでも条件が満足しないと大型特殊自動車扱いとなりますので，次のようなことには特にご留意ください。

(1)認定を受けた以外のエンジンを搭載して運行することはできません。

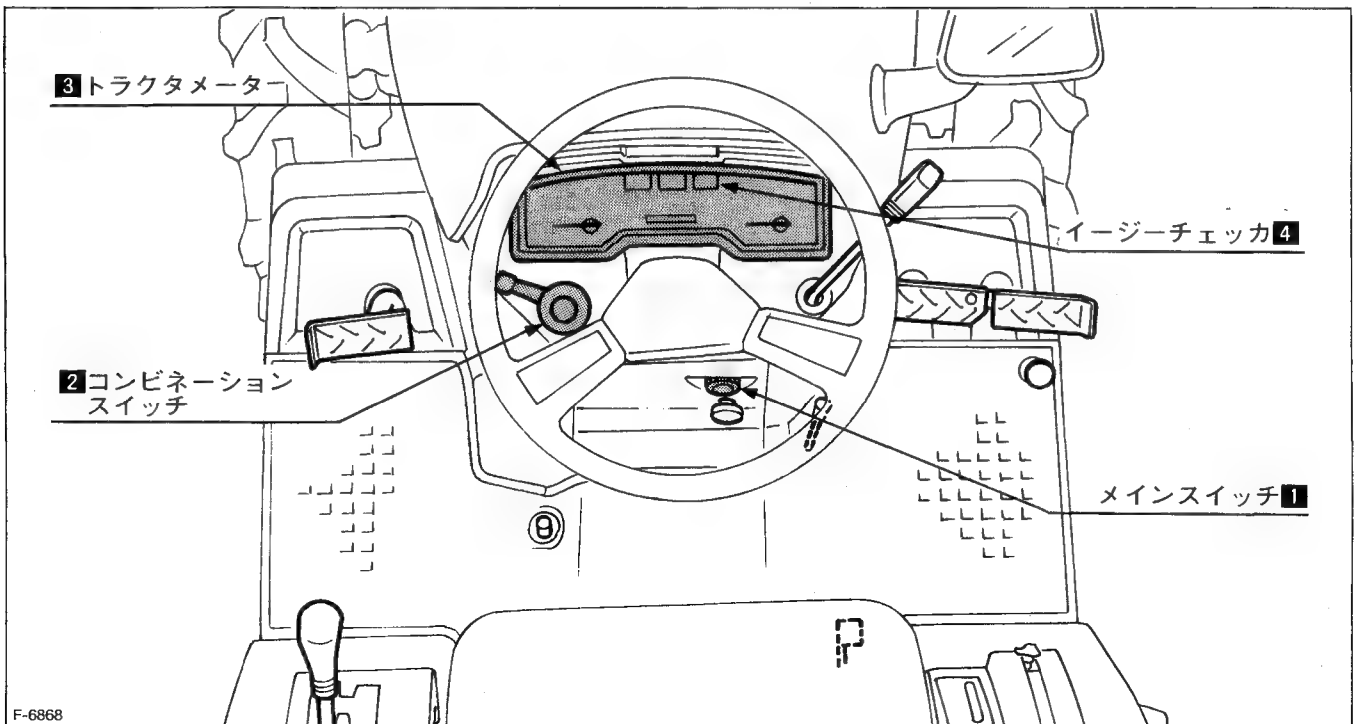
(2)認定時の構造を変更(例えば大径車輪やドッキングローダなどを装着)した状態では，運行することはできません。

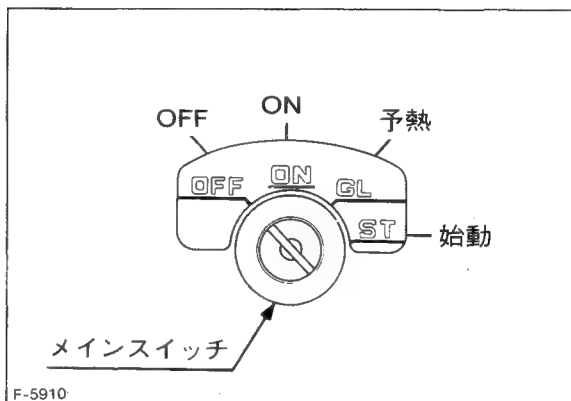
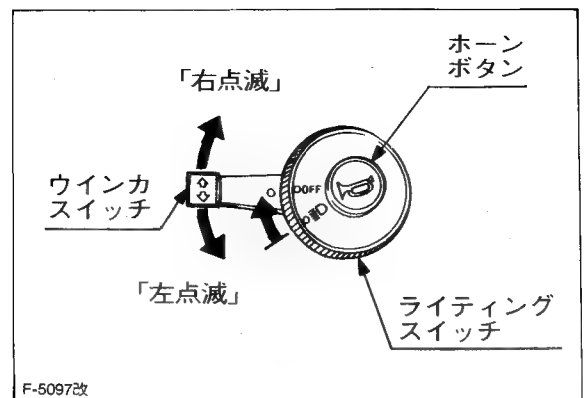
(3)エンジン及び車体の封印は外さないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証はできませんのでご注意ください。

補　足

＊作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において，“走行中に使用しない灯火”とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

運転に必要な装置の取扱い

スイッチとメータの取扱い

1 メインスイッチ

OFF ……キーが抜き差しできる位置。
ON ……エンジン**回転中**の位置。
GL(予熱)……燃焼室内を**予熱**する位置。
ST(始動)……クラッチペダルをいっぱい踏込んで，エンジンを**始動**する位置。
手を離せば自動的に**“ON”**に戻ります。

2 コンビネーションスイッチ

◆ライティングスイッチ

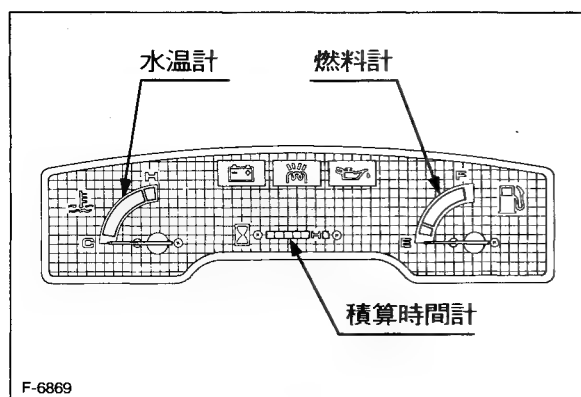
OFF………ヘッドランプ消灯位置
≣D ………ヘッドランプ照射位置

◆ウインカスイッチ

(1)スイッチを操作すると，ウインカランプが点滅します。
(2)右折又は左折が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。

◆ホーンボタン

メインスイッチを**“ON”**にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

3 トラクタメータ

◆積算時間計

積算時間計は5桁になっており，初めの4桁は時間，最後の1桁は$\frac{1}{10}$時間(6倍すると“分”単位)を示します。

◆燃料計

メインスイッチ**“ON”**のとき，燃料タンク内の残量を示します。

補　足

＊“E”に近づいたら早めに燃料を補給してください。からにすると燃料系統に空気が入るので，エアー抜きが必要です。

◆水温計

メインスイッチが**“ON”**のとき，冷却水の温度を示します。**“C”**は低温，**“H”**は高温です。
指針が**“H”**(レッドゾーン)を示すときは，オーバヒート状態ですから**“◆オーバヒートしたときの処置”**をご参照のうえ点検してください。

4 イージーチェッカ

重　要

＊日常点検はイージーチェッカのみで済ませないで確実な点検を行なってください。

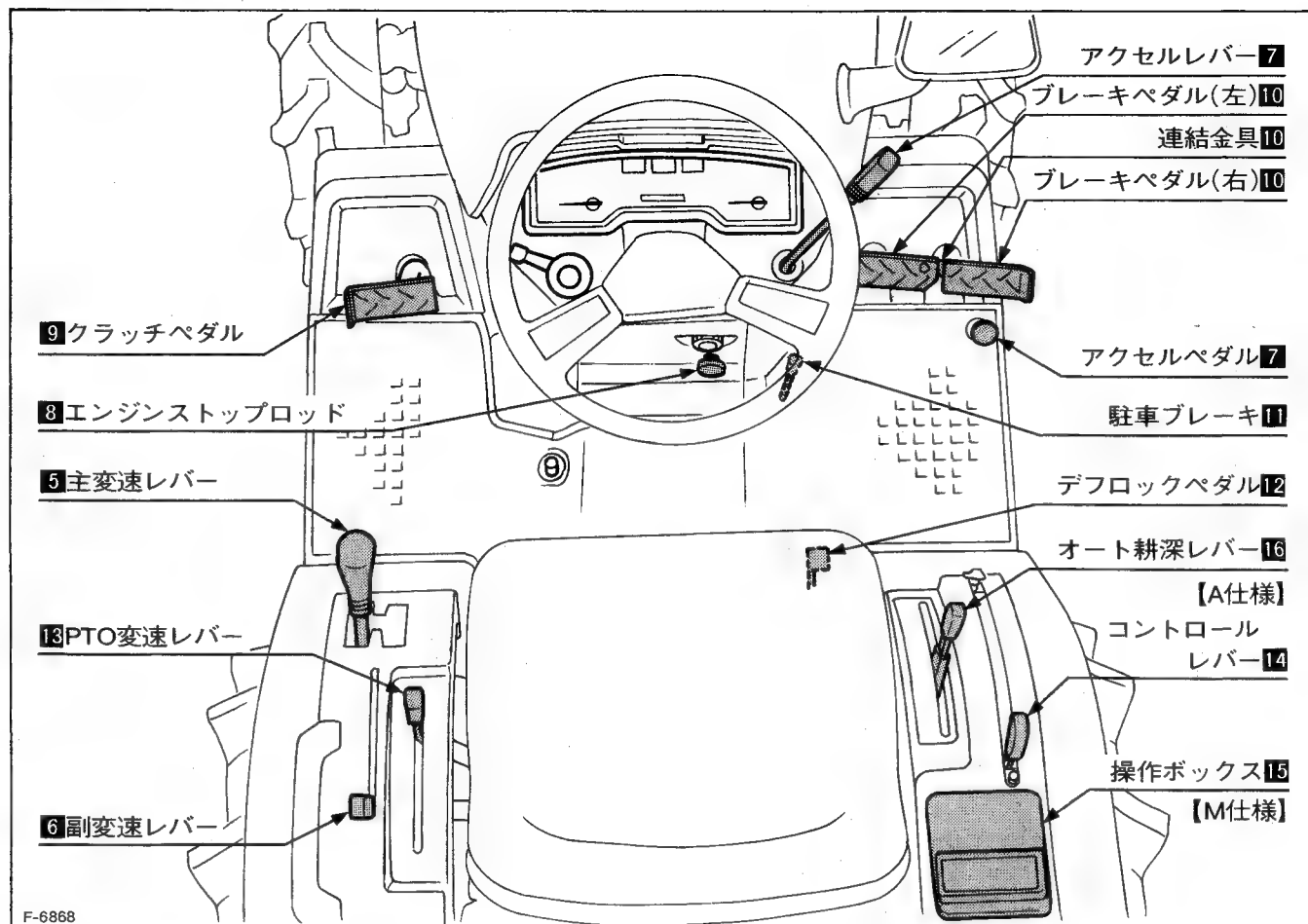
F-6869

バッテリチャージ警告灯
エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯して警告します。
メインスイッチを**“ON”**にすると点灯し，始動すると消灯します。

エンジンオイル油圧警告灯
エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。
点灯したままのときは，エンジンオイル量及び潤滑油系統を点検してください。

グローランプ
メインスイッチを**“予熱”**にすると約5秒間点灯し，始動可能になります。寒冷時には始動を容易にするため消灯後5秒程度**“予熱”**位置を保持してください。

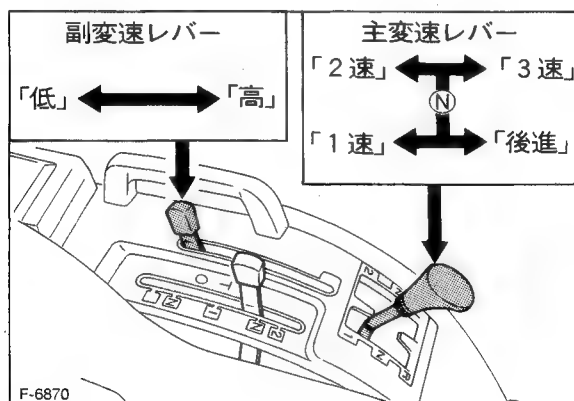
運転装置の取扱い

アクセルレバー 7
ブレーキペダル(左) 10
連結金具 10
ブレーキペダル(右) 10
9 クラッチペダル
アクセルペダル 7
8 エンジンストップロッド
駐車ブレーキ 11
5 主変速レバー
デフロックペダル 12
オート耕深レバー 16
【A仕様】
13 PTO変速レバー
コントロールレバー 14
操作ボックス 15
【M仕様】
6 副変速レバー
F-6868

5 主変速レバー

6 副変速レバー

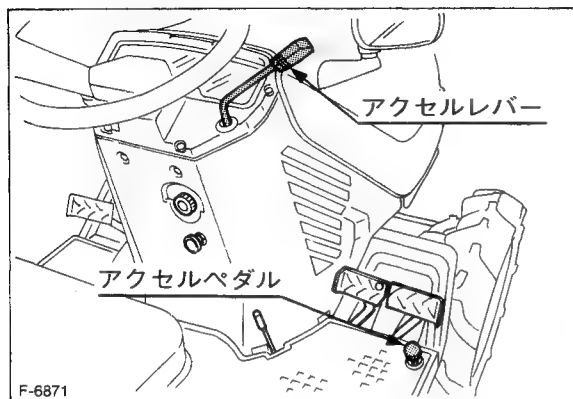
注 意

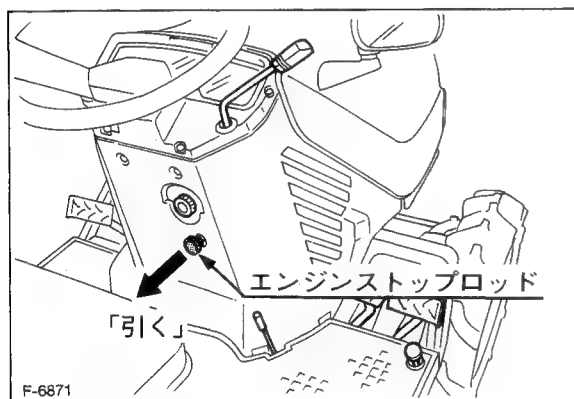
＊急発進は危険ですのでしないでください。
＊安全のため，急激な変速は避けてください。
変速は１段ずつ行なってください。
＊緊急停止時や，作業機の取付け・取外しなど狭い場所での作業時には，クラッチを使用してください。
＊走行中は，主変速レバーに手を置いたままにしないでください。
＊急な坂道，車輌への積み・降ろし，ほ場への出入り，あぜの乗り越えなどでは，途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れておいてください。
＊低温始動時，ミッションオイルが暖まるまでは，主変速レバーでの発進が遅れることがあります。十分に暖気運転をしてください。

２本のレバー操作を組合せることにより，前進６段・後進２段の車速が得られます。

重 要

＊操作はクラッチを切りトラクタが完全に停止してから行なってください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。

7アクセルレバーとアクセルペダル

アクセルレバー………主に農作業時に使用します。
アクセルペダル………主に道路走行時に使用します。
アクセルペダルは，アクセルレバーと連動しており，
ペダルを踏込む………エンジン回転が上がります。
ペダルから足を離す…アクセルレバーのセット位置まで戻ります。

8エンジンストップロッド

(1)エンジンストップロッドをいっぱい**"引く"**とエンジンが**"停止"**します。
(2)エンジンの始動は，ストップロッドを押込んで行なってください。引っ張ったままでは始動しません。又，途中のままではエンジン出力が出ません。

9クラッチペダル

 注 意

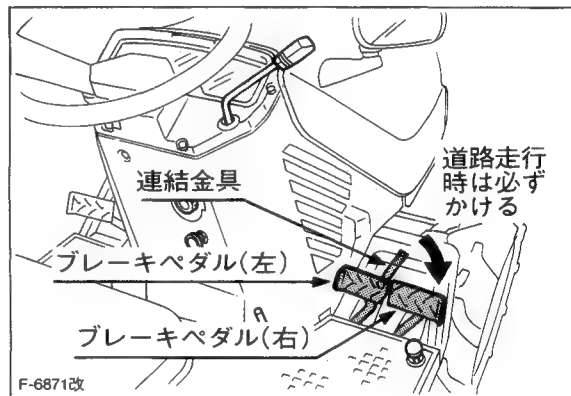
＊急にクラッチを離すと，急に飛出して危険です。ゆっくり行ってください。

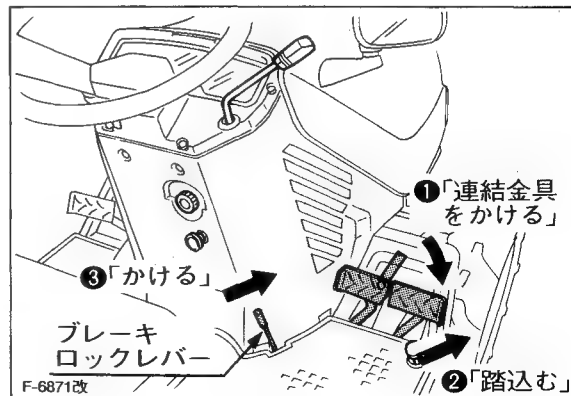
ペダルを踏込む…………クラッチが切れます。
ペダルから足を離す……クラッチがつながります。

10ブレーキペダル

 警 告

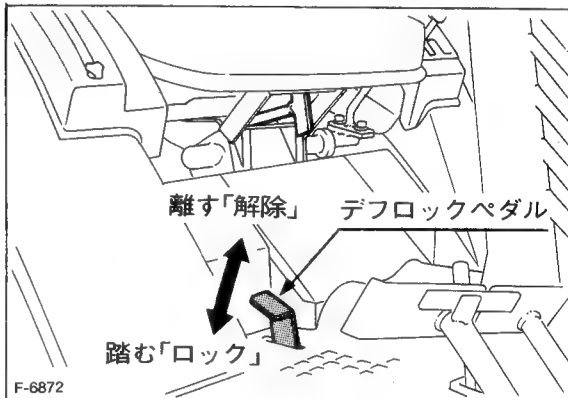
＊道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ超え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ転倒や交通事故の恐れがあります。

ブレーキは，一般の自動車などと異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片方だけブレーキをかけることができます。
連結金具を**かけた**状態
(左右同時にブレーキがかかる)……道路走行時。
連結金具を**外した**状態
(左右片輪ずつブレーキがかかる)……農作業時。

11駐車ブレーキ

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，ブレーキロックレバーを**"かける"**と爪がみぞにかみ合い，ブレーキがかかります。
外すときは，ペダルを踏込めば外れます。

12 デフロックペダル

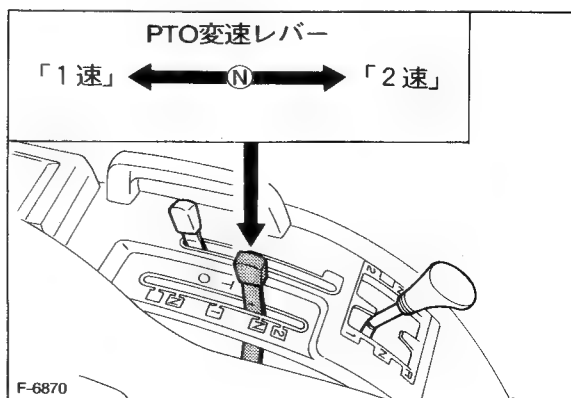
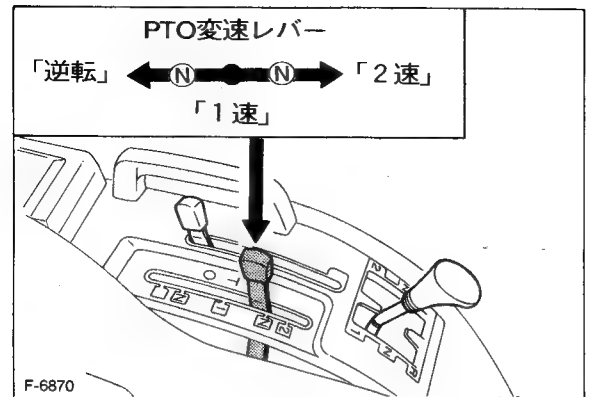
注 意

＊デフロック使用後ペダルが確実に戻っているか確認してください。
＊高速での使用はしないでください。

左右の後輪が同じ回転速度で駆動する装置で，片側の後輪がスリップしたとき，ペダルを踏込めばスリップが防止できます。
ペダルを踏込む…………ロックされます。
ペダルから足を離す……自動的にロックが外れます。

13 PTO変速レバー

注 意

＊作業機に指定されたPTO回転速度を厳守してください。
低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用すると非常に危険です。

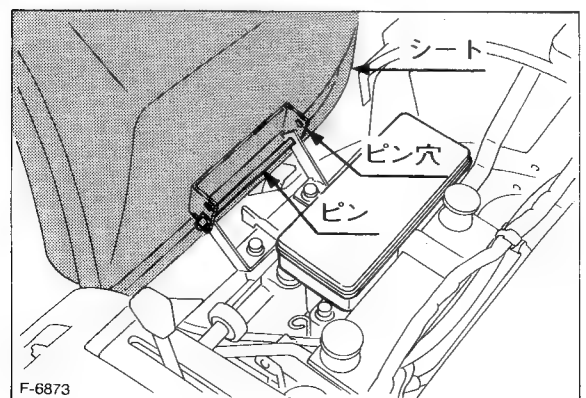
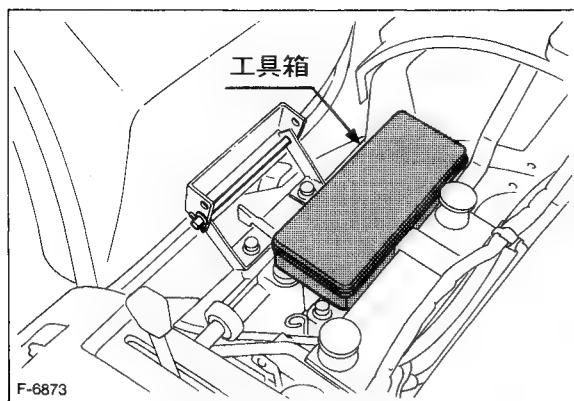
◆X仕様以外
PTO軸(動力取出し軸)の回転速度を，２段階に変速できます。

◆X仕様
PTO軸(動力取出し軸)の回転速度を，正転２段階逆転１段階に変速できます。

◆PTO“逆転”の使い方
(1)使用できる作業機
●標準採用のロータリに限ります。

重 要

＊標準採用以外のロータリを使用すると，作業機の故障の原因になります。

(2)使用できる作業
●土寄せ作業(軟弱地，代掻き時)
●草やワラなどの巻きつきをほぐすとき
(3)使用できない作業
●未耕地での耕うん作業
●ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業
●ロータリカバーが土に接触しない位置まで上げてください。

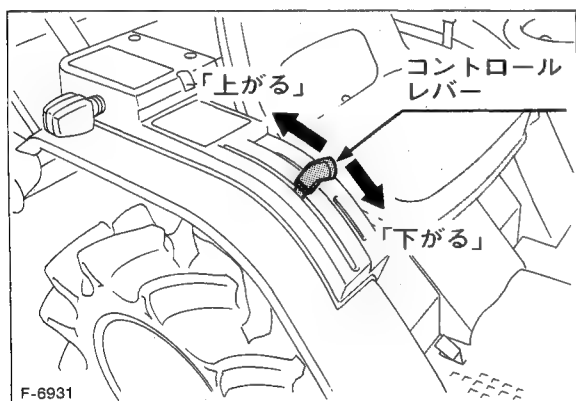
■シート

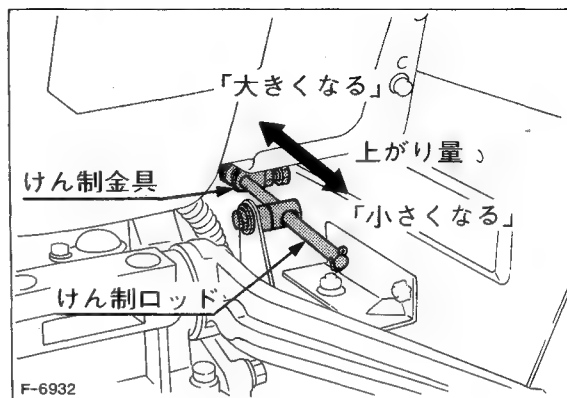
(1)シート下のピン穴を移動すると，前後２段階に調節できます。(B52は３段階)
(2)雨のときは，シートを前に倒しておくと座席がぬれません。

■工具箱

＊B52には工具箱はありません。

作業機昇降装置の取扱い

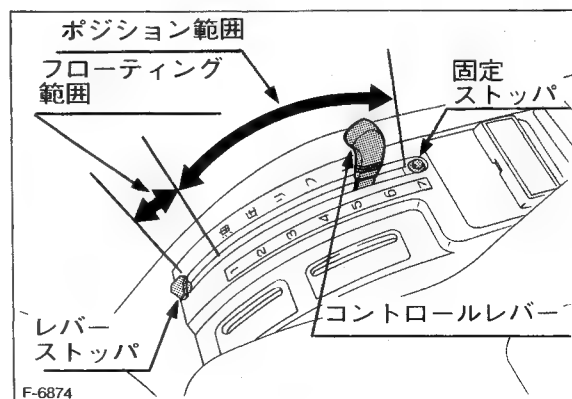
油圧装置は，エンジン回転中クラッチの断続に関係なく作動します。

14コントロールレバー【標準仕様】

コントロールレバーは，油圧によって作業機を上下させる装置です。
標準仕様は手動コントロール方式になっています。
レバーを後方に引く……作業機が上昇する。
レバーを前方に倒す……作業機が下降する。

◆作業機持上げ量の調整

作業機の持上げ量の調整は，けん制金具の取付け位置を変えることによって変更できます。
けん制金具のセットボルトを緩め，後方に固定すると作業機の上がり量が小さくなり，前方に固定すると上がり量が大きくなります。

■コントロールレバー【M仕様】

M仕様はポジションコントロール方式になっています。
レバーを後方に引く……作業機が上昇する。
レバーを前方に倒す……作業機が下降する。

	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション範囲（目盛り表示）	下げ方向に移動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲（目盛りなし）	下げ位置	下がる	この範囲では，作業機は止まらずいっぱいまで下がります。

◆レバーストッパの使い方

❶コントロールレバーで，希望する作業位置を決めます。

❷その位置にレバーストッパを固定します。

❸その後は，コントロールレバーをレバーストッパに当るまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。

重 要

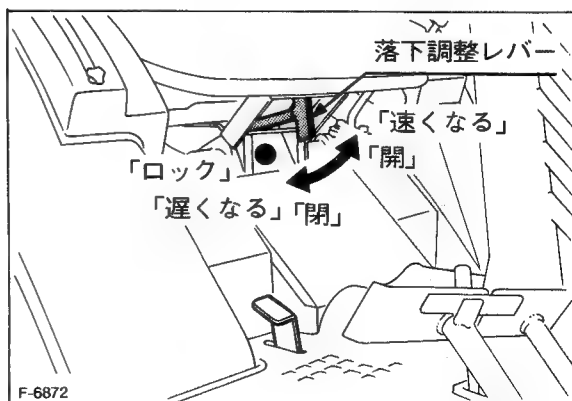
＊レバーガイド上昇側の端部にある固定ストッパは動かさないでください。動かすとコントロールレバーによる正常な昇降ができなくなります。

■作業機落下速度の調整

注 意

＊ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下調整レバーで，作業機が落下しないようにロックしてください。
落下調整レバーでロックした後，コントロールレバーを“下がる”の方向に動かして，作業機が落下しないことを必ず確認してください。

落下調整レバーを回すことにより作業機落下速度が調整できます。

落下調整レバー	落下速度
右に回す(閉)	遅くなる
左に回す(開)	速くなる
右にいっぱい回す	ロックされる

ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで2～3秒が適当です。

特にオート耕うん時，落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

重 要

＊レバーは軽く回すだけで油圧がロックされますから無理に回さないでください。

モンローマチック【M仕様】の取扱い

モンローマチックは，電子制御を行なっております。正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

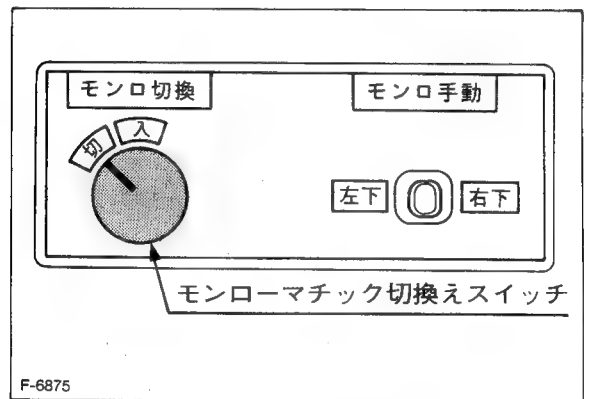
15スイッチの取扱い

スイッチは，メインスイッチが“ON”でないとモンローマチックは作動しません。

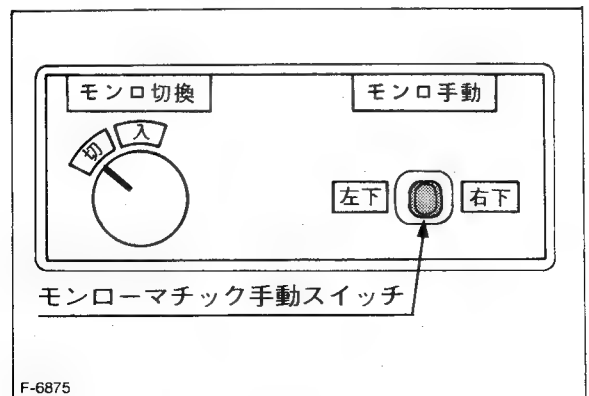
重 要

＊スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

◆モンローマチック切換えスイッチ

モンローマチックの“入”，“切”を選択するスイッチです。

“入”……モンローマチックが作動します。
“切”……モンローマチックが解除されます。

◆モンローマチック手動スイッチ

モンローマチック切換えスイッチが“切”のとき，手動スイッチにより作業機を任意の角度に保持できます。

■モンローマチック用スイッチの操作と適合作業

注 意

**＊走行時には必ずモンローマチック切換えスイッチを“切”にして走行してください。
又，落下調整レバーを回して作業機の落下を防止してください。**

モンローマチック切換えスイッチ	コントロールレバー	モンローマチック手動スイッチ	作業機の動き	適合作業
「入」	作業機上昇位置	中立位置	作業機が上昇すればトラクタと平行になります。	ロータリ耕起，整地，培土，マルチ作業など
	作業位置		作業機が自動水平制御されます。	
「切」	作業機上昇位置	手動スイッチ操作後中立位置	手動スイッチ操作分のみ作業機が任意の角度に保持されます。	作業機の傾きを必要とする特殊作業
	作業位置			

重 要

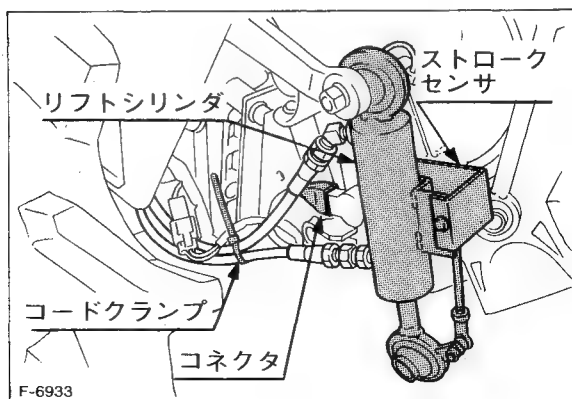
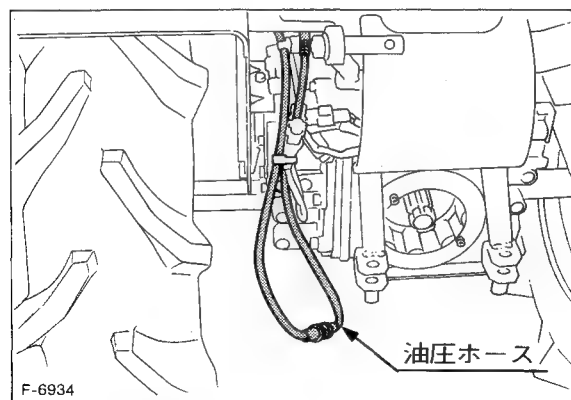
＊モンローマチックが不要なインプルメント作業(フロントローダ作業など)ではモンローマチック切換スイッチを“切”にして作業してください。
＊ロータリを取外すときはモンローマチック切換えスイッチを“切”にしてから取外してください。
＊センサなど電子部品にはスチームクリーナなどでの直接洗浄は避けてください。

■インプルメントの取扱い

◆インプルメントの装着について

モンローマチックが働き，リフトシリンダが伸縮するとトラクタと作業機が接触する場合がありますので，接触しないことを確認してから使用してください。

◆リフトシリンダを取外す場合

トレーラなどのけん引作業において，リフトシリンダを取外すときは，次の要領で行なってください。

❶コードクランプを外します。
❷ストロークセンサの配線をコネクタ部で外し，油圧ホース等にコードクランプで仮止めをしてください。
❸油圧ホース２本を接手部で外し，図のように接続してください。

❹セットピンを抜き，リフトシリンダを取外してください。

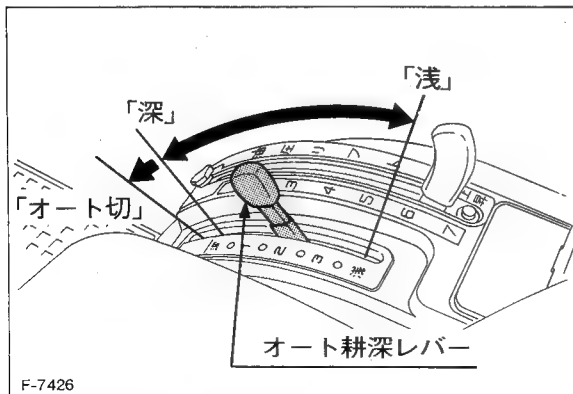
重 要

＊ストロークセンサは破損しないように特に注意して取扱ってください。投げたり，水の中につけたり絶対にしないでください。

メカオート【A仕様】の取扱い

後２輪を外したオート耕うん作業で，より一層の小まわり作業ができ，後２輪跡のないきれいな仕上りが得られます。
正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

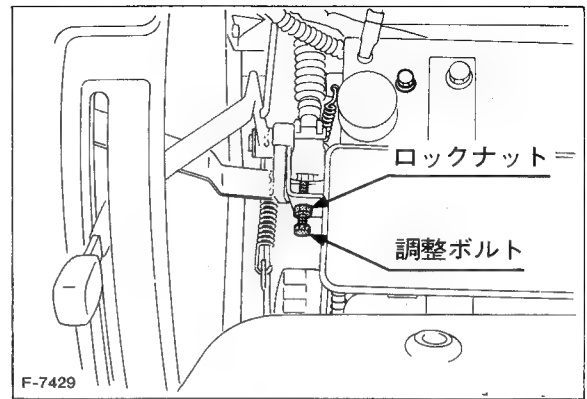
16オート耕深レバーの取扱い

オートの**"切"**及びオート耕うんの深さを設定するレバーです。

(1)作業切換えレバー位置が**"耕うん"**のとき，オート耕深レバーを**"オート切"**位置にするとオート耕うんが作動しない状態になります。
(2)オート耕深レバーを**"浅"**方向にするとロータリの耕深が浅く保持されます。
(3)オート耕深レバーを**"深"**方向にするとロータリの耕深が深く保持されます。

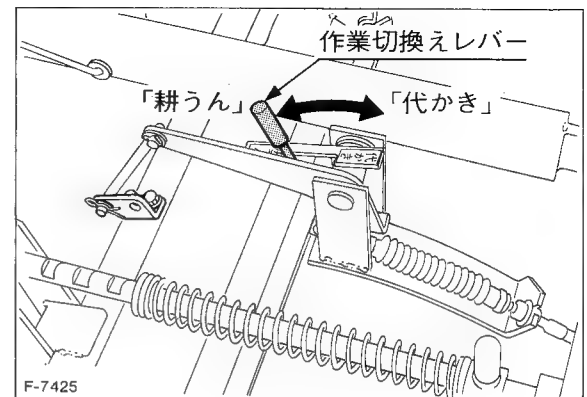
補　足

＊目盛りは深さの目安として表示しています。同じ目盛り位置でも，ほ場条件が変わると深さの設定が変わります。
＊畝立て作業や片培土作業などロータリカバーを持上げて作業を行なうとき，あるいは後２輪を取付けてロータリ作業を行なうときはオート耕うんが作動しない状態(作業切換えレバーが"耕うん"で，オート耕深レバーが"オート切"位置)にしてください。

■作業機落下動作の調整

オート耕うん開始時，ほ場への食い込みを安定させるため，作業機の落下速度を直前で遅くしています。その動作が始まる位置は，工場出荷時に標準状態で設定してありますが，ほ場の条件により，必要な場合は調整することができます。

ロータリ落下時の状態	調整要領
動作位置が遅く，ロータリの食い込み量が大きい。	(1)ロックナットをゆるめる。 (2)調整ボルトを適量ゆるめる。 (3)ロックナットを締付ける。
動作位置が早く，ロータリの食い込み量が小さい。	(1)ロックナットをゆるめる。 (2)調整ボルトを適量締付ける。 (3)ロックナットを締付ける。

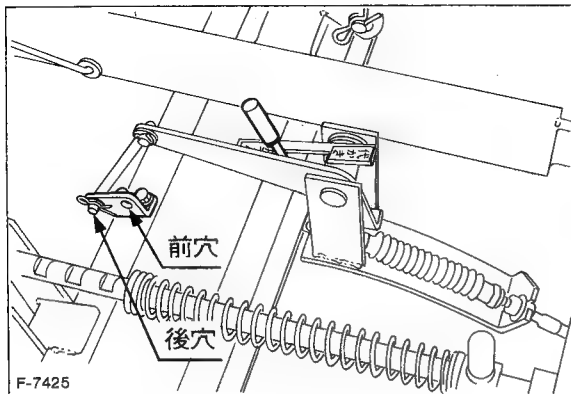
■作業切換えレバーの取扱い

オート耕うんの作業範囲を選択するレバーです。

レバー位置	作業範囲
耕うん	一般耕うん，培土 浅耕し
代かき	代かき作業 浅耕し

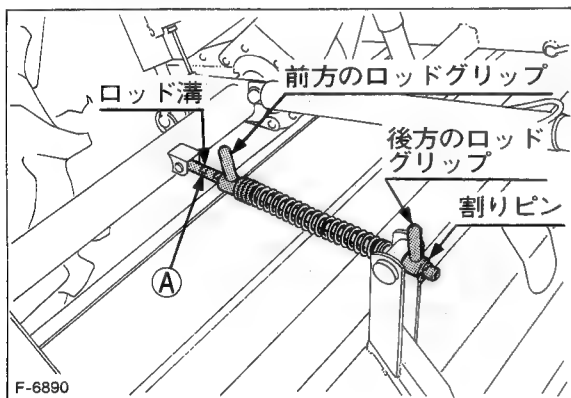
補　足

＊作業切換えレバーを切換えるときはコントロールレバーを上昇位置にし，オート耕深レバーを"オート切"にした位置で，切換えてください。

■オート感度の調整

ロッドの取付穴を選択することによりオート耕うんの感度を変えることができます。

"前穴"……オート耕うんの感度を鈍感にします。草やワラなどの影響でうねり現象がでる場合はこの穴を選択します。

"後穴"……標準的なほ場での耕うん作業はこの穴を使用します。工場出荷時はこの穴に取付けています。

■ロッドの調整

【RS12E・RS14Eを除く】

● 後方のロッドグリップ
　オート耕うん時は必ず一番後のロッド溝にセットしてください。

● 前方のロッドグリップ
　オート耕うん時，通常は一番前のロッド溝Ⓐにセットしてください。均平，整地の押付力を強くしたいときはロッド溝の位置を2番目，3番目…と適宜，選択してください。

【RS12E・RS14E】

● 後方のスナップピン
　オート耕うん時は必ず一番後のロッド穴にセットしてください。

● 前方のスナップピン
　オート耕うん時，通常は一番前のロッド穴にセットしてください。均平，整地の押付力を強くしたいときはロッド穴の位置を2番目，3番目……と適宜，選択してください。

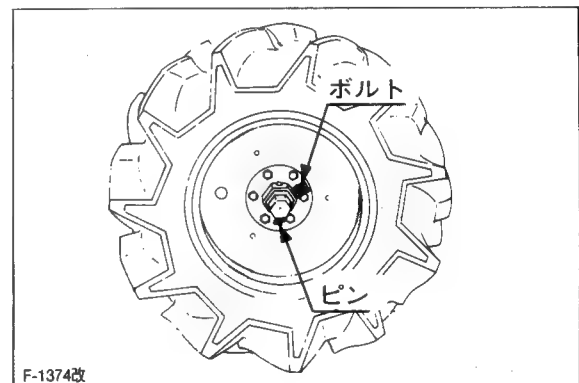
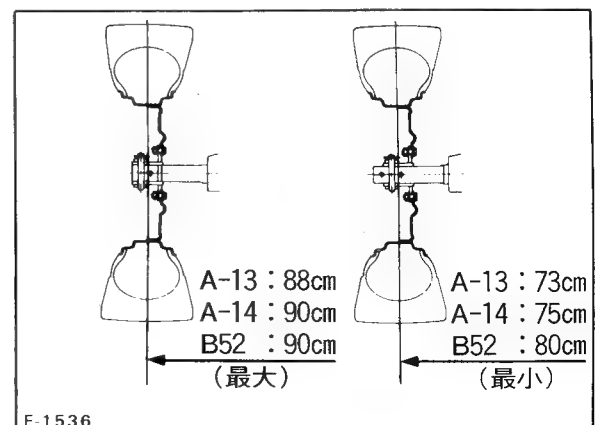
輪距の調整

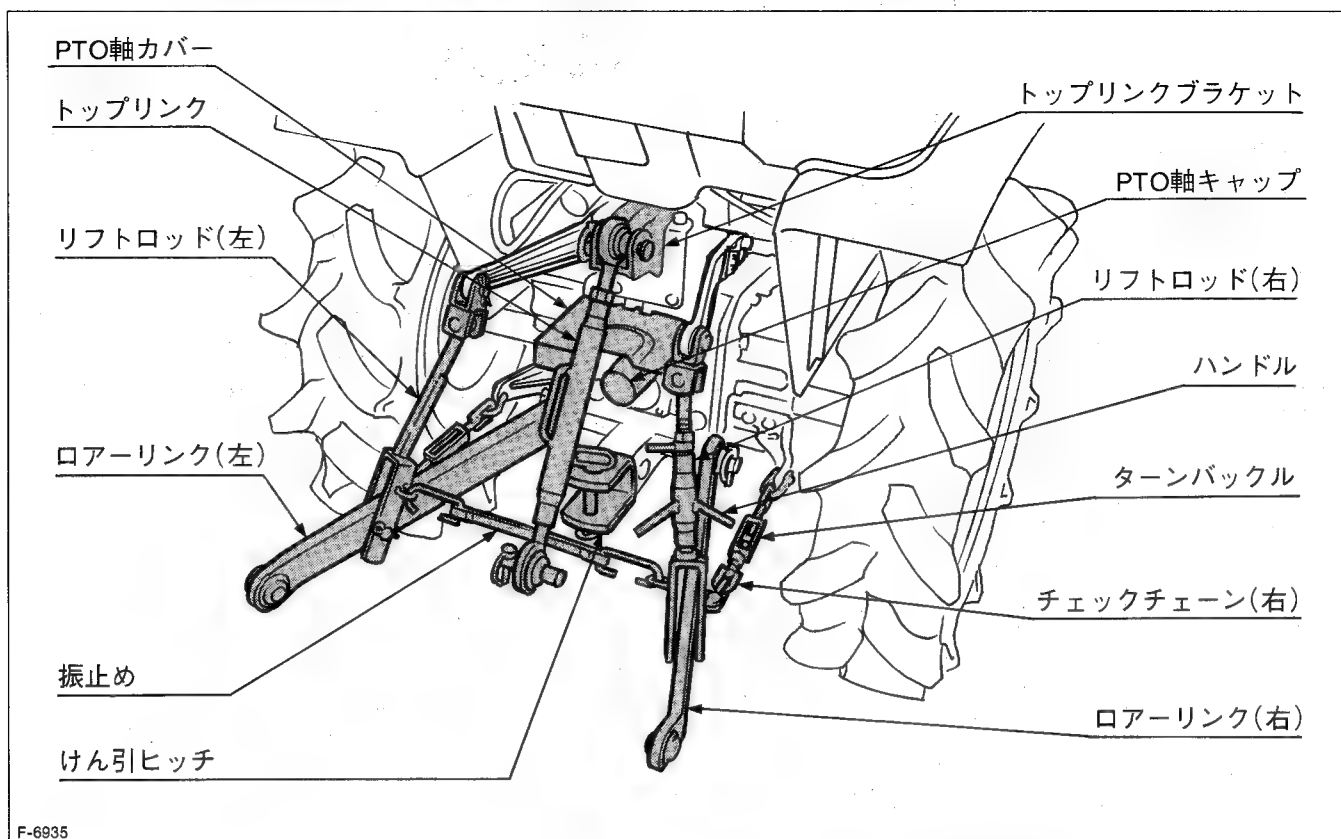
＊けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，左右の安定を良くする為，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。

■前輪

前輪の輪距は変更できません。

■後輪

後輪は，六角ホイールチューブと六角ハブによって，ピン1本とセットボルトで止められており，ピン穴の位置を変えることによって調節できます。

後輪の輪距は4段階に調節できます。(B52のみ3段階)

注)B52では一番内側の穴は使用しないでください。

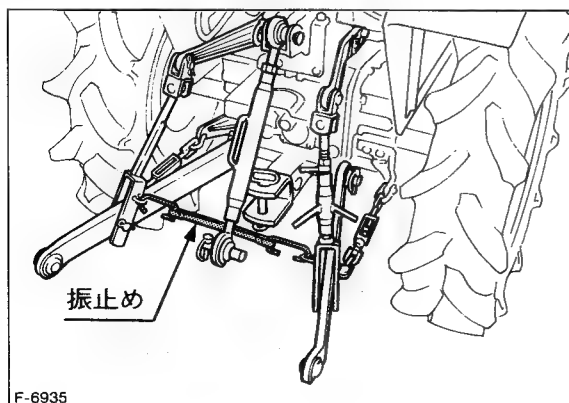
三点リンク装置の取扱い(一般作業機用)(オプション部品)

 注意

＊３点リンク装置を使用する場合は，必ずPTO軸カバーを取付けて使用してください。
＊PTO軸カバーの上に乗らないでください。
＊PTO軸を使わない場合は，必ずPTO軸キャップを取付けてください。
＊PTO軸キャップを使わない場合は，大切に保管してください。

■作業機を取付けないときの注意

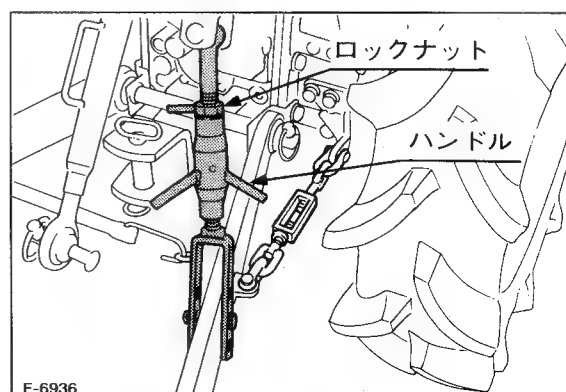
作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当たらないように,左右振止めをしておいてください。

■トップリンクの調節

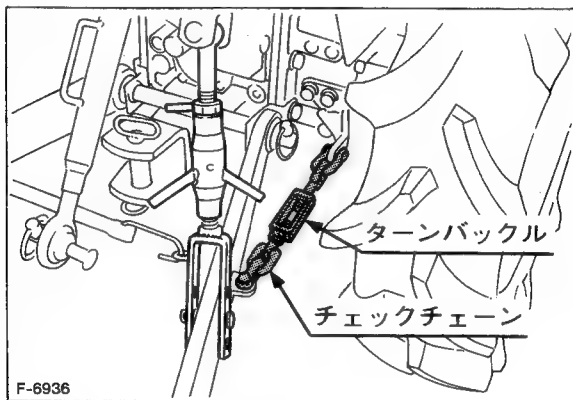
 注意

＊トップリンク調整ネジのねじ込み長さが，必ず1.5cm以上になるように確認してください。
▶もし怠ると……
落下による傷害事故を引起すおそれがあります。

(1)伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。
(2)トップリンク取付け位置は，作業機の種類によって違います。

■リフトロッドの調節

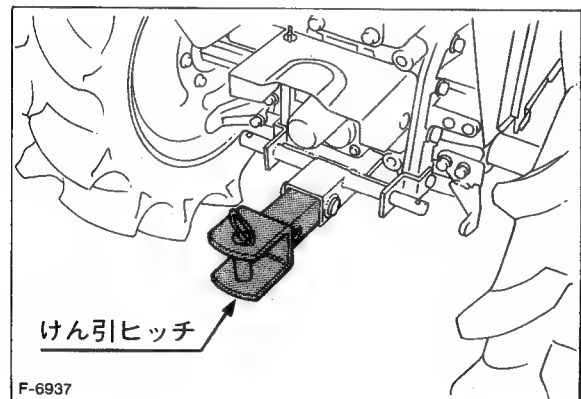
リフトロッド右には，伸縮用のハンドルが付いていますので，このハンドルを操作して，作業機の左右の水平を保つように調節してください。

■チェックチェーンの調節

ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。

作　業　機	チェーンの張り具合
プラウ，ハロー， サブソイラ， ディガー，	ゆるめる （作業機が横方向に5～6㎝動く程度）
ロータリ，モアー， ヘイレーキ，テッダ， リッジャ，カルチベータ	軽く締める

■けん引ヒッチの取扱い

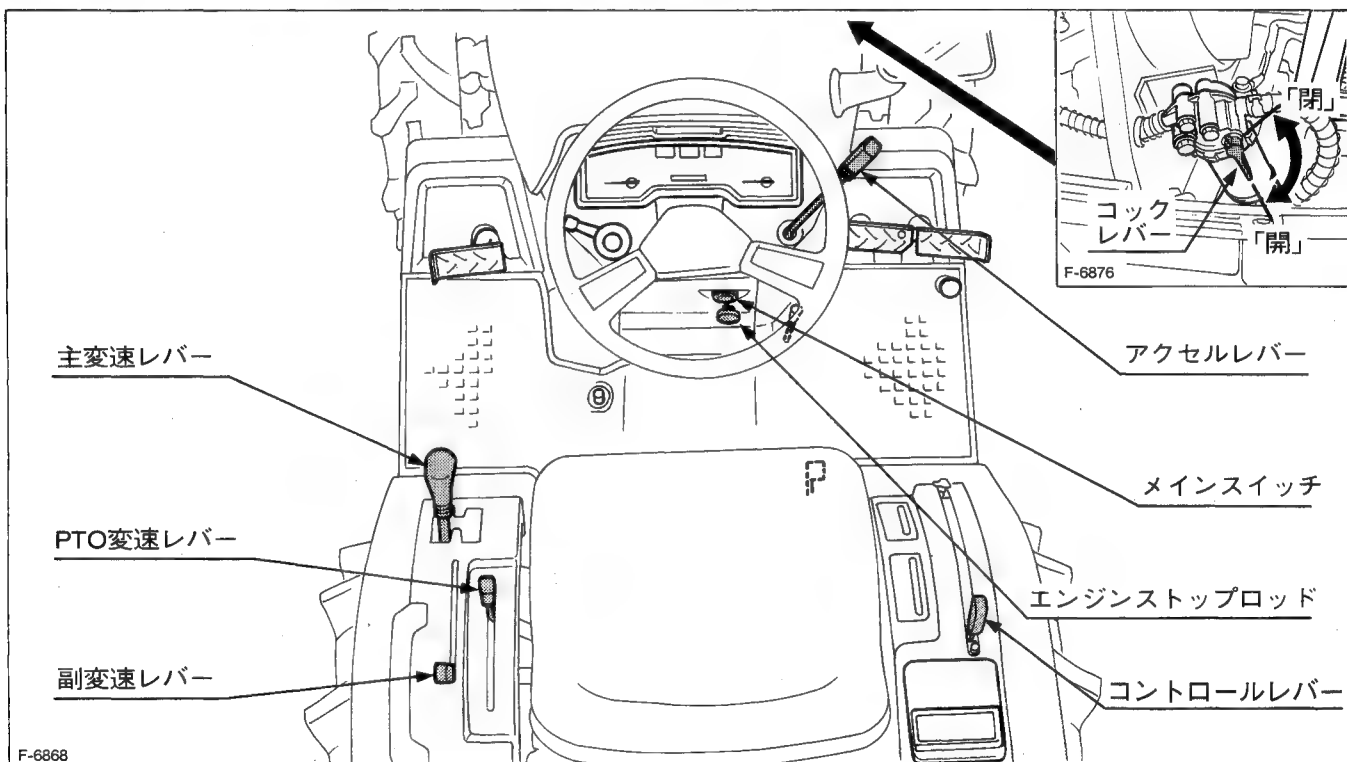
＊けん引作業をする場合は，必ずけん引ヒッチを使用し，トップリンクブラケットや車軸等でけん引しないでください。
転倒事故を引起こすおそれがあります。

＊3点リンクに取付け，PTO軸からユニバーサルジョイントで駆動するインプルメント（ロータリ，ブロードキャスタなど）を使用するときは，けん引ヒッチを外してください。そうしないとユニバーサルジョイントがけん引ヒッチに当って破損し，事故を引起すおそれがあります。

けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず購入先にご相談ください。

上手な運転のしかた

エンジンの始動と停止

警 告

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
＊トラクタに貼ってある▲表示ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やPTO変速レバーが“中立”かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
＊トラクタが突然動き出す恐れがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
＊室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

■始動のしかた

❶燃料コックを**“開”**にします。
❷エンジンストップロッドを押込みます。
❸主変速レバー及びPTO変速レバーを**“中立”**にします。
❹コントロールレバーを**“前方に倒し”**作業機を下げます。
❺アクセルレバーを**“中程”**まで引きます。
❻メインスイッチにキーを差込み，**“GL”(予熱)**位置に回し，グローランプが消灯すれば予熱完了です。但し，外気温が－5℃以下のときは，消灯後も約5秒間予熱してください。
　＊エンジンが暖まっている場合**“GL”(予熱)**は，不要です。
❼クラッチペダルを**“踏込み”**ます。
❽キーを**“ST”(始動)**位置に回します。
❾エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。自動的に**“ON”**にもどります。
❿クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま5分程度暖機運転しましょう。

重　要

＊クラッチペダルを踏込まないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

＊セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

＊エンジン回転中は，キーを“ST”(始動)位置にしないでください。セルモータ破損の原因になります。

■停止のしかた

❶アクセルレバーをいっぱい前へ**“押し”**てアイドリング状態にします。

❷エンジンストップロッドをいっぱい引張ると，エンジンは停止します。

補　足

＊エンジンストップロッドは，エンジンが完全に停止した後，元の位置まで押戻しておいてください。
エンジンストップロッドを引張った状態ではエンジンは始動しません。

❸キーを**“OFF”**にし，必ずキーは**“抜き”**ましょう。

ならし運転と暖機運転

■ならし運転について（最初の約60時間）

この期間中は，特に次のことを守ってください。

(1)急なスタート，急ブレーキは避けてください。

(2)フルスピードや無理な負荷をできるだけかけないようにしましょう。

(3)作業は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。

(4)悪路や傾斜地では，速度を落としゆっくりと走行しましょう。

■暖機運転について

始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，運転部分の焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

重　要

＊暖機運転中は必ず駐車ブレーキをかけましょう。

バッテリあがりの処置

注　意

＊バッテリがあがった場合，必ず車体からバッテリを取外して充電してください。バッテリを取外さずに他車のバッテリまたは充電器とブースタケーブルで接続してエンジンを始動すると，バッテリ端子と冷却ファンが近いため，ケーブルを外すとき指を切傷するおそれがあります。また，過電流により電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。
(バッテリの取扱いについては“簡単な手入れと処置”の“電気系統について”の項を参照)

走行運転のしかた

警　告

＊トラクタを発進するときは，前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。また安全フレームに当る障害物がないかも確認してください。

＊子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また必ずシートに座って運転してください。

＊溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。転落事故の危険性があります。

＊急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。

＊下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りるのは危険です。

＊負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。

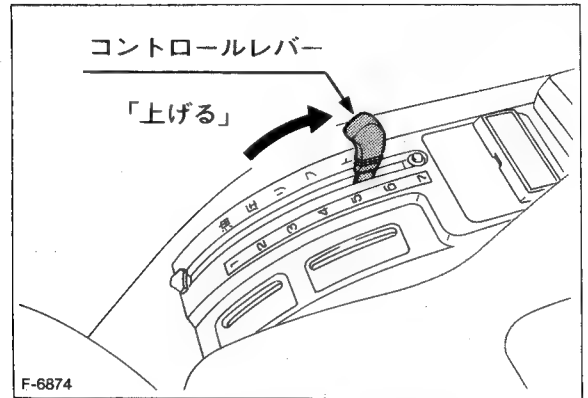
＊高速で旋回すると，横転する危険があります。デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。

＊運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

■発進・走行のしかた

❶左右のブレーキペダルは，必ず**“連結”**しておいてください。

❷エンジン回転をアイドリングから**“中速”**回転にします。

❸コントロールレバーを**“後方に引き”**作業機を上げます。

❹クラッチペダルを**“踏込み”**，主変速レバー及び副変速レバーを希望する位置に**“入れ”**ます。

❺駐車ブレーキを解除し，クラッチペダルをゆっくり離せば，トラクタが動き始めます。

重　要

＊走行中は変速することはできません。必ずクラッチペダルを踏込んでトラクタを停止させてから，変速操作をしてください。

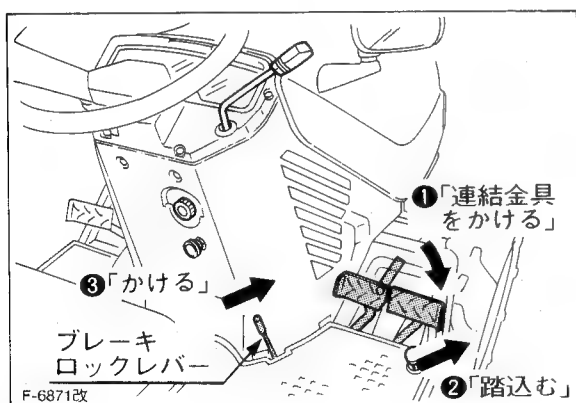
＊走行中は，クラッチペダルの上に足を乗せないようにしましょう。
足を乗せるとクラッチがすべっている状態になり摩耗が早くなります。

＊クラッチペダルの操作は，切るときは早く，つなぐときはゆっくり操作してください。
半クラッチ操作は，クラッチの摩耗を早めますので，できるだけ避けてください。

■停車・駐車のしかた

 注 意

＊駐車する時は，平坦でトラクタが安定する場所を選び，PTOを“切”，作業機を“下げ”，変速レバーを“中立”，駐車ブレーキを“掛け”，エンジンを“停止”してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災の恐れがあります。
＊格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラーやエンジンが十分冷えてから行ってください。火災の原因になります。
＊停車時，空吹かしをしたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，ワラなどに着火する恐れがあります。
＊トラクタから降りるときは，ロータリなどのPTO作業が完全に止まるまで待ってください。

❶アクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。
❷クラッチ及びブレーキペダルを踏込みます。
❸トラクタが完全に停止してから，主変速レバーを**“中立”**にします。
❹作業機を取付けている場合は、コントロールレバーをゆっくり**“前方に倒し”**作業機を下げます。
❺駐車ブレーキを確実にかけてください。

■旋回のしかた

 注 意

＊高速で回ると，横転する危険があります。デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと回ってください。

■坂道での運転

 警 告

＊ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
＊坂道では主変速を中立にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
▶惰性運転をすると,スピードが出すぎて制動不能や，転倒事故を引起こすおそれがあります。
＊急な坂では変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。

(1)坂道状況に応じた安全なスピードで，走行しましょう。
(2)登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
(3)下り坂ではエンジンブレーキを使いましょう。エンジンブレーキは車速を下げるほどよくききます。

■道路走行中の注意

 警 告

＊道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
連結しないとブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起こすおそれがあります。

 注 意

＊ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
＊道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊運転者のほかは乗せないようにしてください。
＊溝のある農道や両側が傾斜している農道を走行するときは，特に路肩に注意してください。
転落事故のおそれがあります。
＊トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。(道路運送車両の保安基準)作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。
＊道路走行時にはモンロ切換えスイッチを必ず“切”にして走行してください。

(1)公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
(2)踏切では，必ずいったん停止し，左右の確認をしてから，速やかに渡ってください。

補　足

＊作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において，“走行中に使用しない灯火”とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

■トラックへの積み・降ろし

注　意

＊アユミ板は，十分な強度・幅・長さ(傾斜が15度以下になる長さ：トラックの荷台高さの4倍以上)のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊積み・降ろしは，あらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。
＊トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを“連結”しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

■ほ場への出入り時の注意

警　告

＊左右のブレーキペダルは，必ず“連結”しておいてください。
＊ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。アユミ板などを利用してください。
＊ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ほ場への出入りの際はあらかじめ遅い車速で運転し，変速しないでください。

(1)登り始めは，作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。
トクラタの前・後輪があぜに上がると同時に作業機を上げます。
常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
(2)4WDは，あぜなどバックで上がると格段に能力が増します。

■運転中の作動点検

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，絶えず注意してください。

◆オーバヒートしたときの処置

警　告

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

オーバヒート(水温計の針が“H”にあるとき)したときは，
❶作業を中止し，
❷エンジンを約5分間アイドリング回転してから，
❸エンジンを停止し，安全ポイントに注意して，次の点検・整備をしてください。
(1)冷却水の量(不足)，及び水もれがないか。
(2)防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に，泥やゴミが付着していないか。
(3)ファンベルトのゆるみがないか。

◆次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。

(1)回転が急に下降したり上昇したりする。
(2)突然，異常な音をたてた。
(3)排気色が急に黒くなった。
(4)運転中，オイルランプが点灯した。
●点検整備は，購入先にご相談のうえ，その指示にしたがってください。

上手な装置の使い方

■デフロックの使い方

 注 意

＊デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず外してください。

＊道路走行時は，絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは，次のような場合に役立ちます。

(1)農場への出入りやフロントローダ作業時などで，片車輪がスリップして直進できないとき。

(2)農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行できなくなったとき。

(3)プラウ作業など大きいけん引力を必要とする作業で，車輪がスリップしたとき。

重 要

＊デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてください。

＊抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。

＊デフロックを使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

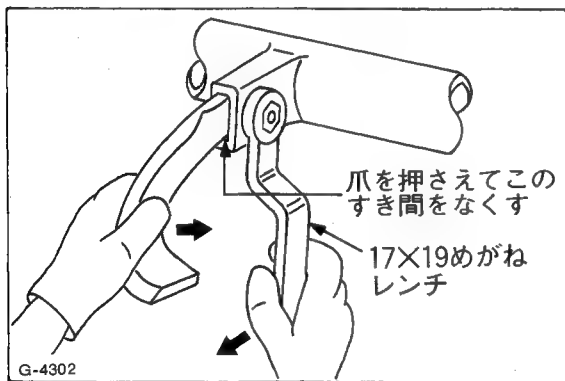
ロータリについて

トラクタとの組合せ

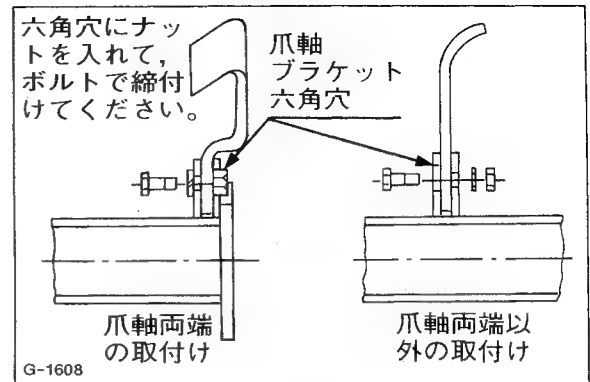
トラクタ		A-13	A-14	B52
ロータリ	サイド	RS11・RS12・RS14		RS12E・RS14E
	センタ	RK11・RK13・RK8W		

耕うん爪の取付け方

注 意

＊爪の交換及び増締めをするときは，傷害事故を引起すおそれがありますのでつぎの事をまもってください。
①トラクタを平たんな広い場所に置く。
②エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。
③落下調整レバーを，右いっぱいに回し，ロータリの落下を防止する。
④爪軸の下に木の台などをし，より安全性を確保する。
⑤ボルト・ナットを締付ける場合は，めがねレンチが確実に入ったか確認する。

補　足

＊めがねレンチで，力いっぱい締付けてください。

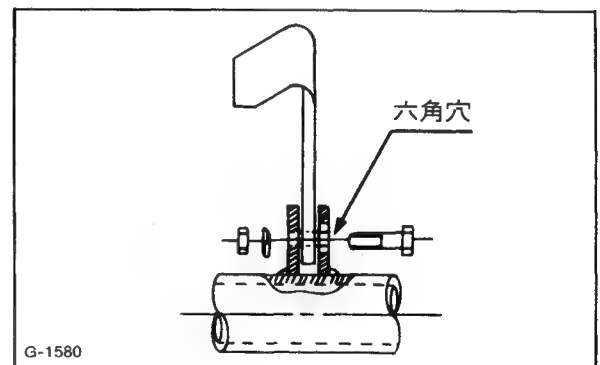
■サイドドライブ仕様

〔サイドドライブロータリ〕

爪軸両端（白ペンキを塗ったブラケット）	爪軸両端以外（白ペンキを塗ったブラケット以外）
322号爪	321号爪

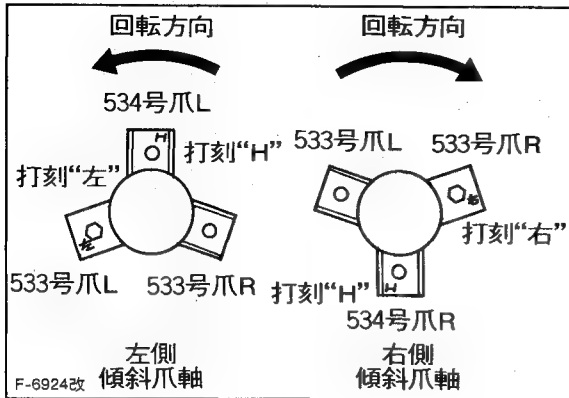
■センタドライブ仕様

◆爪軸

(1)321号爪をブラケットの六角穴と逆方向に，曲がりがくるようにして取付けてください。（但し，白ペンキを塗ったブラケットはその逆に取付けてください。）

(2)ボルトは六角穴側より入れ，反対側よりバネ座金を入れ，ナットで締付けてください。

◆傾斜爪軸

(1)"H"の刻印のあるブラケットには，534号爪を内向きに取付けてください。

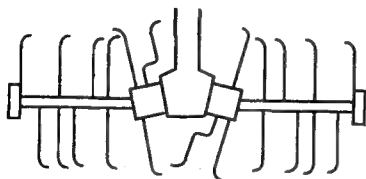
F-6924改

(2)残りのブラケットには，533号RL爪を上図のように取付けてください。

補　足

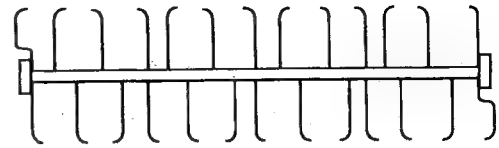
＊爪を抜いて作業すると，爪のバランスが狂い，振動や騒音がでることがありますので，ご注意ください。
＊耕うん爪は，クボタ純正部品を使用してください。

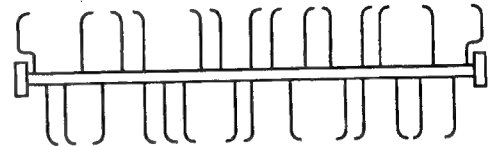
■カンショマルチ用の配列

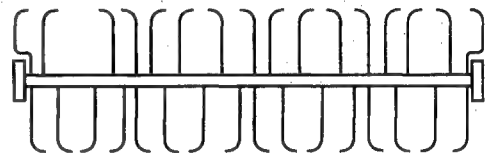
◆RK 8 W・RK11・RK13

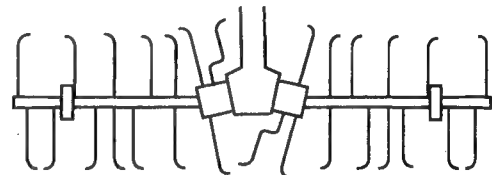
爪軸の延長部を取外すことにより耕幅を800mmにできます。

F-6889

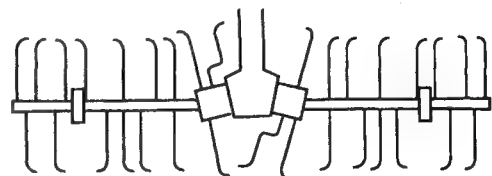
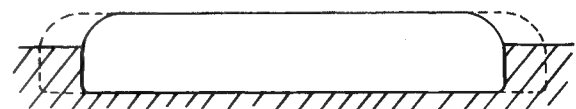
■均平耕法の配列

◆RS11

F-6877

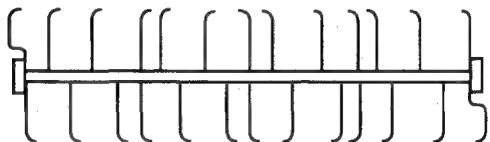
◆RS12・RS12E

F-6878

◆RS14・RS14E

F-6994

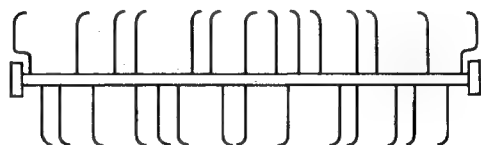
◆RK 8 W・RK11

F-6879

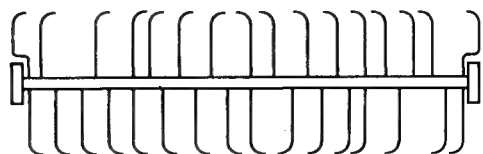
◆RK13

F-6880

G-1583　（点線は延長爪軸付きの場合を示す。）

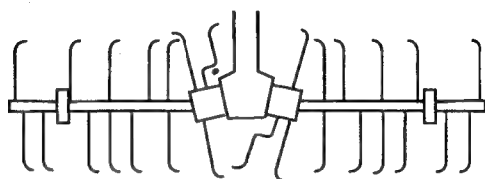
■１つ盛り耕法の配列

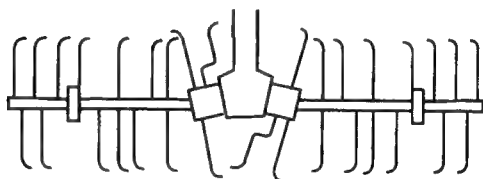
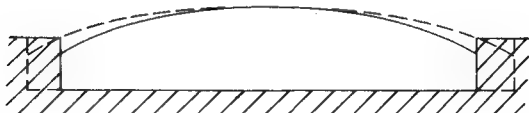
爪軸中央を基準とし他の爪はすべて内向きになるように取付けてください。
このとき，ロータリカバーを上げて，カバーが耕うんした土壌に当らないようにします。

◆RS11

F-6881

◆RS12・RS12E

F-6882

◆RS14・RS14E

F-6995

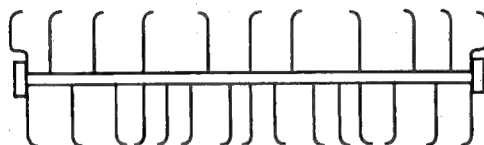
◆RK 8 W・RK11

F-6883

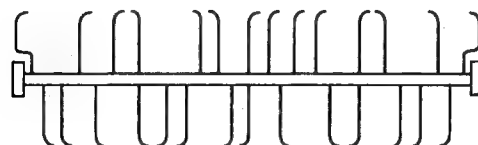
◆RK13

F-6884

G-1586

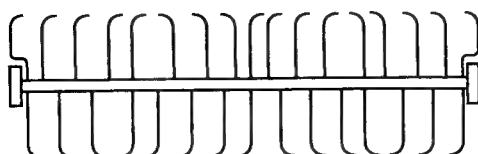
■２つ盛り耕法の配列

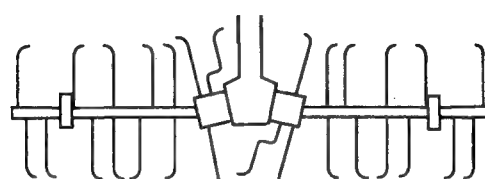
〔畝立て作業（１連畝立て）の配列〕

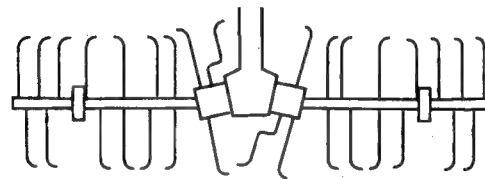
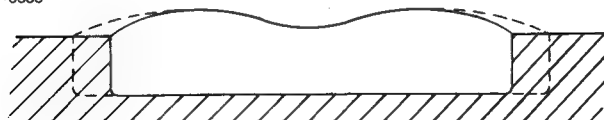
爪の配列は下図のように取付けてください。
このとき，ロータリカバーを上げて，カバーが耕うんした土壌に当らないようにします。

◆RS11

F-6885

◆RS12・RS12E

F-6886

◆RS14・RS14E

F-6996

◆RK 8 W・RK11

F-6887

◆RK13

F-6888

G-1589

ロータリの調整

注 意

ロータリ各部の調整・着脱・交換をする場合は，つぎの事をまもってください。傷害事故を引起すおそれがあります。

＊トラクタを平たんな広い場所に置く。

＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。

＊ロータリの落下を防止する落下調整レバーを右いっぱいに回し，ロータリの落下防止をする。

＊爪軸の下に木の台などをし，より安全性を確保してから行なってください。

■適応作業速度

作業目的と耕作地の条件に合せて，車速を決めてください。

下表は，作業のめやすとして参照してください。

変速レバー位置と作業			
車速＼PTO	1段	2段	逆転（X仕様）
1速	水田 畑作（荒起し 畝立て）	水田畑作（細土耕うん 一般耕うん 畝 立 て）	土寄せ
2速			
3速			
4速	代かき作業		

■ロータリカバーの調整

注 意

＊ロッドグリップを操作するときは，必ずロッドグリップの握り部(丸棒部)だけを持って操作してください。傷害事故を引起すおそれがあります。

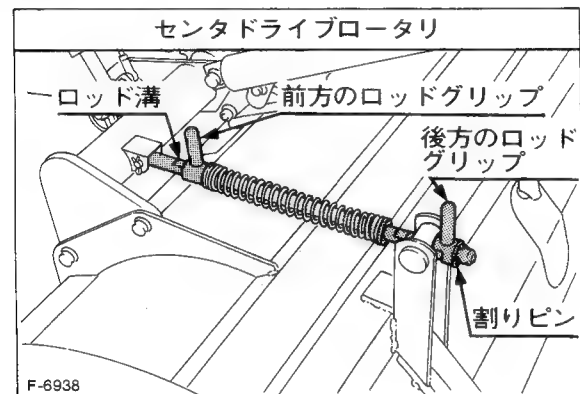
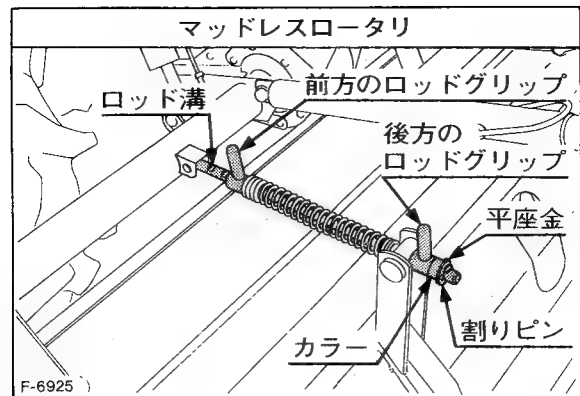
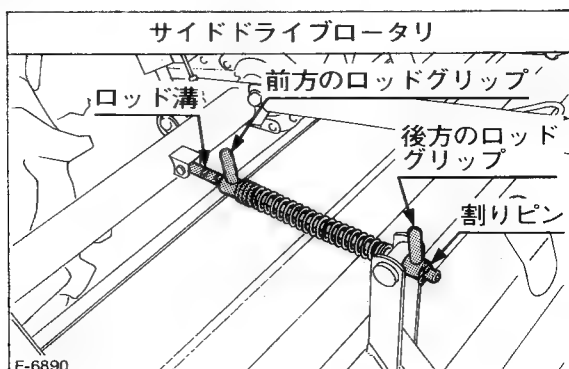
【RS12E・RS14Eを除く】

◆後方のロッドグリップの位置

後方のロッドグリップは通常一番後のロッド溝にセットしてください。特殊な作業，爪の交換等，カバーを持上げて使用する場合は条件に合わせてロッド溝をお選びください。

サイドドライブロータリ

マッドレスロータリ

センタドライブロータリ

◆前方のロッドグリップの位置

前方のロッドグリップは接地圧条件に合わせてロッド溝をお選びください。(前から1番目，2番目，3番目…と取付け位置を後方に下げるにつれ押付力は強くなります。)

●押付力を強くしますと，均平，整地に効果があります。

【RS12E・RS14E】

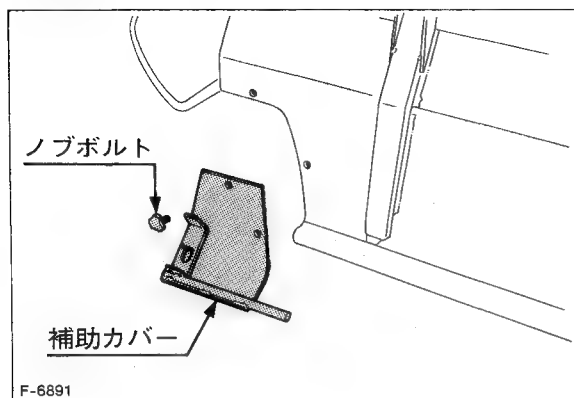
◆後方のスナップピンの位置

後方のスナップピンは通常一番後のロッド穴にセットしてください。特殊な作業，爪の交換等，カバーを持上げて使用する場合は条件に合わせてロッド穴をお選びください。

◆前方のスナップピンの位置

前方のスナップピンは接地圧条件に合わせてロッド穴をお選びください。(前から1番目，2番目，3番目…と取付け位置を後方に下げるにつれ押付力は強くなります。)

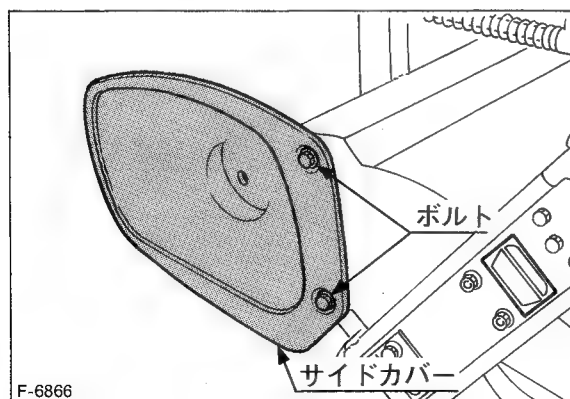
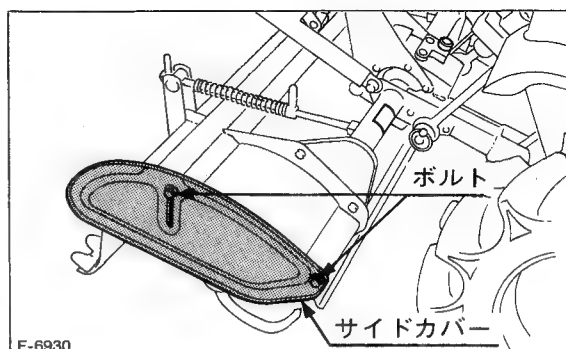
●押付力を強くしますと，均平，整地に効果があります。

◆補助カバーL・Rの取外し
(RK8W・RS12E・RS14Eは除く)
後２輪併用で枕地を少なくする，又は片培土作業をするため，補助カバーを取外す場合は，ノブボルトを取外し，補助カバーを外してください。

(RS12E・RS14Eは別売オプション)

補　足
＊補助カバーを取外した後，ノブボルトは紛失しないように保管しておいてください。

◆サイドカバーの調整

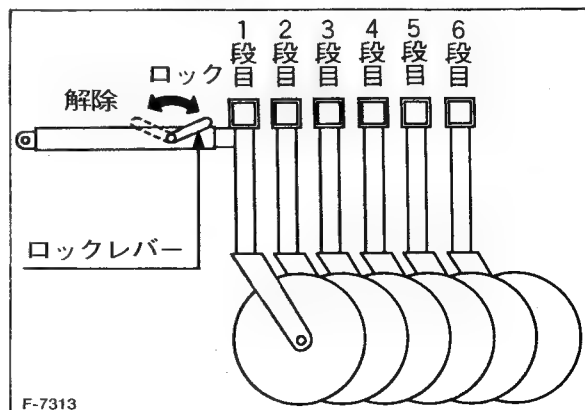
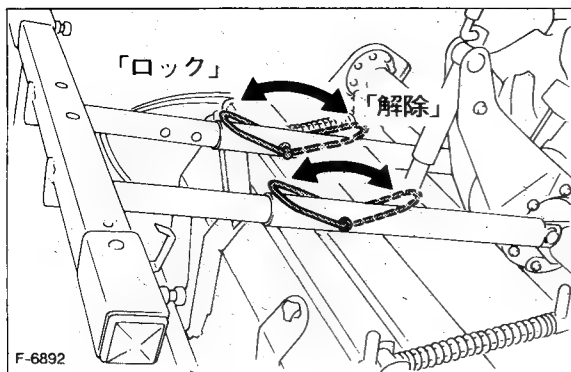
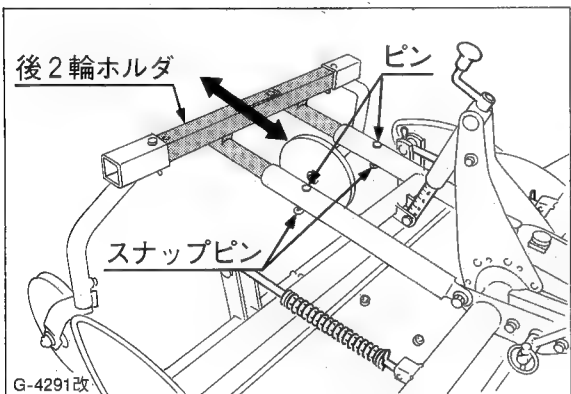
注　意
＊サイドカバーを外した状態でロータリを使用しないでください。傷害事故を引起すおそれがあります。

【サイドドライブ仕様】
深起し耕うんを行なう場合は，左右のサイドカバーを上に上げて使用してください。
細土耕うんを行なう場合は，左右のサイドカバーを下に下げて使用してください。

【センタドライブ仕様】
石の多いほ場・草地での作業や深起し耕うんを行なう場合は，左右のサイドカバーを上に上げて使用してください。

■後２輪の調整

(RS11-A・VA・K，RS12-A・VA，RS14-Aは除く……後２輪なし仕様)
後２輪は前後方向に６段階の調整ができますので，作業に合せて調整してください。

◆後２輪ホルダの前後調整
作業により次のように調整してください。

後2輪無	培土作業	補助カバー付き，無し	前から１段目
後2輪使用	一般耕うん作業	補助カバー付き	前から5，6段目
		補助カバー無し	前から1～6段目
	片培土作業	補助カバー無し	前から1，2段目

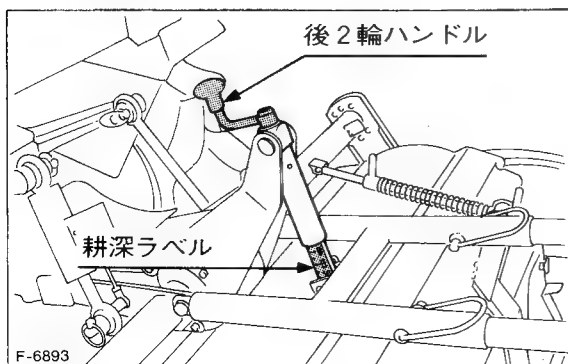
【RS12E・RS14Eを除く】

【RS12E・RS14E】

補　足

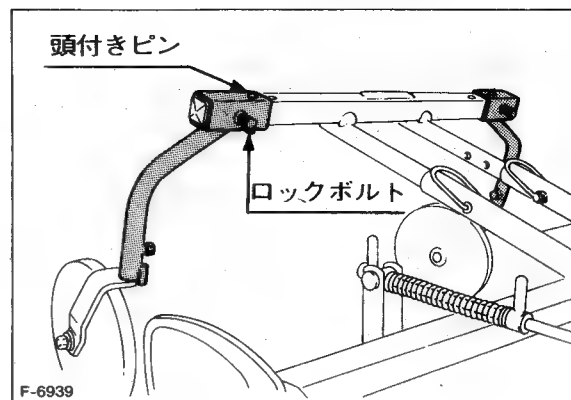
＊水田(湿田)で，トラクタの性能を十分発揮させるため，後2輪はロータリカバーに接触しない範囲で，接近させて使用してください。

◆後2輪ハンドルによる調整

注　意

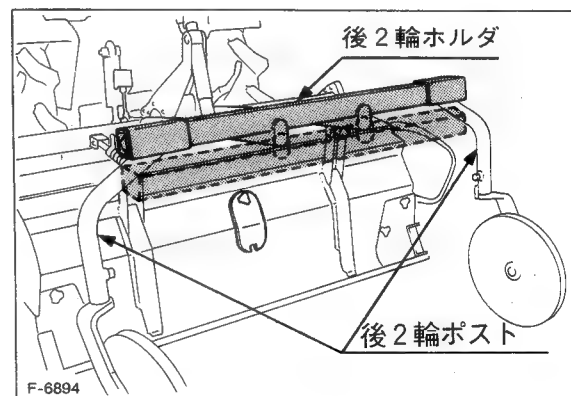
＊トラクタを前進させながらの耕深調整は，絶対にやめてください。傷害事故を引起すおそれがあります。もし側方及び前方から調整する場合は，トラクタを停止させてから行なってください。

後2輪ハンドルを回すことにより，耕深を自由に選ぶことができます。また耕うん深さ調整の目安として，耕深ラベルの目盛りをご使用ください。
また，後2輪ハンドルは前側で止めてください。

◆後2輪幅の調整

作業及び耕幅に合せて，後2輪を移動させてください。

■後2輪ホルダの上下調節

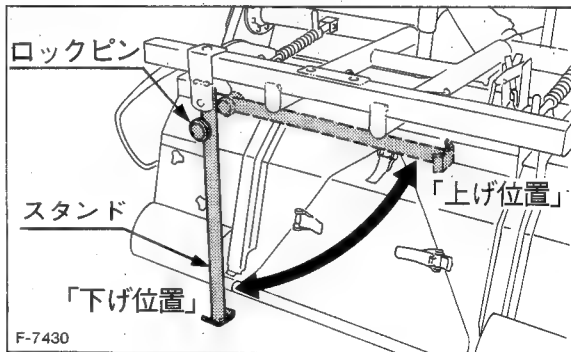
注　意

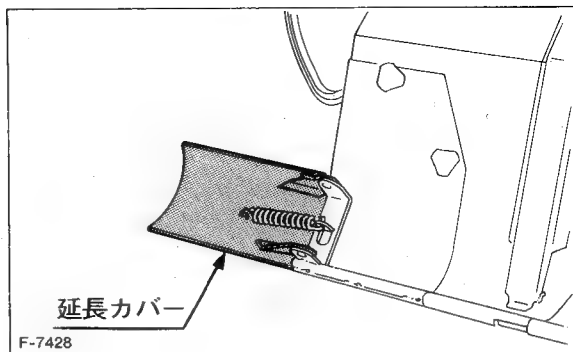
＊後2輪を使用しない場合は取り外してください。後2輪を上方に反転させての耕うん・移動は傷害事故を引起こすおそれがあります。

後2輪装置は，乾田・湿田別によって，後2輪ホルダの差換えで取付け高さが変えられます。
湿田，代掻き耕うんの場合は下側に取付け，乾田耕うんの場合は上側に取付けてください。
下側に取付けるときは，後2輪ポスト左・右も取付けを変更してください。

■スタンドの調整
【RS11-A・VA，RS12-A・VA，RS14-A】

スタンドは，ロックピンを押しながら上げ下げができます。

重 要

＊スタンドは耕うん時，上げ位置にしてください。

■延長カバーの使用法
【RS11-A(B・V・VB)，RS12-A(B・V・VB)，RS14-A(B)】

延長カバーを使用すると耕うん跡がきれいに仕上ります。カバーを持上げると簡単に折りたたむことができます。

■畝立機の取付け(RS11-Kは除く)

(別売オプション)

注 意

＊畝立機を使用しない場合は取り外してください。畝立機を上方に反転させての耕うん・移動は傷害事故を引起こすおそれがあります。

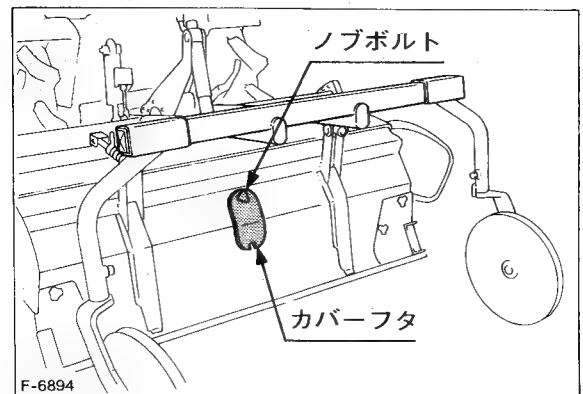
＊畝立機を使用しない場合，Vカバーまたはカバーフタを外したままでロータリを使用しないでください。傷害事故を引起こすおそれがあります。

◆標準カバー仕様の場合

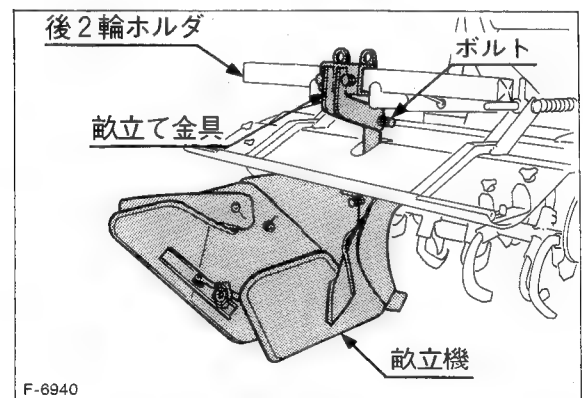
❶爪の配列は外向きにします。

❷後2輪は取外します。

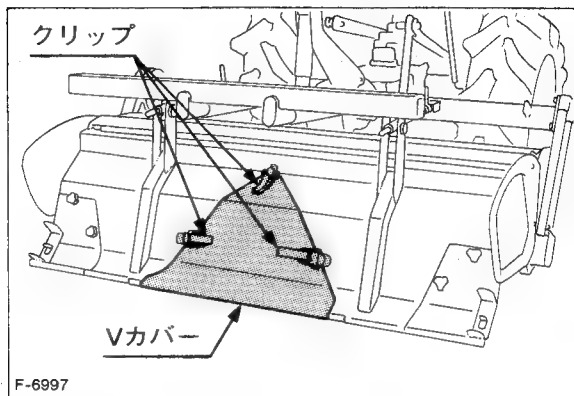
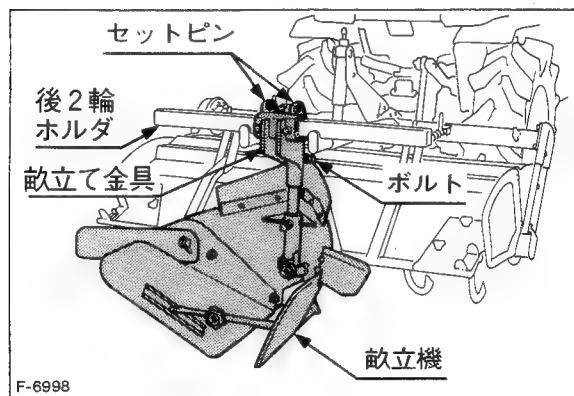
❸後2輪ホルダは，前後調整の1段目(1番縮めた状態)にしてください。(25ページ参照)

❹ノブボルト(RS12E・RS14Eは蝶ボルト)をゆるめ，カバーフタを取外します。取外したカバーフタは，紛失しないように工具箱に入れておきます。

❺畝立て金具を後2輪ホルダに装着してください。

❻ロータリカバーを上げて固定します。

❼ロータリカバーの下側から畝立機を金具に取付け，ボルトで締付けてください。

❽ロータリカバーを下げて畝立機の上に乗せます。

◆Vカバー仕様の場合

❶爪の配列は外向きにします。
❷後２輪は取外します。
❸後２輪ホルダは，前後調整の１段目の位置にしてください。（25ページ参照）
❹クリップを解除し，Vカバーを下方向に動かして取外します。

❺畝立機は，畝立て金具の穴に下から差込み，ボルトで取付けます。
❻後２輪ホルダに畝立機をセットピンで取付けます。
❼ロータリカバー押えバネを，フリーにするか又は少し縮めて，後部カバーを軽く地面に接触させてください。

補　足

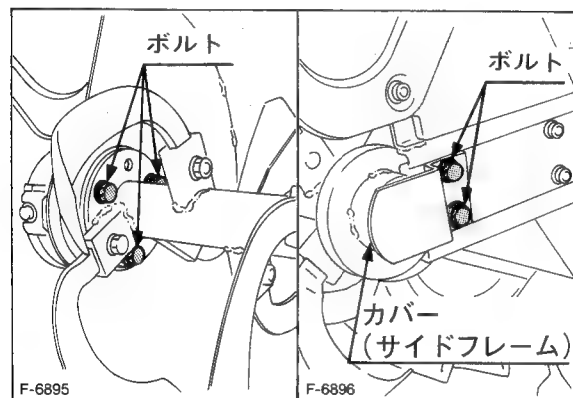
＊作業状態により畝立機の角度や高さを調整してください。

■爪軸交換のしかた

【サイドドライブ仕様】

注　意

＊トラクタを平たんな場所においてください。
＊エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけてください。
＊ロータリを持上げ，落下調整レバーを右いっぱいに回してロータリの落下を防止してください。

(1)ロータリを持上げ，落下調整レバーを回して，油圧をロックします。
(2)チェーンケース側爪軸取付けボルト（３本）（４本.K仕様），及びサイドフレーム側ベアリングケース取付けボルト（２本）をゆるめます。

※RS12E，RS14Eにはカバー（サイドフレーム）はありません。

(3)落下調整レバーを少し左に回し，耕うん爪が水平地面上に着くまでゆっくりと降ろした後で，ボルトを外して，爪軸を交換します。
(4)このとき，別売りの爪軸交換スタンドアッシ（品番98606−48430）を使用すると，より簡単です。

【センタドライブ仕様】

(1)ロータリを持上げ，落下調整レバーを回して，油圧をロックします。
(2)延長爪軸（左・右）をボルト（３本）で取外します。
(3)爪軸（左・右）を爪軸取付けボルト（１本）で取外して，爪軸を交換します。

重　要

＊取付けは，外したボルト，ゆるめたボルトが作業中にゆるまないように，確実に締付けておいてください。

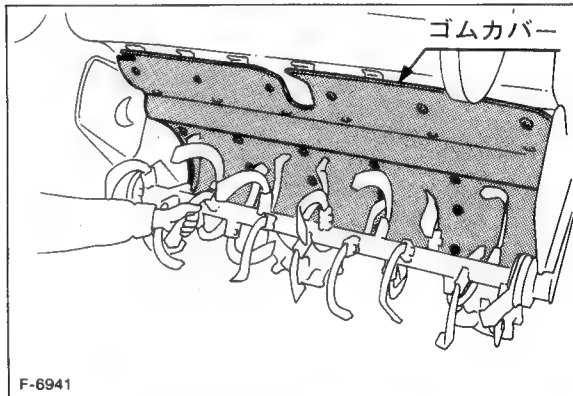
補　足

＊爪軸は，爪軸端部ブラケットの“左”の刻印が，チェーンケース側にくるように取付けてください。

マッドレスロータリ【SC仕様】の上手な使い方

 注 意

傷害事故の防止のため，ゴムカバーの装着確認をする場合，次の事をまもってください。
＊トラクタを平たんな広い場所に置く。
＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。
＊ロータリの落下防止のため，落下調整レバーを右いっぱいに回して締込む。
＊爪軸の下に木の台などをし，より安全性を確保する。

作業前に次の項目を点検してください。
(1)ゴムカバーの装着確認
●ゴムカバーと爪が接触するぐらいにたるみがないか。

(2)ゴムカバーの状態確認
●大きな破れや傷・小さな貫通穴がないか。
もしあれば補修してください。処置方法は購入先にご相談ください。

補修剤

品　　名	品　　番
アースパッチアッシ	07909-4949-9

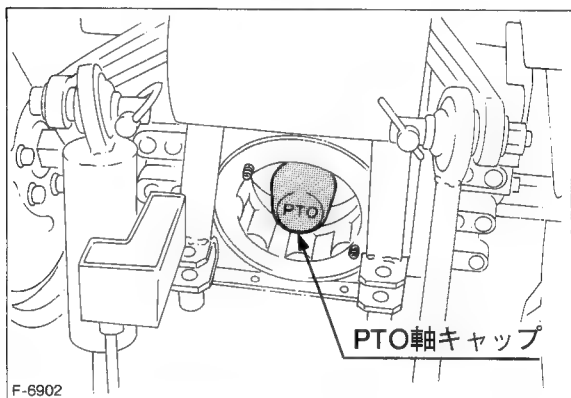
(3)リベットの確認
●リベットの外れや外れかかっているものがないか。
もしあれば補修してください。処置方法は購入先にご相談ください。

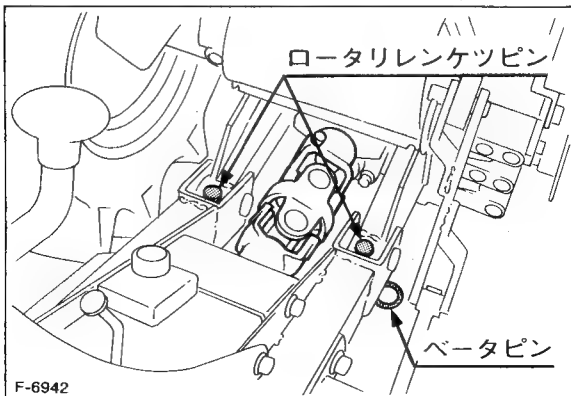
補 足

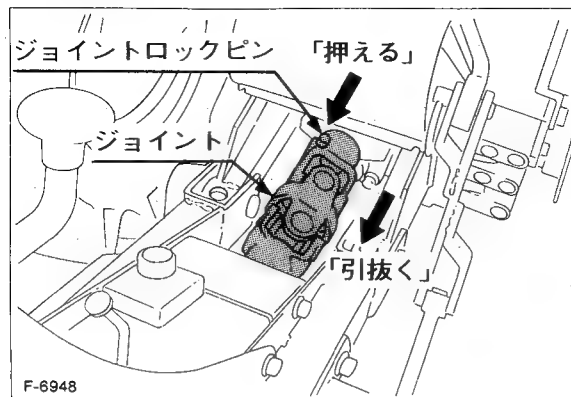
＊角張った石の多いほ場では，マッドレスロータリの使用を控えてください。
＊ゴムカバーに大きな破れやキズが発生した場合は，すみやかに補修してから使用してください。
＊ロータリを地表に降ろしたままバックしないでください。耕うん爪でゴムカバーを損傷させる恐れがあります。
＊普通爪は使用しないでください。
＊土が付着する場合でも，翌日に土がかわいてから耕うんしますと，付着した土がはく離しやすくなります。
＊ゴムカバーに付着している土を取除く場合，鋭利な物(ナイフ，ドライバー等)の使用はさけてください。

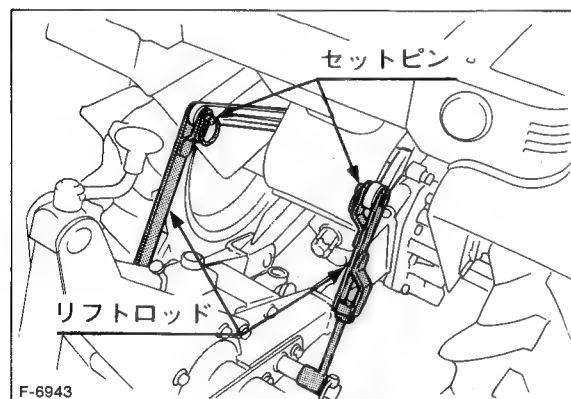
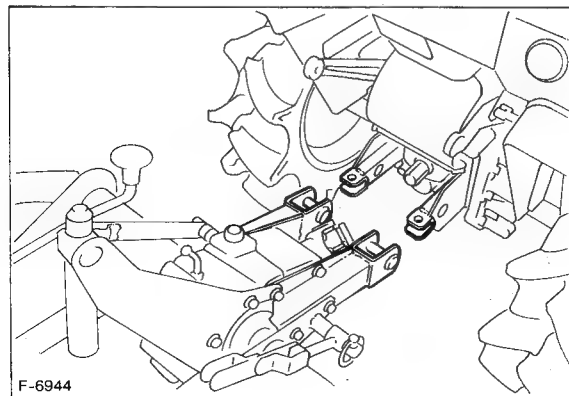
ロータリの着脱のしかた

 注　意

＊ロータリの取付け・取外しは,平たんな場所を選び,トラクタとロータリの間には立たないでください。又，連結部品を着脱する場合はエンジンを止めて駐車ブレーキを掛けてください。
＊ロータリの着脱時は，必ず後２輪またはスタンドを取付けてください。
＊ロータリを外した状態で，PTO軸を回転させないでください。
＊PTO軸を使わない場合は，必ずPTO軸キャップを取付けてください。
＊PTO軸キャップを使わない場合は，大切に保管してください。
（PTO軸キャップは，出荷部品袋に入っています。）

■取外し方【標準仕様】

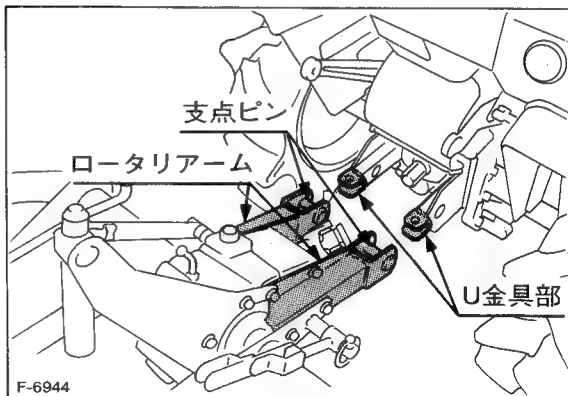
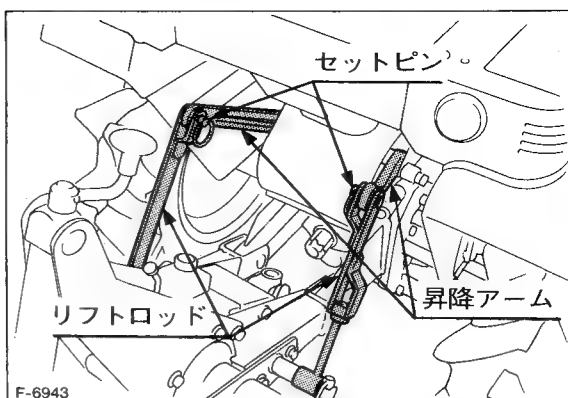
❶コントロールレバーでロータリを耕うん爪の先端が，地上から約10cmの位置になるまで降ろします。
❷エンジンを停止し駐車ブレーキをかけて，落下調整レバーを油圧ロックします。
❸ベータピンを抜き，ロータリレンケツピンを抜きます。

❹ジョイントロックピンを押え，ロータリ側へジョイントを引抜きます。

補　足

＊ジョイントを引抜いた状態では，ジョイントはロータリ側の軸に差込まれたままになりますが，ロータリを下向きにすると脱落するので，紛失しないよう注意してください。

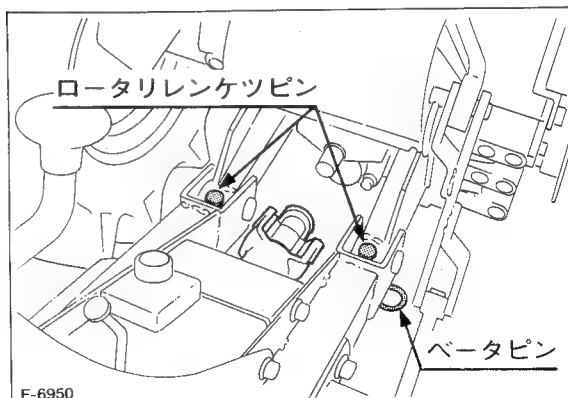
❺落下調整レバーで油圧ロックを解除し，ロータリの爪をコントロールレバーで接地させ，リフトロッド左右のセットピンを抜きます。

❻ロータリの後２輪ホルダを持って，静かに後方に引張ると，ロータリが外れます。

■取付け方【標準仕様】

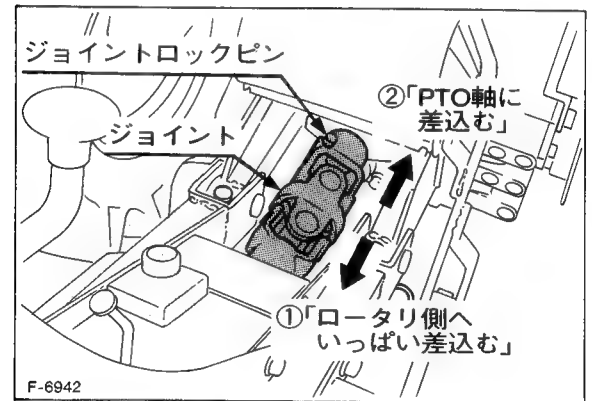
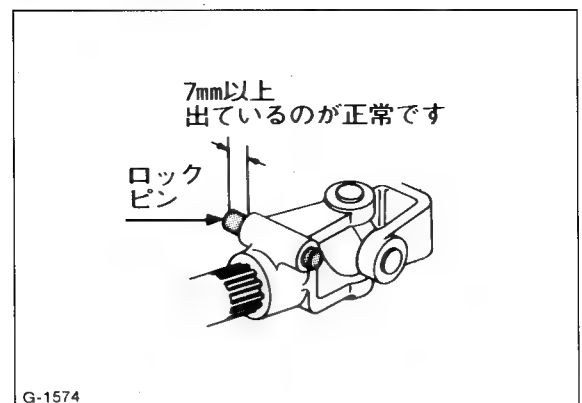
路面の平らな場所を選び，取外しと逆の方法で行ないます。

❶トラクタの取付け部が，ロータリの取付け部と接触するまで，トラクタを後進させて駐車ブレーキをかけます。

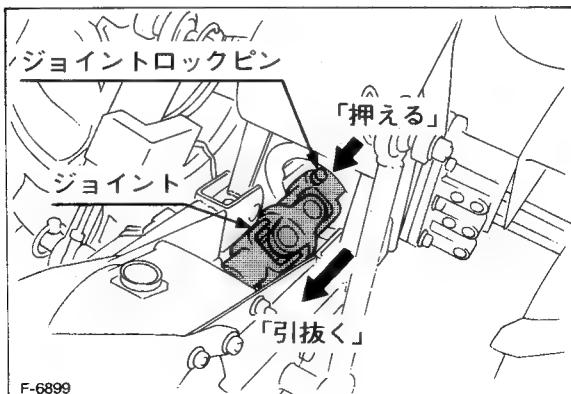
❷２点リンクブラケットのU金具部に，ロータリアームの支点ピンを合せます。

❸コントロールレバーで，昇降アームをいっぱい下げ，左右のリフトロッドと昇降アームを，セットピンで連結します。

❹連結が終ると，コントロールレバーで，ロータリを約10cm吊上げてエンジンを停止し，落下調整レバーで油圧ロックしてからロータリレンケツピンを差込み，ベータピンで止めます。

❺ロータリ側へジョイントをいっぱい差込み，ジョイントロックピンを押え，トラクタ側のPTO軸にセットします。

補　足

＊ジョイントロックピンが作動しにくいときは，注油すると軽く動きます。

警　告

＊ユニバーサルジョイントのロックピンが，正確に溝にはまったかどうかの確認は，ピンの頭が７mm以上出ているか確認してください。

■取外し方【M仕様】

❶ロータリの爪をコントロールレバーで接地させ，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけて落下調整レバーを油圧ロックします。

❷モンローマチック切換えスイッチを“切”にします。

F-6875

❸ベータピンを抜き，ロータリレンケツピンを抜きます。

F-6898

❹ジョイントロックピンを押え，ロータリ側へジョイントを引抜きます。

F-6899

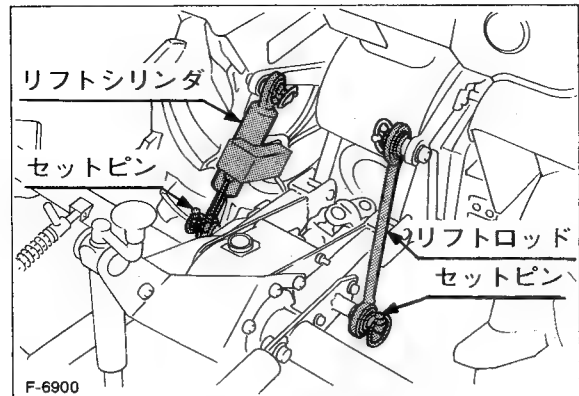
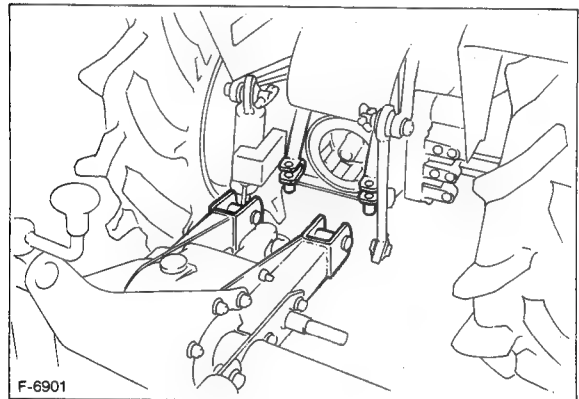
補　足

＊ジョイントを引抜いた状態では，ジョイントはロータリ側の軸に差込まれたままになりますが，ロータリを下向きにすると脱落するので，紛失しないよう注意してください。

❺セットピンを抜いて，ロータリからリフトロッド及びリフトシリンダを外します。

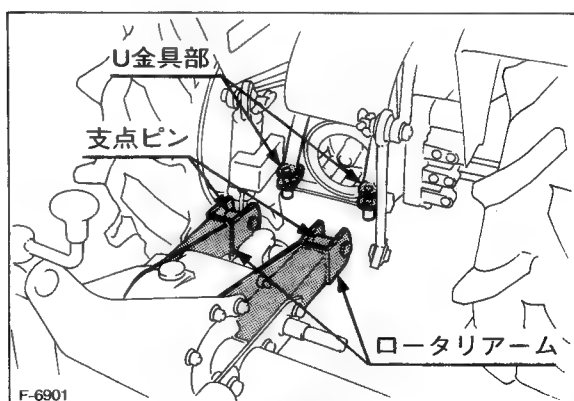
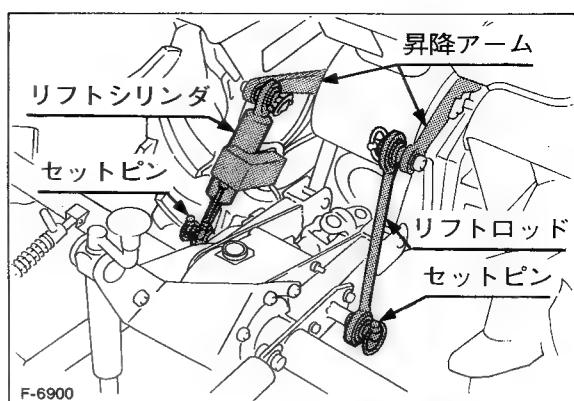
F-6900

❻ロータリの後２輪ホルダを持って，静かに後方に引張ると，ロータリが外れます。

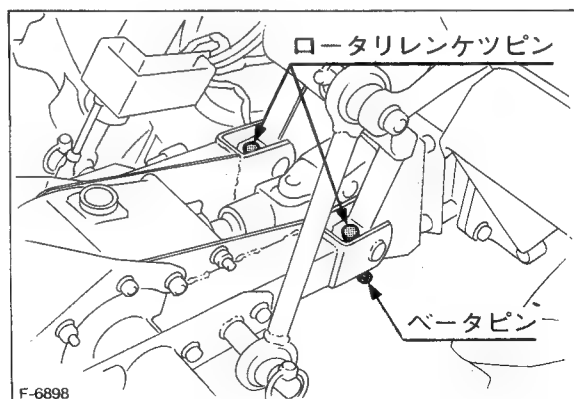
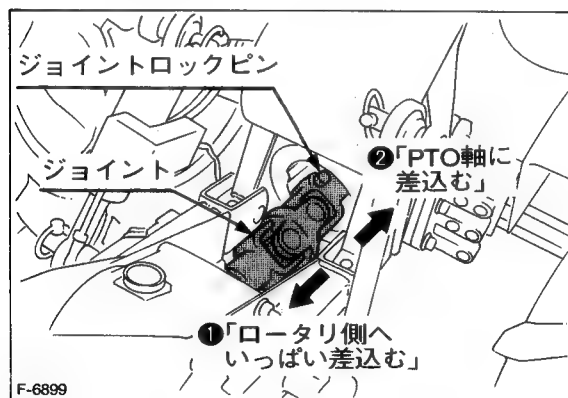
F-6901

■取付け方【M仕様】

路面の平らな場所を選び，取外しと逆の方法で行ないます。

❶トラクタの取付け部が，ロータリの取付け部と接触するまで，トラクタを後進させて駐車ブレーキをかけます。

❷2点リンクブラケットのU金具部に，ロータリアームの支点ピンを合せます。

❸コントロールレバーで，昇降アームをいっぱい下げ，リフトロッド及びリフトシリンダをセットピンでロータリに止めます。

❹連結が終ると，コントロールレバーで，ロータリを約10cm吊上げてエンジンを停止し，落下調整レバーで油圧ロックしてからロータリレンケツピンを差込み，ベータピンで止めます。

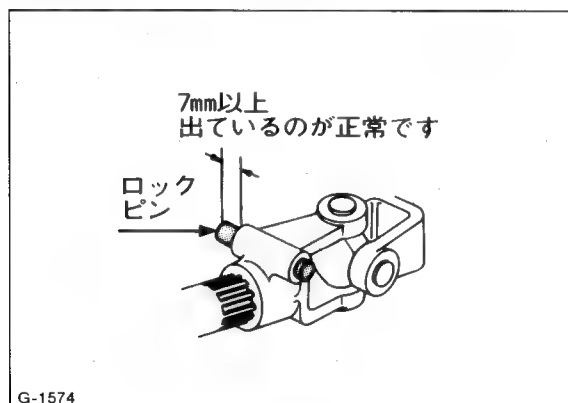
❺ロータリ側へジョイントをいっぱい差込み，ジョイントロックピンを押え，トラクタ側のPTO軸にセットします。

補　足

＊ジョイントロックピンが作動しにくいときは，注油すると軽く動きます。

重　要

＊M仕様のロータリを着脱するときは次の工程を確実に行なってください。

〔 ロータリ取外し前：モンローマチック切換えスイッチを“切”にする。
ロータリ取付け後：モンローマチック使用時にスイッチを“入”にする。 〕

 警　告

＊ユニバーサルジョイントのロックピンが，正確に溝にはまったかどうかの確認は，ピンの頭が7mm以上出ているか確認してください。

■取外し方【A仕様】

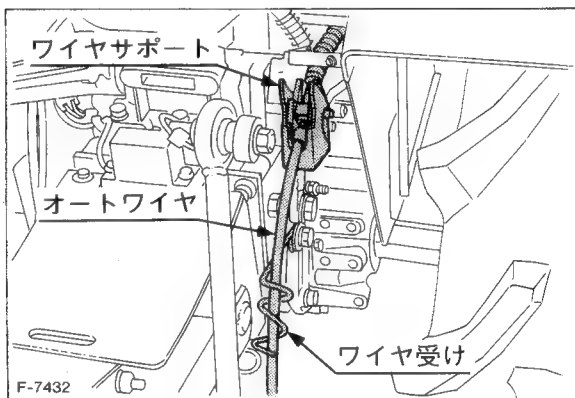
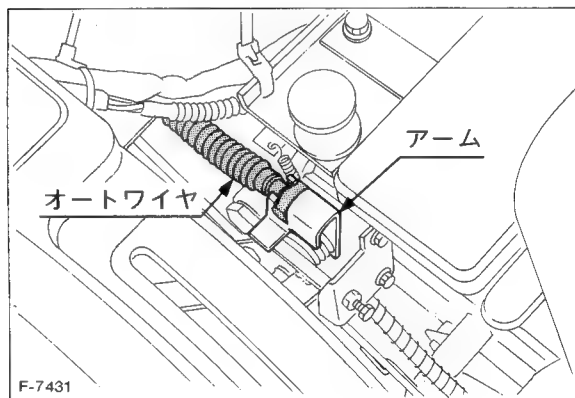
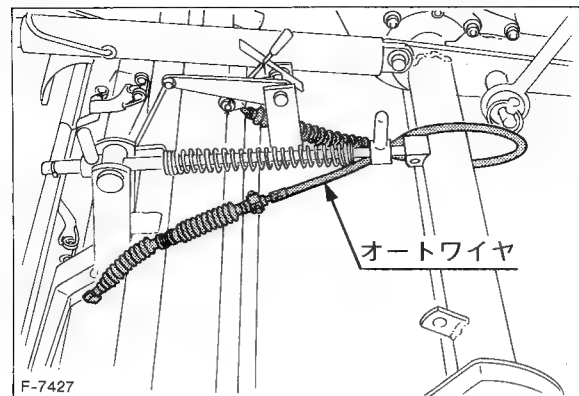
標準仕様またはM仕様の取外し方の工程の前に，次の工程を併せて行なってください。

◆トラクタ側

❶ロータリをコントロールレバーで接地させ，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけます。

❷コントロールレバーを上限に上げ，オート耕深レバーを**“オート切”**位置にします。

❸オートワイヤをワイヤ受けから外します。

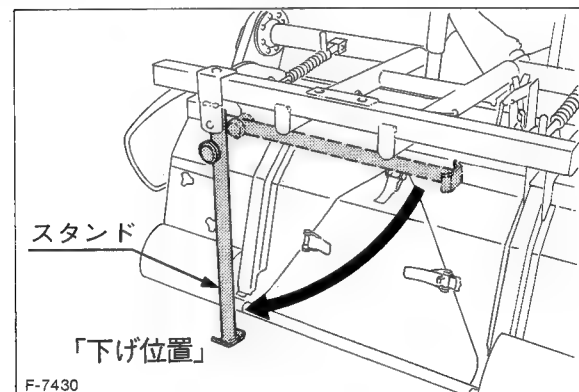
❹オートワイヤのピン部をワイヤサポートから外します。

❺オートワイヤ先端をコントロールバルブのアームから外します。

❻オートワイヤをロータリ側に収納します。

◆ロータリ側

【RS11-A・VA，RS12-A・VA，RS14-A】

❶後2輪ホルダを一番後方(6段目)にセットします。

❷カバーを下から4段目の溝にセットします。

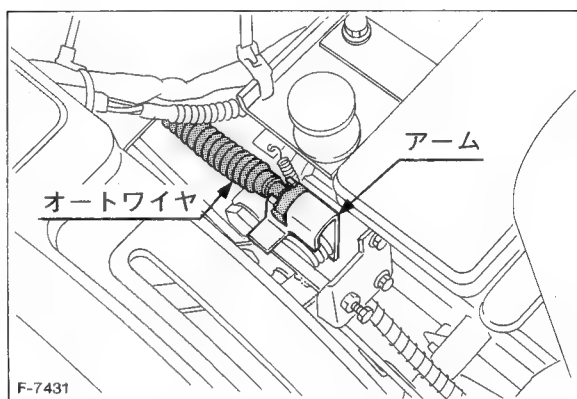
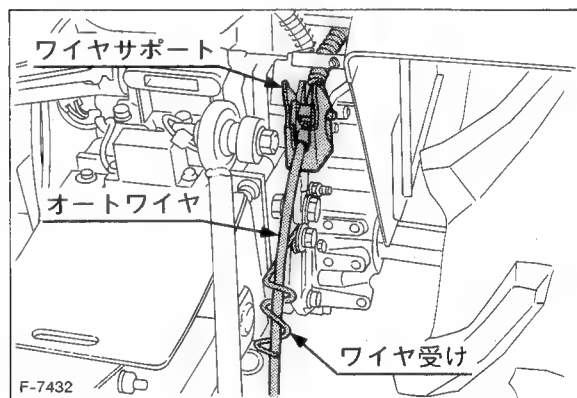
❸スタンドを下げ位置にします。

❹後2輪ハンドルを回し，スタンドが接地していない状態(地上2～3㎝)にします。

■取付け方【A仕様】

標準仕様またはM仕様の取付け方の工程の後に，次の工程を併せて行なってください。

◆トラクタ側

❶エンジンは停止したままで，コントロールレバーを上限に上げ，オート耕深レバーを**“オート切”**位置にします。

❷オートワイヤ先端をコントロールバルブのアームに差込みます。

❸オートワイヤのピン部をワイヤサポートにセットします。

❹オートワイヤをワイヤ受けに挿入します。

◆ロータリ側

【RS11-A・VA，RS12-A・VA，RS14-A】

❶スタンドを上げ位置にします。（27ページ参照）

❷カバーを最下げ又は必要な位置にセットします。

補　足

＊長期間保管するときや洗車後は，必ず一度ユニバーサルジョイントを取外し，①ロータリ側入力軸，②ジョイントのしゅう動部にグリースを塗布してください。

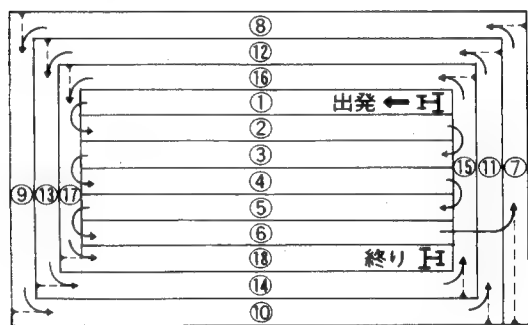
ロータリ耕うん法

■隣接耕うん法

耕作地の条件が良い場合は，隣接耕うんが能率的で作業も簡単です。

❶前輪タイヤ・後輪タイヤは最小幅にします。
❷図のような要領で耕うんを始めます。
❸直進耕うん後3回の回り耕を行ないます。
❹耕うん順序は隣り合せに進め，前・後輪タイヤがいちど耕うんした所に落ちないように，気をつけながら運転します。
❺サイドドライブロータリ(RS形)は，サイドフレーム側があぜぎわになるようにして，あぜぎわ耕うんを行ないます。

◆隣接耕うんの順序

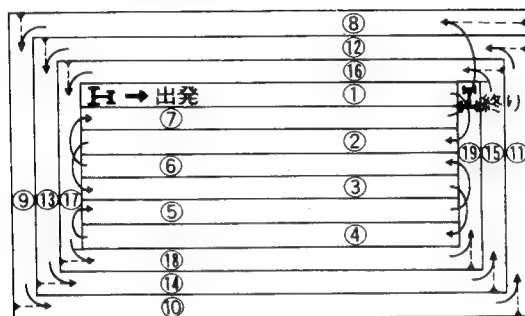
←進行方向 ←……いったんバック

G-1008

(1)図の長方形部分1枚が，直進1回で耕うんされる耕作地を示します。
(2)図のような順序をとるのは，いちど耕うんした所を後輪タイヤで踏まないための，最善の方法です。
(3)したがって出発点は，トラクタが最後に外へ出る場所によって決まります。
(4)直進が終って，つぎの直進に移るまでは，ロータリを必ず上げて旋回します。

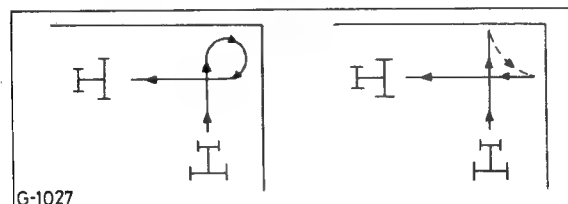
■一畝おき耕うん法

この方法は，従来の耕うん機と同じ要領で，取扱いも簡単なため，よく用いられます。

❶耕作地の周囲を約2.6m開けて耕うんを始めます。
❷最初直進して一畝おきに耕起した後,残りを耕起し,最後に回り耕3回で仕上げます。
❸一畝おきに残す幅は，タイヤの内側面より幾分少ない方が，残耕を少なくし美しく仕上がります。又前輪は，後輪の中心線上又は外側に合すように調節すれば，作業が楽です。

◆一畝おき耕うんの順序

G-1009

(1)一畝おき耕うんは，小回りのむずかしい場合用いる方法です。その他は隣接耕うんと同じです。
(2)図では，バックによる方向転換を示していますが，回転して方向を変えることもできます。

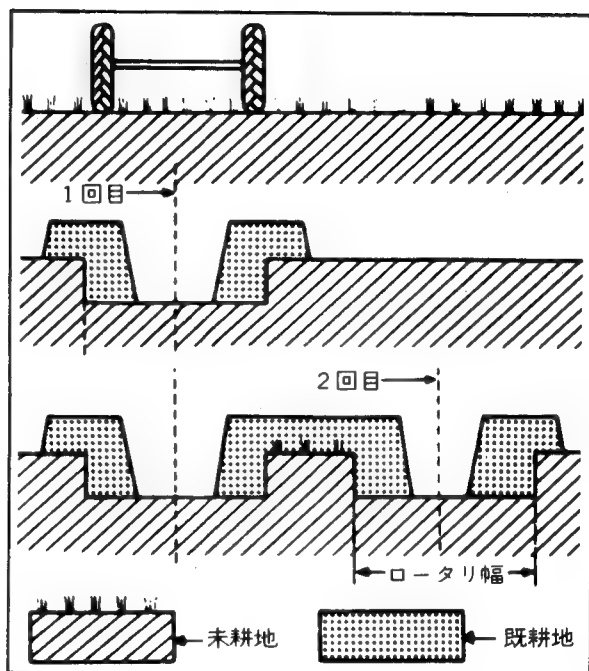
■トラクタの方向転換

G-1027

ロータリ畝立て作業

■作業方法

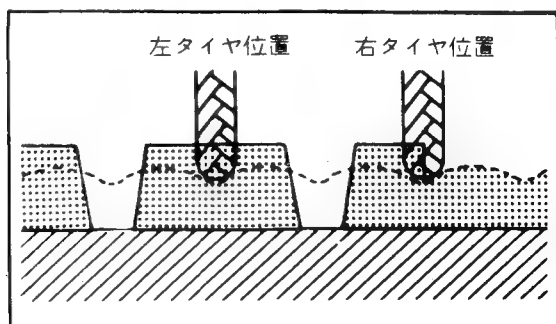
◆有心畝立て法(一畝おき畝立て法)

この方法は最も能率的ですが，一畝おき全面耕うん畝立て法と同じく，耕うん幅によって畝幅が制限されます。

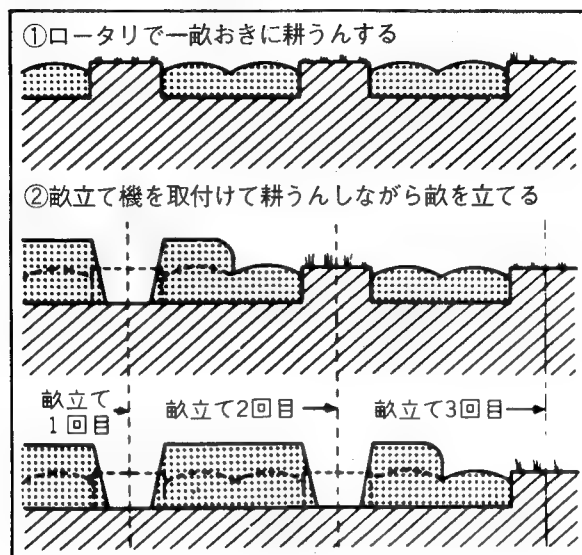
❶畝立て機を取付けて，
❷一畝おき耕うんをします。

◆全面耕うん後の畝立て法

この方法は，畝幅を自由に選ぶことができ，土塊が均一で細い畝もできます。

❶まず，ロータリで全面耕うんを行なってから，
❷畝立て機を取付けて，畝立て作業をします。

この場合は，畝立てをするほ場全部を荒起しした後，爪を外向きに付け直してから，畝立て作業を行なうと美しく仕上がります。

◆無心畝立て法
(一畝おき全面耕うん畝立て法)

この方法は，全面耕うん後の畝立て法に比べて能率的です。しかし，耕うん幅によって畝幅が制限されます。

❶まず，畝幅を決めると，一畝おきに耕うんします。
❷畝立て機を取付けて，残しておいた部分を耕うんしながら，畝立て作業をします。

以上はほんの一例です。地方によって条件が異なりますから，土地条件に合った方法をお考えください。

注意

＊爪の交換・爪取付けボルトの点検などは，傷害事故を引起すおそれがあるので，必ずエンジンを止め，落下調整レバーを回して油圧ロックし，ロータリの落下を防止してから，作業を始めてください。

重要

＊耕うん状態のままで，無理にハンドルを切って旋回すると，爪を曲げたり，後2輪やチェーンケースを破損する原因になりますから注意してください。

トラクタ使用前の点検について(日常点検)

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は毎日欠かさず行ってください。
〔点検方法の詳細は，**“トラクタの簡単な手入れと処置”**の項を参照。〕

 注 意

＊運転前にブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置等の日常点検を行い摩耗や損傷している部分があれば交換してください。また定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊点検をするときは，必ずエンジンを停止し作業機を降ろしてから行ってください。
＊燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹出してヤケドをするおそれがあります。
＊エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジン停止後30分経過してから開ける。
❷点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。
＊安全カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。又紛失したり，損傷した場合，交換してください。
巻込まれや，切傷事故の原因になります。

重 要

各部への給油と交換
＊点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行ってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊使用するエンジンオイル，ミッションオイル，ギヤーオイルは，必ず“クボタ純オイル”を使用してください。

■点検は次の順序で実施してください。

(1)前使用時，異常のあった箇所
(2)トラクタの回りを歩いて
＊ランプ類の点灯及び汚れ，損傷
＊ナンバプレートの汚れ，損傷
＊タイヤの空気圧，き裂，損傷，摩耗……53ページ
＊タイヤなどの足回りのボルトやナットのゆるみ
＊反射器の汚れ，損傷
＊ミッションオイルの量及び汚れ………46ページ
＊燃料フィルタの水抜き，沈澱物の点検
＊冷却水，オイル，燃料漏れの点検
＊前車軸ケースオイルの量………………47ページ
(3)ボンネットを開けて
＊エンジンオイルの量及び汚れ…………46ページ
＊リザーブタンクの冷却水の量，ラジエータキャップのしまり………43，44ページ
＊エアークリーナの詰まり………………51ページ
＊ファンベルトの張り具合，損傷………53ページ
＊バッテリ，配線，マフラ部の清掃……55ページ
＊防虫網の清掃……………………………45ページ
(4)運転席に座りエンジンを始動して
＊燃料計の作動
＊燃料は十分か，燃料キャップの締付け
＊イージーチェッカの点滅具合
＊ヘッドランプの作動
＊トラクタメータの作動
＊ウインカランプの点滅
＊ホーンの作動
＊バックミラーの写影
＊ブレーキペダルの遊び…………………52ページ
＊クラッチペダルの遊び…………………52ページ
＊ハンドルの遊び・ガタ
＊コントロールレバーによる油圧昇降及び作業機取付ピンの脱落
＊排気ガスの色，異常音…………………54ページ

(5)エンジンを始動して，徐行しながら
　＊水温計の作動
　＊ブレーキの効き，片効き
　＊ハンドルの重さ，振れ，取られ
(6)ロータリの回りを歩いて
　＊耕うん爪及び爪軸取付けボルトのゆるみ
　＊ギヤーケースのオイル量
　　【サイドドライブ仕様】………… 47ページ
＊チェーンケースのオイル量
　【サイドドライブ仕様】………… 47ページ
＊ロータリケースのオイル量
　【センタドライブ仕様】………… 48ページ
＊ロータリ各部のボルト・ナットのゆるみ
＊ユニバーサルジョイントのロックピンのロック状態の確認…………………… 54ページ
＊油もれ

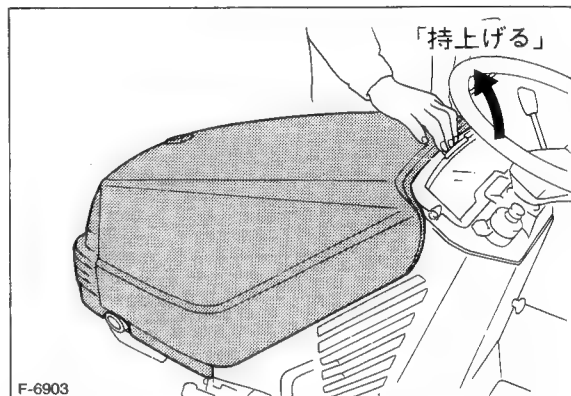
■ボンネットの開閉

注 意

＊ボンネットは遮音効果を高めるため密閉方式となっております。作業時は必ずボンネットを閉じてください。

ボンネットを開けるときは，ボンネット上面中央部を持上げるとロックが外れ，開きます。

簡単な手入れと処置

注　意

＊給油及び点検整備するときは，❶トラクタを平たんな広い場所に置き，❷作業機を降ろし，❸駐車ブレーキをかけ，❹変速レバーを中立にし，❺エンジンを止め，安全を確認してから行なってください。
＊トラクタは，常に清掃しておいてください。
バッテリ・配線・マフラやエンジン周辺部に，ゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

定期点検箇所一覧表

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。
次の定期点検箇所一覧表に従って，定期点検を実施しましょう。

■トラクタの定期点検箇所

点検項目		アワーメータ表示時間（下記時間目ごとに交換）											購入日から		参照ページ
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年	
ミッションオイルの交換			◎					○							46
エンジンオイルの交換	年間使用時間が100時間以上の場合		◎	○		○		○		○		○			46
	年間使用時間が100時間以内の場合		◎	1　年　ご　と									○		
前デフギヤーケースのオイル交換								○							47
前車軸ケース右・左のオイル交換								○							47
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換			◎			○				○					50
油圧オイルフィルタカートリッジの交換			◎				○					○			50
油圧ストレーナの洗浄			◎					○							51
燃料フィルタエレメントの交換										○					51
冷却水の交換														○	44
ラジエータ内部の洗浄												○			45
エアークリーナエレメントの清掃				○		○		○		○		○			51
エアークリーナエレメントの交換													○ 6回清掃毎		51
油圧ホース取付けねじのゆるみ点検			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			—
油圧・燃料パイプ締付けバンドのゆるみ点検			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			—
ラジエータホース締付けバンドのゆるみ点検					○			○			○				—
燃料パイプの交換														○	—
ラジエータホースの交換														○	—
バッテリ液点検			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			55

点　検　項　目	アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)											購入日から		参　照 ページ
	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年	
車体各部のボルト，ナットのゆるみ，ピンなどの脱落		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			—
燃料タンクの清掃											○			—
グリースの注入		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			49
ファンベルトの調整		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			53
クラッチハウジングの水抜き		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			54
ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検と交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			56

◎印はならし運転時の50時間使用後に必ず行なってください。

■ロータリの定期点検箇所

点　検　項　目	アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)											購入日から		参　照 ページ
	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年	
ギヤーケースのオイル交換【サイドドライブ仕様】		◎					○			○				47
チェーンケースのオイル交換【サイドドライブ仕様】		◎		○			○			○				48
ロータリケースのオイル交換【センタドライブ仕様】		◎		○			○			○				48
グリースの注入 • ユニバーサルジョイント		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			49
注油 • 内管(後２輪調整ネジ部)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			48

◎印はならし運転時の50時間使用後に必ず行なってください。

給油(水)一覧表

■トラクタの給油(水)

給油(水)項目	容量(ℓ)	使用オイル
燃　料	14.0	クボタディーゼル重油 又はディーゼル軽油
冷却水(ラジエータ)	2.7	清水又はクボタ不凍液(50%)
冷却水(リザーブタンク)	0.5	
エンジンオイル	2.4 (オイルゲージ上限全量,フィルタ部も含む。)	クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30
ミッションオイル	11.5	クボタ純オイルUDT又はスーパーUDT
前デフギヤーケースオイル	1.5	
前車軸ケース右・左オイル	各0.5	
ステアリングギヤーボックスオイル	0.2	
グリースの注入 • クラッチペダル • ブレーキペダル • 2点リンク回動部【M仕様】	少　量	シャーシグリース
グリースの塗布 • 関接球【M仕様】	塗　布	

■ロータリの給油

給油(水)項目	容量(ℓ)	使用オイル
ギヤーケースオイル 【サイドドライブ仕様】	0.5	クボタ純オイルM80B又はM90
チェーンケースオイル 【サイドドライブ仕様】	0.5	
ロータリケースオイル 【センタドライブ仕様】	1.2	
グリースの注入 • サイドフレーム下側ベアリングケース	適　量	シャーシグリース
グリースの塗布 • ユニバーサルジョイント • 後2輪支柱 • 2点リンク連結部		
注油 • 内管(後2輪調整ネジ部)	適　量	クボタ純オイル

燃料について

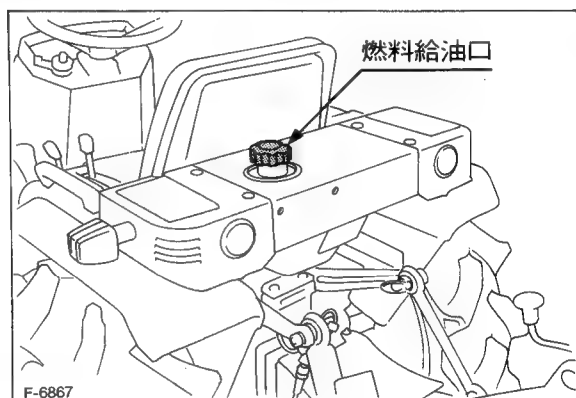
重　要

＊燃料計の針が“E”に近づいたら早めに燃料を補給してください。からにすると燃料系統にエアーが入るので，エアー抜きが必要です。

■燃料

注　意

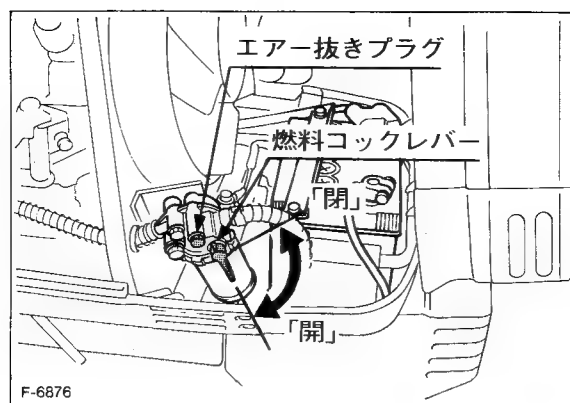
＊燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊火気厳禁。

燃料は，**“クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油”**を使用してください。

重　要

＊燃料キャップが締まっているか確認してください。

■エアー抜きのしかた

燃料のエアー抜きは，
＊燃料フィルタ及び配管を外したとき
＊燃料切れが起きたとき
＊トラクタを長時間使用しなかったとき
などに行なう必要があります。

❶タンクに燃料を満たします。
❷燃料コックレバーを**“開”**にします。

❸エアー抜きプラグをゆるめ(約10秒間)，フィルタカップ内に燃料が満たされたのを確認してからプラグを締めます。
❹エンジンストップロッドを引き(エンジン停止の状態)，セルモータを約10秒間回します。
(セルモータを連続10秒間回せば30秒休む，この操作を１～２回くり返します。)

重　要

＊エアー抜きプラグは，エアー抜きするとき以外は必ず締めておいてください。

■冷却水

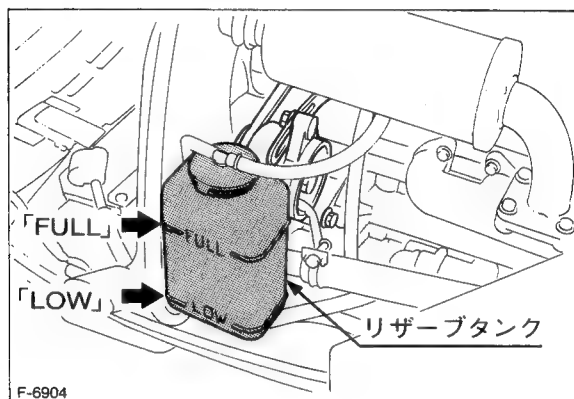
注　意

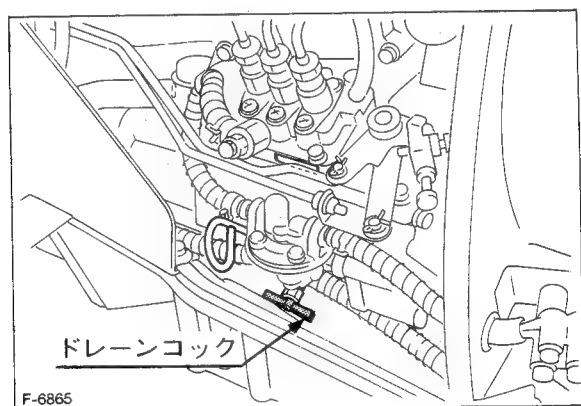
＊ラジエータキャップは，エンジン運転中や停止直後に開けると，熱湯が噴出し，ヤケドするおそれがありますので，停止後30分以上たって冷えてから開けてください。
＊ラジエータキャップを開ける時は，最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し余圧を抜いてから，キャップをはずしてください。

◆点検

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給する構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**“FULLからLOWの範囲”**であれば適量です。
冷却水が**“LOW”**以下の場合は，**“FULLのレベルのすぐ下”**まで補給してください。
“FULL”以上は入れないでください。

F-6904

◆交換

❶冷却水を抜くときは，ラジエータのドレーンコックを開くと共にラジエータキャップを外して，冷却水を全部出します。
リザーブタンクの排水は，タンクを外し排水します。

F-6865

❷水道の水でラジエータ内を洗浄し，ドレーンコックを閉めオーバフローパイプを取付けます。

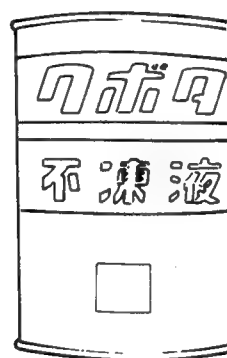
❸ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に締めてください。

❹エンジンを始動すると冷却水がエンジン内に送られ，ラジエータ内の冷却水が少し減少しますので，再度エンジンを止めて給水してください。

■不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。
冬期気温が０℃以下になるようなときは，必ず不凍液(ロングライフクーラント)をあらかじめ清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，長期保管する場合は冷却水を完全に排水してください。
〔工場出荷時は，不凍液(ロングライフクーラント)が入っています。〕

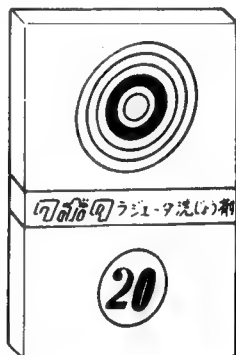
重　要

＊冷却水には，不凍液(ロングライフクーラント)を50%入れて，よく混ぜ合せてからお使いください。
＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
**＊クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は２年間です。
必ず２年で交換してください。**

Z-1007

■ラジエータの洗浄

ラジエータ内は，クボタラジエータ洗浄剤No.20を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。

●500時間運転ごと
●不凍液を使用するとき
●不凍液から水だけに変えるとき

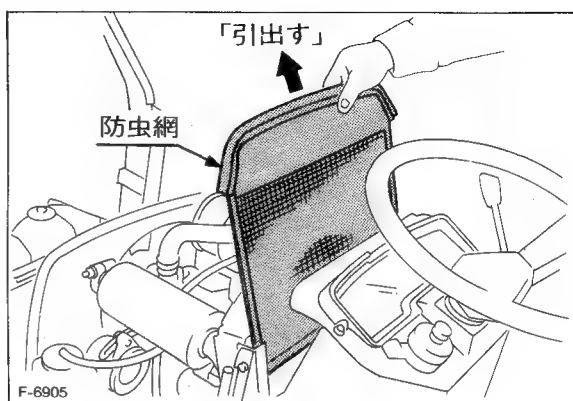
などに使用してください。

Z-1009

■防虫網の清掃

注 意

＊エンジンを必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実やこん虫などが付着し詰まることがありますので，必ず防虫網を清掃してください。

F-6905

■ラジエータコアーの清掃

フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は，水道水(圧力水)で流してください。

重 要

＊ヘラやドライバなど固いもので清掃しないでください。フィンを傷めラジエータの機能を低下させる原因になります。

■ラジエータから水漏れした場合

(1)少しの水漏れの場合は，クボタラジエータセメントNo.40を使用すれば止まります。
(2)水漏れが激しい場合は，購入先にご相談ください。

各部への給油と交換(トラクタ)

使用するエンジンオイル，ミッションオイル，ギヤーオイルは,必ず**"クボタ純オイル"**を使用してください。(61ページ参照)

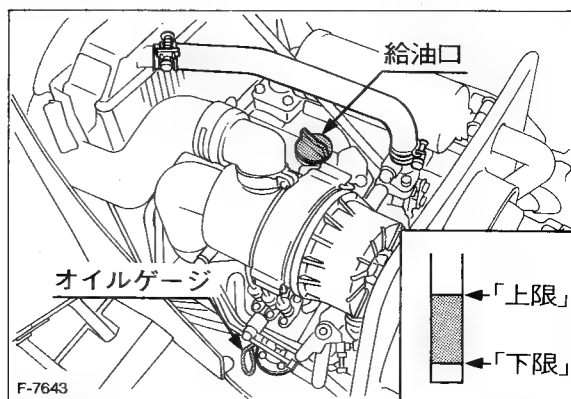
■エンジンオイル

 注 意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

◆点検

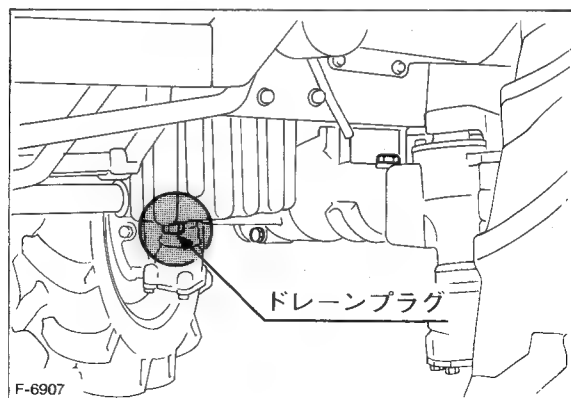
❶オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**"下限と上限の間"**にオイルがあるかを調べます。

❷**"下限"**以下の場合は補給してください。ただし，**"上限"**以上には入れないでください。

重 要

＊点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。

＊オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約3分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。

❷給油口からエンジンオイルを，規定量入れてください。

■ミッションオイル

 注 意

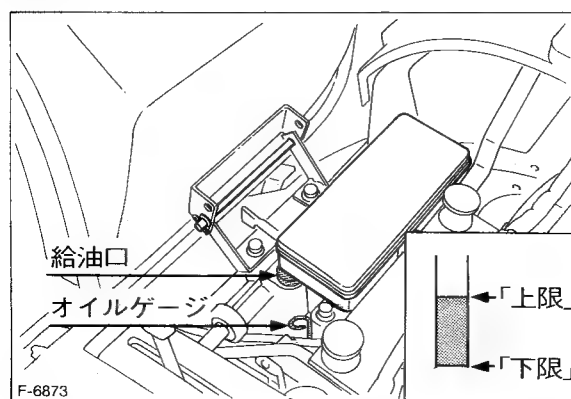
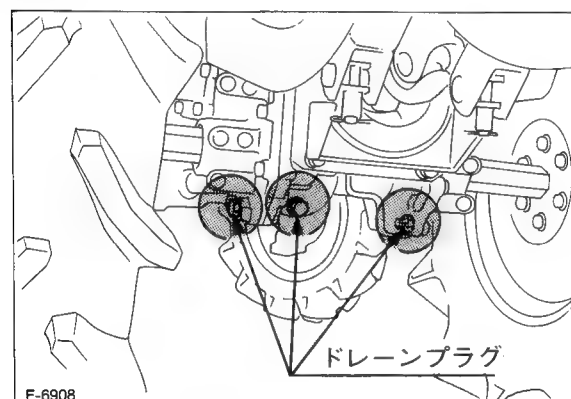
＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

◆点検

❶蝶ボルトを外し，工具箱を取外します。

❷オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**"下限と上限の間"**にオイルがあるかを調べます。ロータリ付の場合は、ロータリを下げて確認してください。

❸**"下限"**以下の場合は補給してください。ただし，**"上限"**以上には入れないでください。

◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。

補　足

＊給油プラグを外すとオイルが抜けやすくなります。

❷給油口からミッションオイルを規定量まで入れてください。

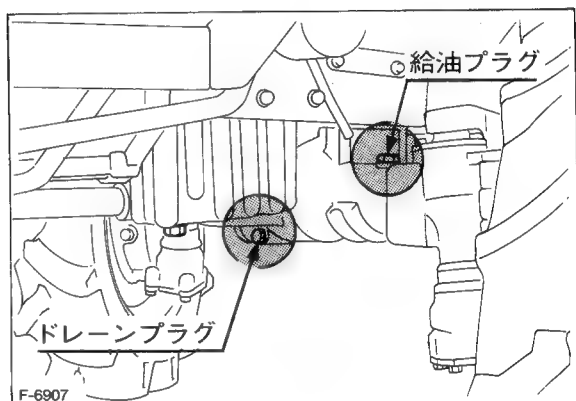
■前デフギヤーケースオイル

◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。

❷新しいオイルを給油口から，規定量まで入れてください。

■前車軸ケース右・左オイル

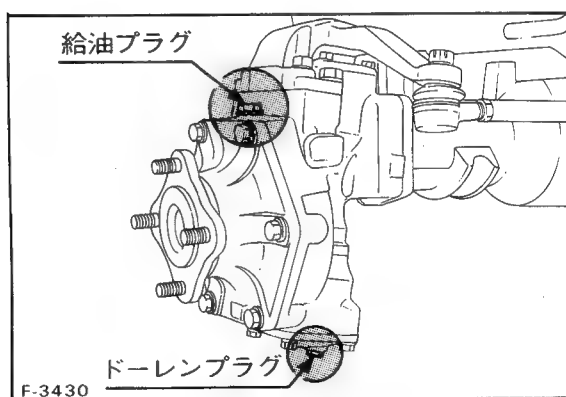
◆交換

❶左右のドレーンプラグを外してオイルを排出します。

❷新しいオイルを左右の給油口から，規定量まで入れてください。

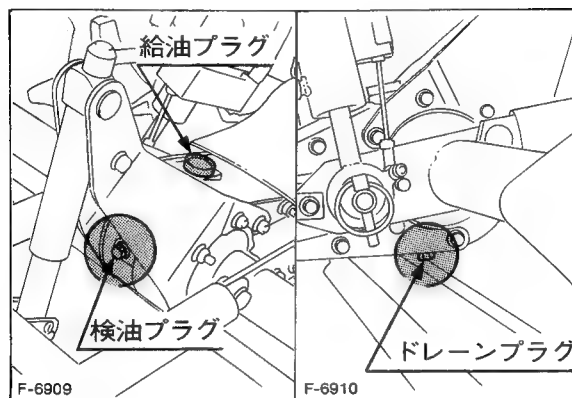
各部への給油と交換(ロータリ)

■ギヤーケースオイル

【サイドドライブ仕様】

◆点検

❶爪軸中心高さを28cmにセットし，検油プラグを外し，検油口までオイルがあるか調べます。

❷検油口以下の場合は♯80ギヤーオイルを補給しますが，検油口以上には入れないでください。

◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。

❷♯80ギヤーオイルを給油口から，規定量(0.5ℓ)入れてください。

■チェーンケースオイル

【サイドドライブ仕様】

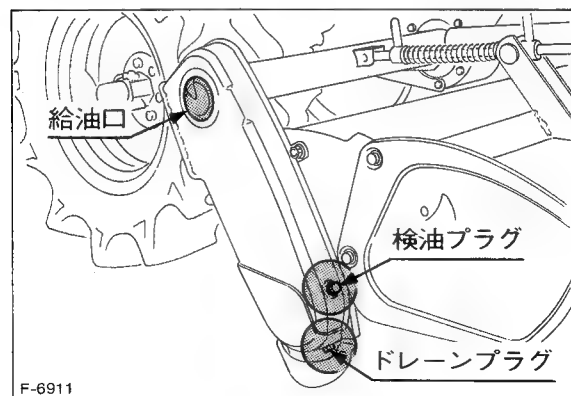
◆点検

❶爪軸中心高さを16cmにセットし，検油プラグを外し，検油口までオイルがあるか調べます。

❷検油口以下の場合は♯80ギヤーオイルを補給しますが，検油口以上には入れないでください。

補　足

＊点検するときは，ロータリをトラクタに装着したまま爪軸中心高さを16cmにして行なってください。
爪軸中心高が正しくないと正確な量を示さないことがあります。

◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
❷＃80ギヤーオイルを給油口から，規定量(0.5ℓ)入れてください。

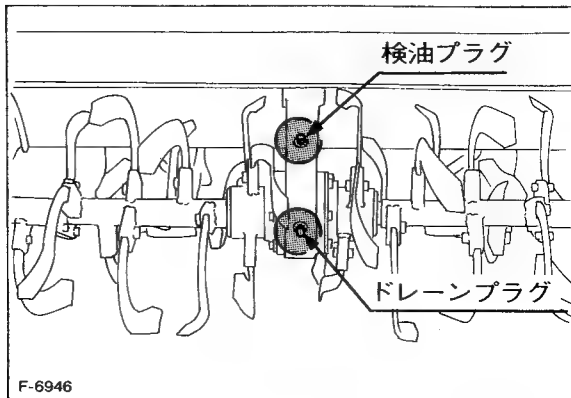
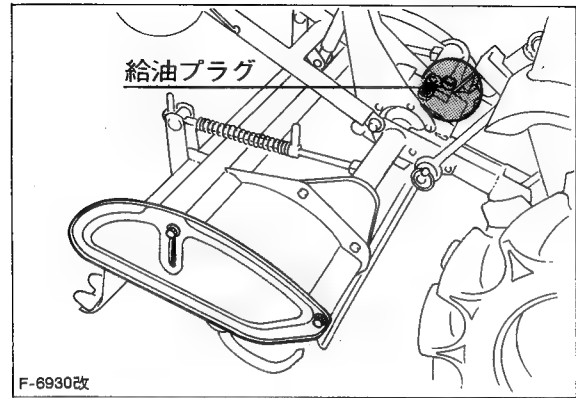
■ロータリケースオイル【センタドライブ仕様】

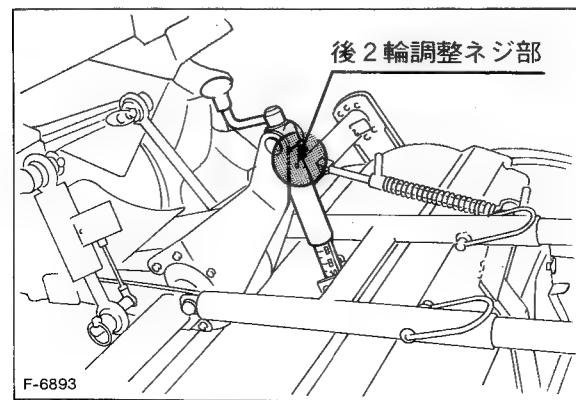
◆点検

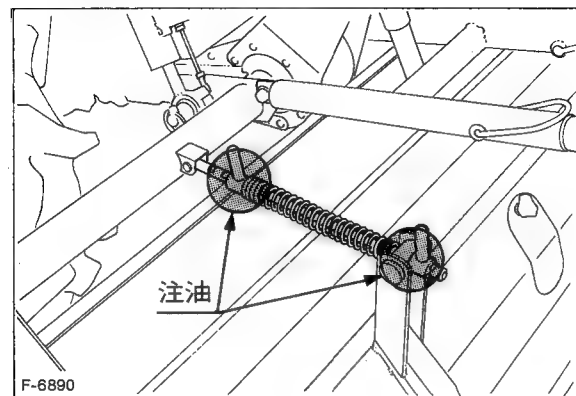
❶爪軸中心高さを16cmにセットし，検油プラグを外し，検油口までオイルがあるか調べます。
❷検油口以下の場合は＃80ギヤーオイルを補給しますが，検油口以上には入れないでください。

補　足

＊点検するときは，ロータリをトラクタに装着したまま爪軸中心高さを16cmにして行なってください。
爪軸中心高が正しくないと正確な量を示さないことがあります。

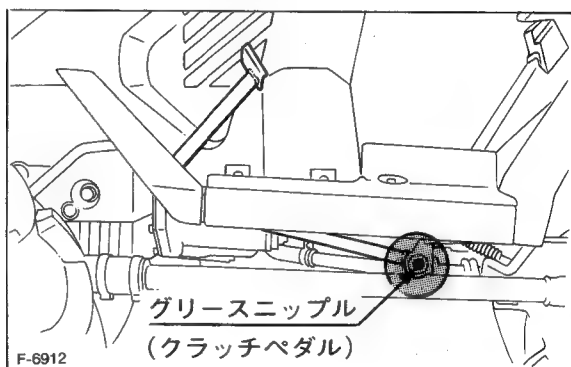
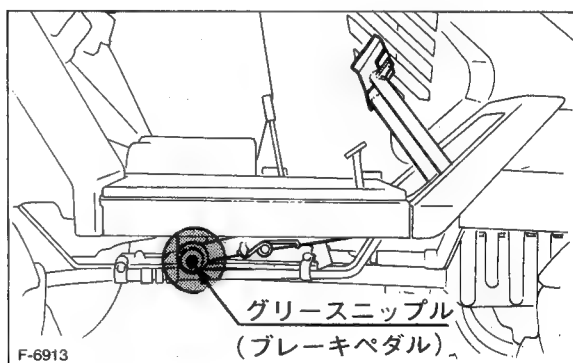
◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
❷＃80ギヤーオイルを給油口から，規定量(1.2ℓ)入れてください。

■内管(後２輪調整ネジ部)

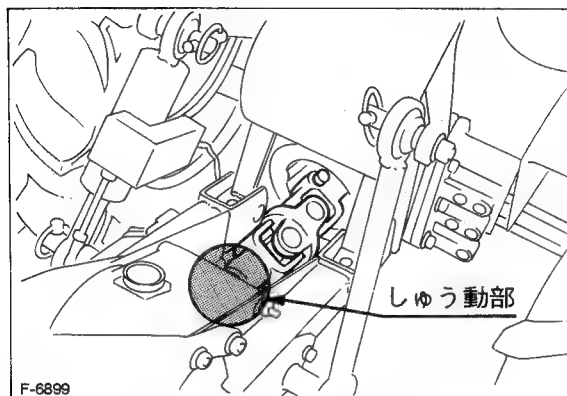
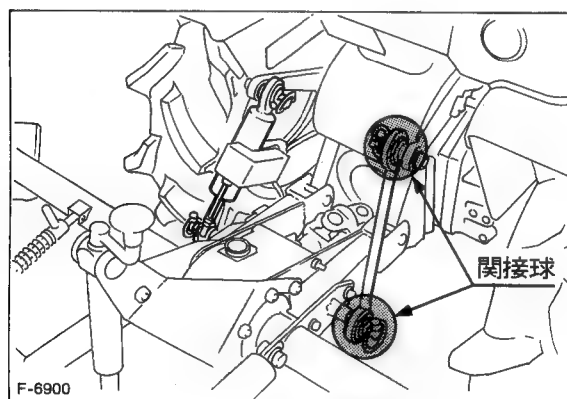
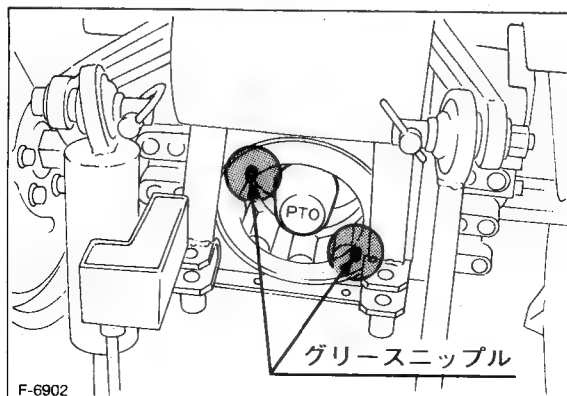
オイルを適量注油します。

■ロッド部

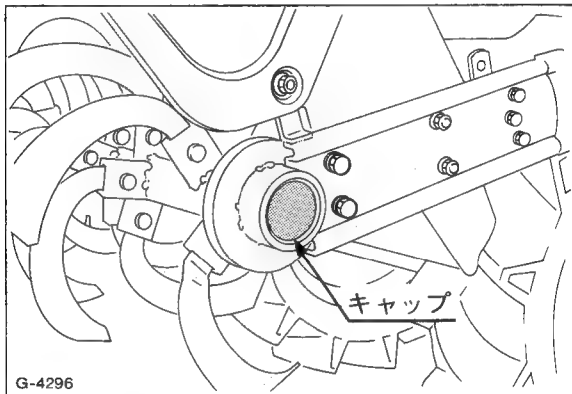
オイルを適量注油します。

グリースの注入箇所

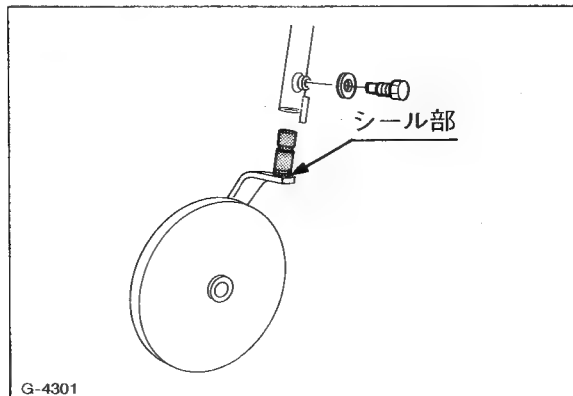
通常のグリースアップは，定期点検箇所一覧表に従って行なってください。ただし，代かき作業などで泥水の中に入ったときは1日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，**"クボタ推奨グリース"**を使用してください。（61ページ参照）

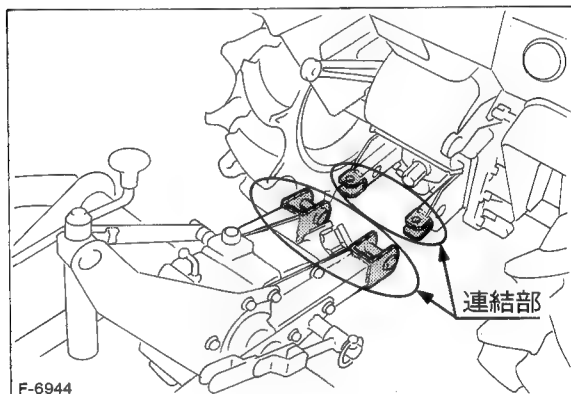
■各部へのグリース注入

◆クラッチペダル
シャーシグリースを少量注入します。

◆ブレーキペダル
シャーシグリースを少量注入します。

◆ユニバーサルジョイント
しゅう動部に，ベアリンググリースを適量塗布してください。

補　足
＊PTO軸・ロータリ側の軸にも，薄く塗布してください。

◆関接球へのグリースの塗布【M仕様】
リフトシリンダ・リフトロッドの関接球の球面にシャーシグリースを塗布してください。

◆2点リンク回動部【M仕様】
シャーシグリースを適量注入します。

◆サイドフレーム下側ベアリングケース

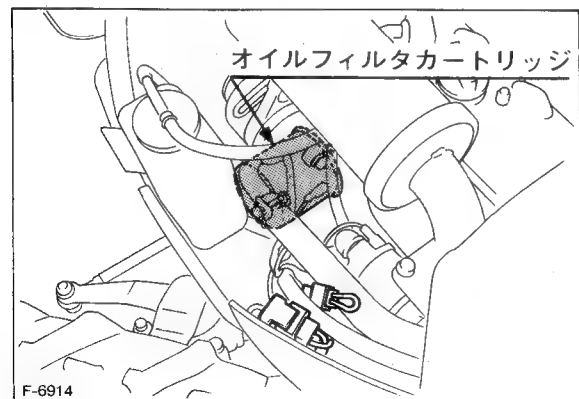
サイドフレーム下部のキャップを外して，ベアリンググリースを注入します。

◆後２輪支柱

ボルトを外し，後２輪を抜いてシール部に塗布します。

◆２点リンク連結部

ロータリを外し，グリースを塗布します。

フィルタの交換と洗浄

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

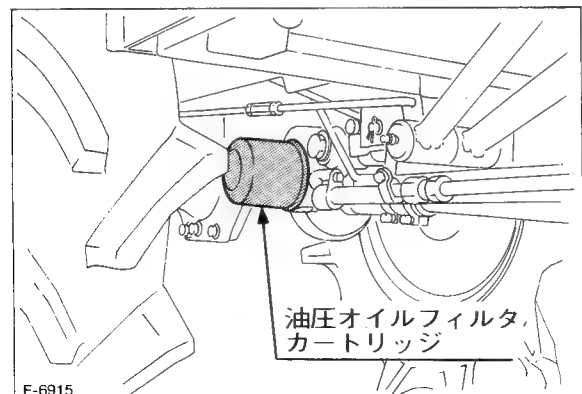
注　意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドの恐れがあります。

❶フィルタレンチで取外します。
❷新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❸エンジンオイルを規定量補給します。
❹エンジンを約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか確認してから止めます。
❺再びオイルゲージで油面を確認し，不足していればエンジンオイルを補給してください。

■油圧オイルフィルタカートリッジの交換【M仕様】

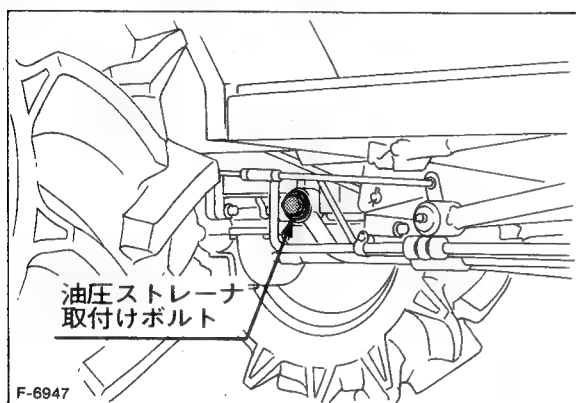
注　意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドの恐れがあります。

❶フィルタレンチで取外します。

❷新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❸約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。

■油圧ストレーナの洗浄【標準仕様】

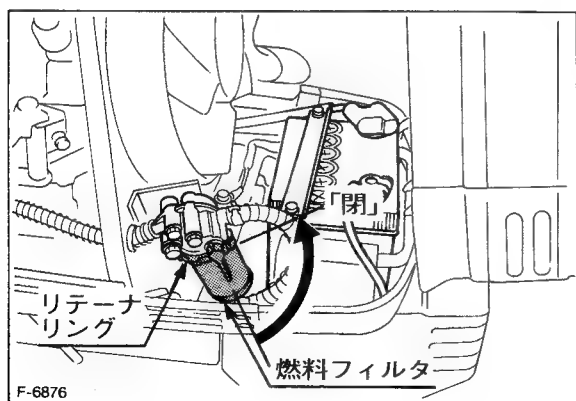
付属のスパナで取外し，洗浄します。

F-6947

■燃料フィルタエレメントの交換

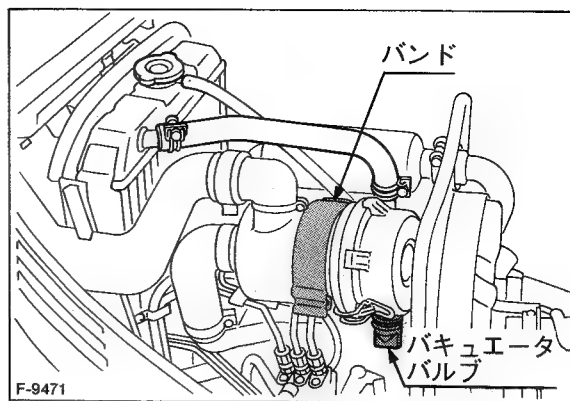
❶燃料フィルタのコックを閉じてください。
❷カップ上部のリテーナリングを回してカップを外し，カップ内部を軽油で洗浄します。
❸新しいフィルタエレメントと交換します。

重　要

＊組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊エレメントを交換後は，必ずエア一抜きをしてください。

F-6876

■エアクリーナエレメント

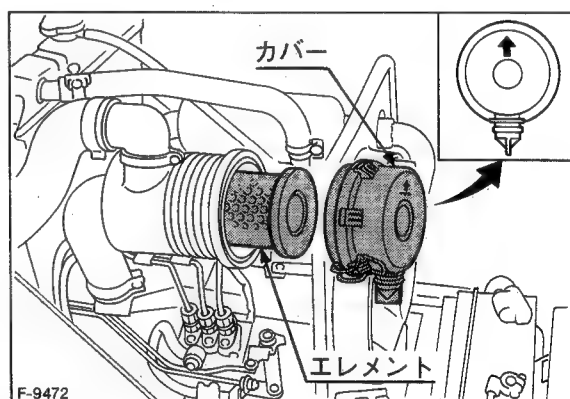
エレメントの清掃または交換は，バンドを外し，エアクリーナを少し持上げてから行ってください。

F-9471

◆エレメントの清掃

乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアーで吹き飛ばしてください。〔エアーの圧力は0.69MPa(７kgf/㎠)を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。〕

◆エレメントの交換

エレメントの交換は１年間使用後，又は６回掃除ごとに交換が必要です。

F-9472

重　要

＊エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
＊乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊清掃時，エレメントをたたいて変形させないでください。
変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。
変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。
＊ダストカップの(⬆マーク)を必ず上向きになるように取付けてください

◆バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，ゴミを取除いてください。水分があるときは，エアクリーナを掃除してください。

各部の点検・調整

■ブレーキペダル

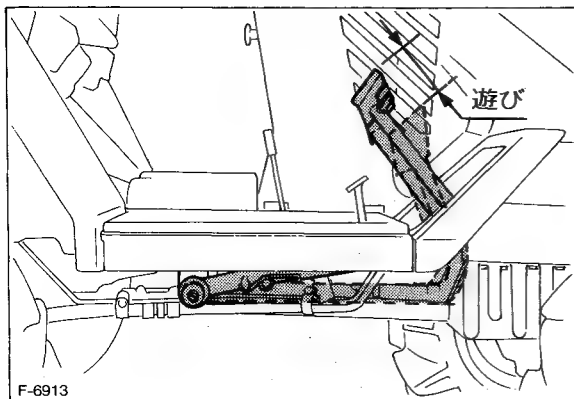
 警 告

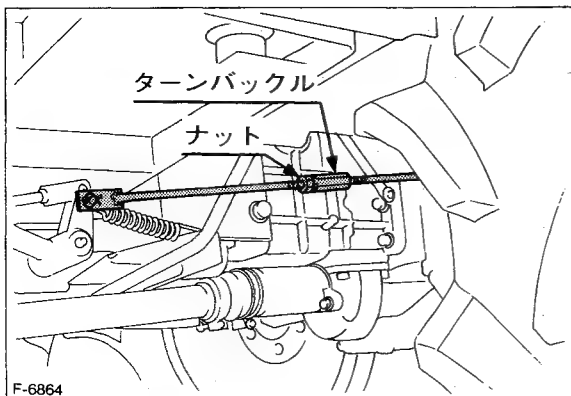
＊点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。
＊ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。
常に作動状態に注意してください。
＊調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず5㎜以内にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。
ブレーキが片ぎきになると……
傷害事故を引起すおそれがあります。

◆点検

左右のペダルの遊び量が20～30㎜あるか確認してください。

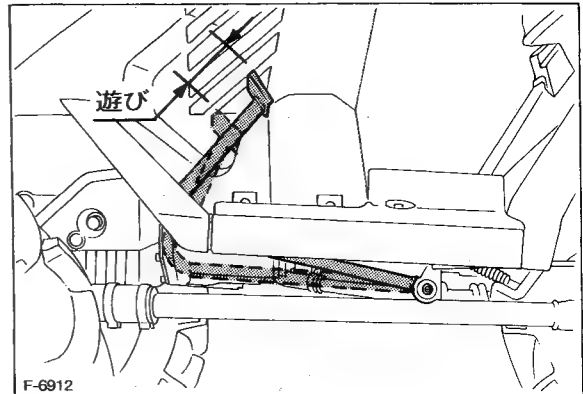
F-6913

◆調整

❶駐車ブレーキを解除します。
❷ナットをゆるめ，ターンバックルを回して，ペダル遊び量が左右とも20～30㎜になるよう，また段差が5㎜以内になるように調整します。
❸調整後はナットを確実に締付けます。
❹駐車ブレーキロックが確実に作動するか確認してください。

F-6864

■クラッチペダル

◆点検

ペダルの遊び量が20～30㎜あるか確認してください。

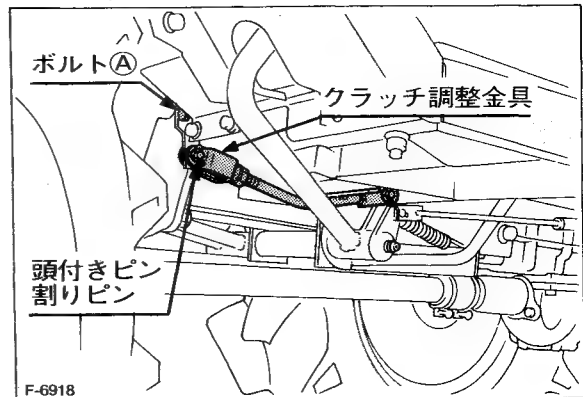
F-6912

重 要

＊クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，スリップを起し損傷につながります。

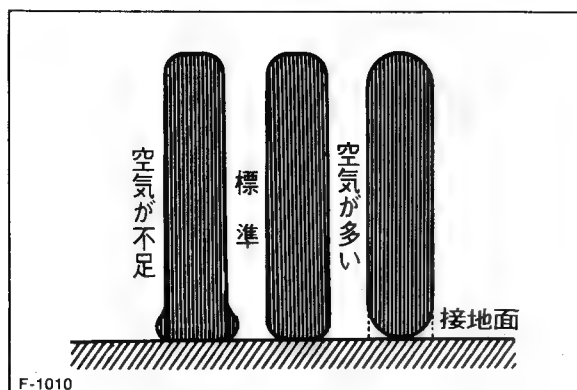
◆調整

頭付きピンを外し，クラッチ調整金具を回して，ペダルの遊びを調整します。
調整後は割りピンを確実に組付けておいてください。

F-6918

補 足

＊ボルトⒶは，クラッチペダルの最大踏込み量を規制して，クラッチのダイヤフラムのオーバーストロークを防ぐもので，工場出荷時に調節して固定ロックしてありますので，さわらないようにお願いします。

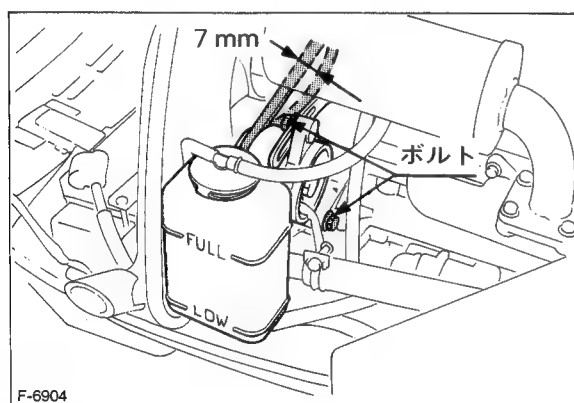
■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎの通りです。

◆標準空気圧

	空気圧(kgf/cm²)
前　　輪	1.2
後　　輪	1.6(7-14は1.0)

■ファンベルトの張り具合

◆点検

ベルトの中央部を指先で押えて，約7㎜程度たわむか確認してください。

重　要

＊ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。

◆調整

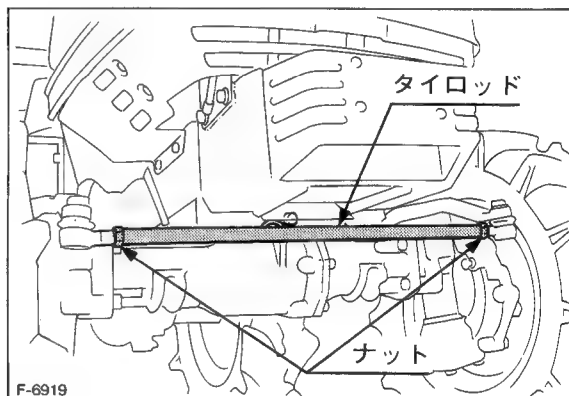
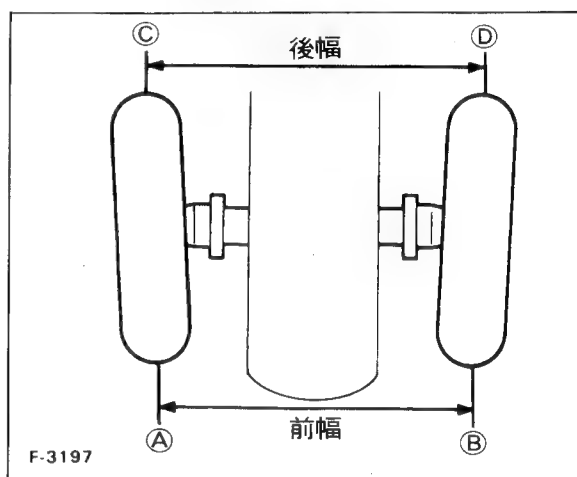
❶ダイナモを取付けているナットとボルトをゆるめます。
❷ダイナモを動かし，ベルトの張りが約7㎜たわむ程度に調整します。
❸調整後はナットとボルトを確実に締付けます。
❹ベルトにき裂やはがれがないか点検し，損傷があれば新品と交換してください。

■トーイン

 注　意

＊トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆点検

前輪の前幅ⒶⒷと後幅ⒸⒹを測り，ⒸⒹ－ⒶⒷ＝2～8㎜になっているかを調べます。

◆調整

ナットをゆるめ，タイロッドを回してⒸⒹ－ⒶⒷ＝2～8㎜になるように調整します。
調整後はナットを確実に締付けておいてください。

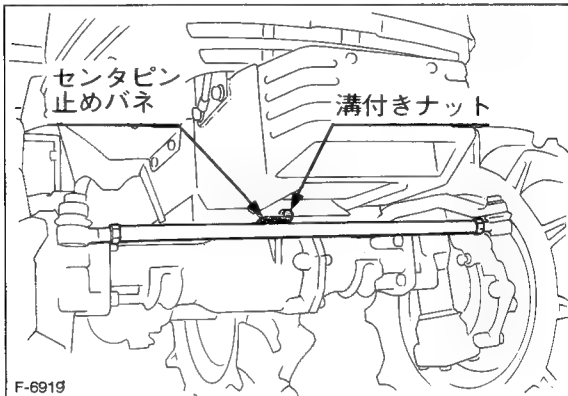
■前車軸支持部

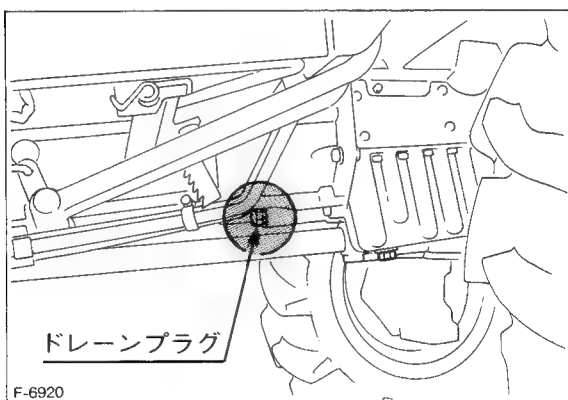
前車軸支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆点検

前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

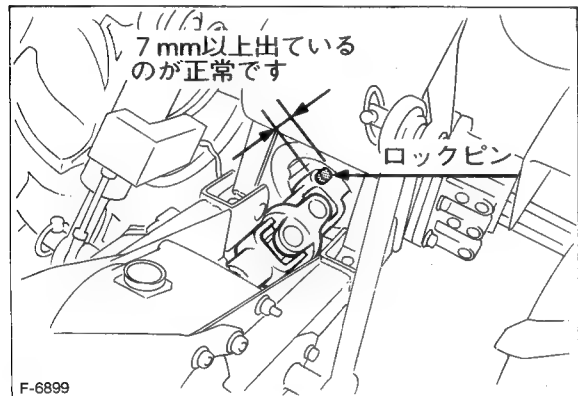
◆調整

センタピン止めバネを外し，溝付ナットを締込んでガタを調整します。

■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨中作業などで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は50時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外し，水の浸入がないことを確認してください。
もし水が入っていれば，完全に抜いて内部をよく乾燥してください。

■排気ガスの色

無　色……正常
黒　色……燃料が濃すぎるための不完全燃焼です。
青白色……冷機時アイドリング運転では，青白く見えることがありますが異常ではありません。

■ユニバーサルジョイントの点検

ロックピンが正確にみぞにはまったかどうかの確認は，ピンの頭が**"7㎜以上"**出ているかどうかを調べます。

＊ユニバーサルジョイントのロックピンが，正確に溝にはまったかどうかの確認は，ピンの頭が7㎜以上出ているか確認してください。

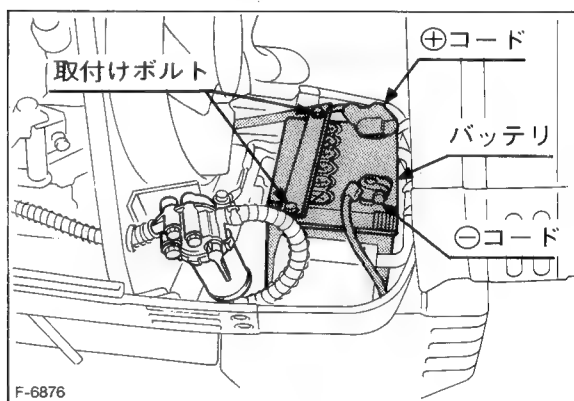
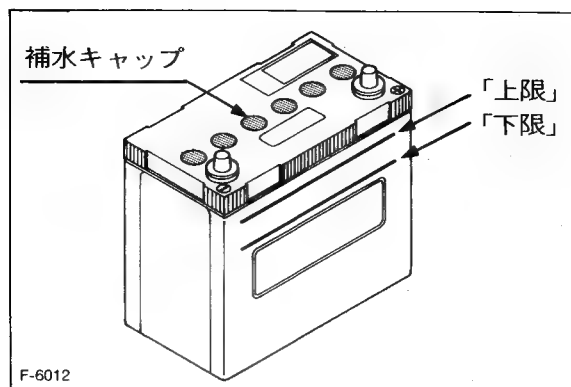
■シールの組替え

整備などの目的でギヤーケース，チェーンケース等を分解される場合は，必ず新しいオイルシール，ゴムキャップ，パッキン等と交換してください。オイルもれの原因となります。

電気系統について

警　告

＊バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。
＊バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを“OFF”(切)位置にしておいてください。
＊バッテリを取外すときは，短絡(ショート)事故を防ぐため，最初にバッテリ⊖コードを外し，接続するときは最後にバッテリ⊖コードを接続してください。
＊バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

■バッテリ液の点検

バッテリはMF(メンテナンスフリー)バッテリを使用していますので従来品に比べ，液の減り度合がきわめて少なくなっていますが側面に2本の線(レベル)があり，その間に液面があればよく，少ないときは上側の線(レベル)まで蒸留水を補給してください。

◆MF(メンテナンスフリー)バッテリの補水のしかた

(1)バッテリ上フタの補水キャップを外します。マイナスドライバを補水キャップの溝に入れて回すとキャップが外れます。
(2)6個の補水穴から蒸留水を均一に上側の線(レベル)まで補水します。
(3)キャップを元の穴にねじ込みます。

重　要

＊バッテリ液が不足するとバッテリを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
＊バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。
＊バッテリにコードを接続するときは，⊕と⊖をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
＊バッテリからコードを外すときは⊖側，取付けるときは⊕側から行なってください。逆にすると，工具が当った場合にショートします。
＊充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，⊖を⊖にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。コードの接続をまちがえないように注意してください。
＊新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式(38B20L-MF)のバッテリを使用してください。

■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換

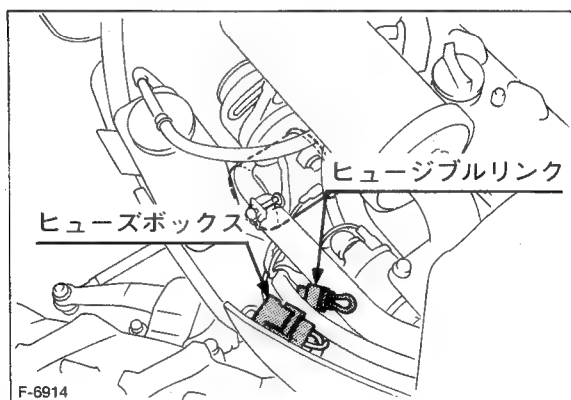
注 意

＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。
＊バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。

(1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
(2)ターミナル，ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
(3)各スイッチが確実に作動すること。

■ヒューズの交換

❶ヒューズボックスのふたを外します。

❷切れたヒューズを外します。
❸同容量のヒューズと取換えます。

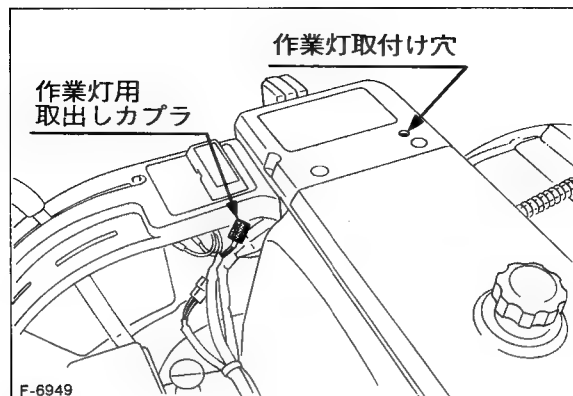
重 要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検・修理してください。

■ヒュージブルリンクの交換

ヒュージブルリンクは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べてください。また決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

■作業灯の使い方(別途購入品)

作業灯は純正部品(品番：96314-15401)を使用してください。

重 要

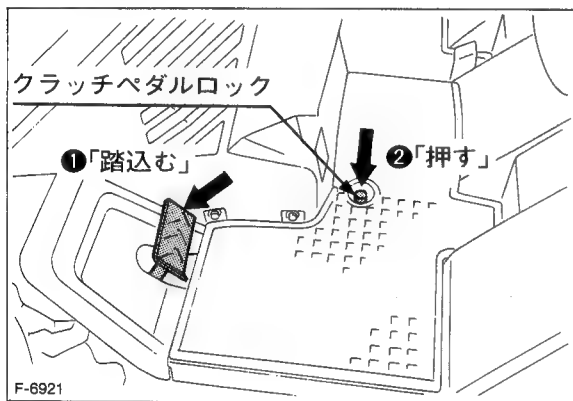
＊作業灯電源を他の電源に使用しないでください。どうしても使用したい場合は，購入先にご相談ください。

長期格納時の手入れ

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

(1)不具合箇所は整備してください。
(2)エンジンオイルを交換し，10～15分間運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
(3)定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。
(4)車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。
(5)燃料コックを**“閉”**にしておいてください。
(6)冷却水は抜いておいてください。
(7)クラッチペダルは，クラッチを踏込んだ状態で**“クラッチペダルロック”**を掛けてください。
クラッチ板のさび付きを防止します。

◆クラッチ“切”保持の方法

❶クラッチペダルをいっぱい踏込んでから，ロックボタンを手で押下げます。
❷押下げたまま，クラッチペダルから足を離せば**“切”**の状態で保持されます。
❸使用するときは，クラッチペダルをいっぱい踏込めばロックが解除されます。

(8)クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が浸入していないことを確認してください。
(9)タイヤの空気圧は，標準より高いめにしてください。
(10)バッテリを車体から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。
(11)作業機は外すか地面に降ろした状態にしてください。
(12)後輪の前後に車止めをしておいてください。
(13)各部の配線・バッテリコード・燃料配管などの，キレツ・被覆の破れ，コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。
(14)格納中バッテリは，１カ月に１回完全充電するようにしましょう。
(15)格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。

 注　意

＊シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。
▶これを守らないと……
火災を起す原因になります。

重　要

＊洗車するときはエンジンを止めてください。もしエンジンをかけたまま洗車するときは，エアークリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入るとエンジンを破損することがあります。

エンジンの不調と処置

万一エンジンの調子が悪い場合は，次表により診断し，処置をしてください。

現　象	原　因	処　置
始動困難な場合	(1)燃料が流れない	*燃料タンクを点検し，沈澱している不純物や水分を除く。 *燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	(2)燃料送油系統に，空気や水が混入している。	*パイプ及び締付けバンドを点検し，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 *エアー抜きをする。(44ページ参照)
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	*ラジエータに熱湯をそそぐ。 *気温によってオイルの使い分けをする。(冬期はD10W30を使用)
	(4)バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	*バッテリを充電する。
出力不足の場合	(1)燃料不足	*燃料を補給する。
	(2)エアークリーナの目詰まり。	*エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1)燃料切れ	*燃料を補給する。
排気色が異常に黒い場合	(1)燃料が悪い。	*良質の燃料に交換する。
	(2)エンジンオイルの入り過ぎ。	*正規のオイル量にする。
水温計の指針がレッドゾーンを示すとき	(1)冷却水が100℃以上になったため。	*ボンネット密閉の点検(ボンネットが確実に閉まり，ロックされているか点検する。) *冷却水の量(不足)及び水もれの点検 *ファンベルトの張り(ゆるみ)の点検 *ラジエータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。

☆原因や処置のしかたがわからない場合は，購入先にご相談ください。

付　表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

区分	項目	A—13	A—14	B52
形式		A—13	A—14	B52
駆動方式		四輪駆動		
機体寸法	全長(mm)	1925	1950	2010
機体寸法	全幅(mm)	990(最狭 940)	1010(最狭 960)	1040(最狭)
機体寸法	全高(mm)	1140	1165	1190
機体寸法	軸距(mm)	1200		
機体寸法	輪距 前輪(mm)	755	775	
機体寸法	輪距 後輪(mm)	730, 780, 830, 880	750, 800, 850, 900	800, 850, 900
機体寸法	最低地上高(mm)	240	260	270
質量(kg)		510		530
エンジン	名称	クボタD662(-1B)	クボタD722(-1B)	クボタD722
エンジン	形式	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル(NewTVCS)		
エンジン	総排気量(c.c.)	656	719	
エンジン	出力/回転速度(PS/rpm)	13.0/2500 {9.6/2500(kW/rpm)}	14.5/2600 {10.7/2600(kW/rpm)}	14.9/2600 {11.0/2600(kW/rpm)}
エンジン	使用燃料	クボタディーゼル重油，又はディーゼル軽油		
エンジン	燃料タンク容量(ℓ)	14		
エンジン	始動方式	セルモータ式		
エンジン	バッテリ	38B20L—MF(12V・35Ah)		
タイヤ	前輪	5—12	5.00—12	
タイヤ	後輪	7—14	7—16	8—18
車体	クラッチ方式	乾式単板(シングル)		
車体	制動装置	一系統左右独立(連結装置付)，湿式ディスクブレーキ(機械式)		
車体	かじ取り方式	ボールスクリュ式		
車体	差動方式	かさ歯車式(デフロック付)		
車体	変速方式	選択かみ合い式		
変速段数(段)		前進6段，後進2段		
走行速度(km/h)	前進	0.76〜12.59	0.85〜13.97	0.88〜13.51
走行速度(km/h)	後進	1.07〜5.21	1.18〜5.80	1.23〜5.61
最小旋回半径(ブレーキ使用時)(m)		1.65		
PTO	変速段数	2段，逆転1段【X仕様】		2段，逆転1段
PTO	軸寸法(mm)	JIS 35		
作業機昇降装置	制御方式	手動コントロール【標準仕様】，ポジションコントロール【M, A仕様】		ポジションコントロール
作業機昇降装置	装着方式	2点リンク(標準)，3点リンク JIS O形(オプション)		2点リンク

■走行速度及び適応作業

副変速レバー	主変速レバー	変　速	A-13 車速km/時	A-14 車速km/時	B52 車速km/時	適　応　作　業
低	1	前進1速	0.76	0.85	0.88	ロータリ耕うん，畝立て
	2	2速	1.30	1.45	1.51	ロータリ耕うん
	3	3速	2.40	2.67	2.78	ロータリ砕土，フロントローダ
高	1	4速	3.72	4.13	3.99	代かき，すき耕，フロントローダ
	2	5速	6.37	7.08	6.85	すき耕
	3	6速	12.59	13.97	13.51	走行，トレーラ作業
低	R	後進1速	1.07	1.18	1.23	
高		2速	5.21	5.80	5.61	

■ロータリの主要諸元

<table>
<tr><td colspan="2">形　式</td><td>RS11
(-V·AB·VAB)</td><td>RS11
-A(V)</td><td>RS11
-SC</td><td>RS12
(-V·AB·VAB)</td><td>RS12
-A(V)</td><td>RS12
-SC</td><td>RS14
(-AB)</td><td>RS14
-A</td><td>RK8W</td><td>RK11
(-B)</td><td>RK13</td></tr>
<tr><td colspan="2">駆動方式</td><td colspan="8">サイドドライブ</td><td colspan="3">センタドライブ</td></tr>
<tr><td rowspan="3">機体寸法</td><td>全長(mm)</td><td colspan="11">1280</td></tr>
<tr><td>全幅(mm)</td><td colspan="3">1270</td><td colspan="3">1370</td><td colspan="2">1570</td><td>1110
〔910〕</td><td>1210</td><td>1410</td></tr>
<tr><td>全高(mm)</td><td colspan="11">900</td></tr>
<tr><td colspan="2">質量(kg)</td><td>132</td><td>120</td><td>143</td><td>136</td><td>124</td><td>147</td><td>151</td><td>139</td><td>140
〔130〕</td><td>144</td><td>154</td></tr>
<tr><td colspan="2">適応トラクタ
(PS)</td><td colspan="11">A－13，A－14
(13，14.5)</td></tr>
<tr><td colspan="2">装着装備の種類</td><td colspan="11">2点リンク</td></tr>
<tr><td colspan="2">標準耕幅(mm)</td><td colspan="3">1110</td><td colspan="3">1210</td><td colspan="2">1410</td><td>1010
〔830〕</td><td>1110
〔830〕</td><td>1310
〔830〕</td></tr>
<tr><td colspan="2">標準耕深(cm)</td><td colspan="6">12</td><td colspan="2">10</td><td colspan="3">12</td></tr>
<tr><td colspan="2">標準作業速度(km/h)</td><td colspan="11">0.7～4.1</td></tr>
<tr><td colspan="2">入力軸回転数(rpm)</td><td colspan="11">546～1013</td></tr>
<tr><td colspan="2">変速の有無</td><td colspan="11">無</td></tr>
<tr><td rowspan="2">耕うん軸回転数
※1　(rpm)</td><td>A-13</td><td colspan="8">182〔184，329〕</td><td colspan="3">181〔183，327〕</td></tr>
<tr><td>A-14</td><td colspan="8">182〔190，341〕</td><td colspan="3">181〔189，339〕</td></tr>
<tr><td colspan="2">耕うん爪取付方法</td><td colspan="11">ホルダタイプ</td></tr>
<tr><td colspan="2">耕うん爪の種類</td><td colspan="3">321号R，L各12本
322号R，L各1本</td><td colspan="3">321号R，L各13本
322号R，L各1本</td><td colspan="2">321号R，L各15本
322号R，L各1本</td><td>321号R，L各11本
533号R，L各2本
534号R，L各1本</td><td>321号R，L各11本
533号R，L各2本
534号R，L各1本</td><td>321号R，L各13本
533号R，L各2本
534号R，L各1本</td></tr>
<tr><td colspan="2">耕うん爪の外径(cm)</td><td colspan="11">45</td></tr>
<tr><td colspan="2">耕深調節機構</td><td colspan="11">後方双尾輪式(RS11-A·VA·K，RS12-A·VA，RS14-Aは除く)
RS11-A·VA·K，RS12-A·VA，RS14-Aはメカオート式</td></tr>
<tr><td colspan="2">耕うん作業能率(分/10a)
$\frac{6000}{W.V.E}$</td><td colspan="3">17～103</td><td colspan="3">16～95</td><td colspan="2">13～81</td><td>19～113</td><td>17～103</td><td>14～88</td></tr>
</table>

※1（入力軸540 rpmの時）
　［　］内は各PTO変速での回転数
W：標準耕幅(cm)　V：標準作業速度(km/h)　E：ほ場作業効率(0.75)

形　式		RS12E	RS14E
駆動方式		サイドドライブ	
機体寸法	全　長(mm)	1280	
	全　幅(mm)	1370	1570
	全　高(mm)	900	
質　量(kg)		129	144
適応トラクタ (PS)		B52 (14.9)	
装着装備の種類		2点リンク	
標準耕幅(mm)		1210	1410
標準耕深(cm)		12	10
標準作業速度(km/h)		0.8〜4.0	
入力軸回転数(rpm)		546〜1013	
変速の有無		無	
耕うん軸回転数 ※1 (rpm)	B52	182〔190, 341〕	
耕うん爪取付方法		ホルダタイプ	
耕うん爪の種類		321号R, L各13本 322号R, L各1本	321号R, L各15本 322号R, L各1本
耕うん爪の外径(cm)		45	
耕深調節機構		後方双尾輪式	
耕うん作業能率(分/10a) $\frac{6000}{W.V.E}$		16〜83	14〜71

※1（入力軸540 rpmの時）
　　[　]内は各PTO変速での回転数
W：標準耕幅(cm)　V：標準作業速度(km/h)　E：ほ場作業効率(0.75)

■PTO回転速度

PTO変速	A-13	A-14	B52
	回転速度 rpm	回転速度 rpm	回転速度 rpm
1段	546	565	565
2段	978	1013	1013
逆転【X仕様】	578	598	598

標準付属品

品　　名	数量/台	備　　考	品　　名	数量/台	備　　考
10−12スパナ	1	※	取扱説明書	1	
14−17スパナ	1	※	保証書	1	
19−22スパナ	1	※	保証書	1	ロータリ装着時のみ
21−26スパナ	1	※	PTO軸キャップ	1	
プライヤ	1	※	ボルト	2	PTO軸キャップ取付け用
ヒューズ	1種	10アンペア×2個	座金	2	
メインスイッチキーアッシ	1				

＊ B52には※印のものは含まれません。

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

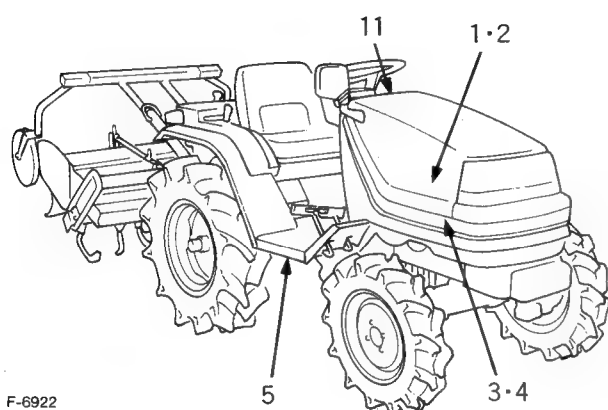
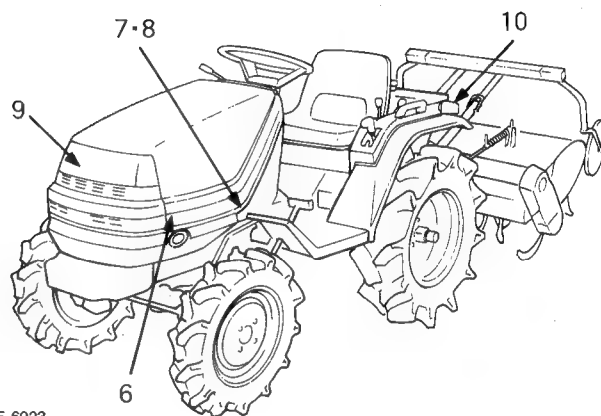
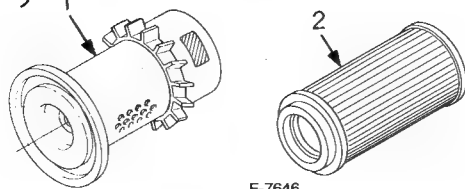
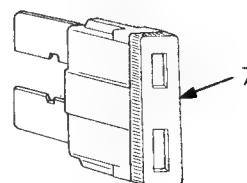
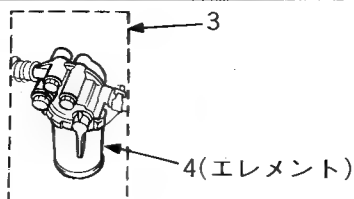
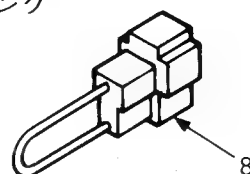
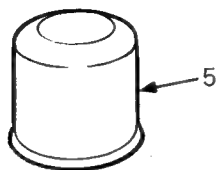
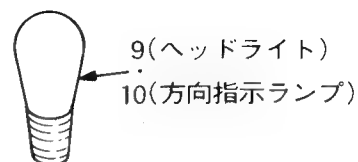
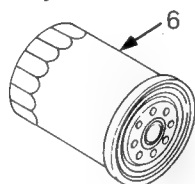
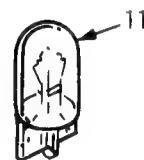
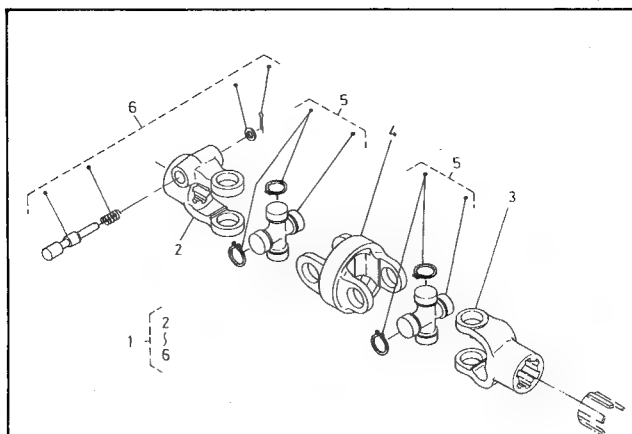
■エンジンオイル・ミッションオイル・ギヤーオイル

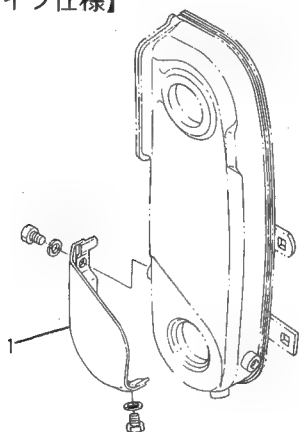
メ　ー　カ	エンジンオイル	ミッションオイル	ギヤーオイル
日　本　石　油	クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30	クボタ純オイル UDT又はスーパーUDT	クボタ純オイル UDT･スーパーUDT又は M80B
コ　ス　モ　石　油			
ジャパンエナジー			
昭和シェル石油			
富　士　興　産			

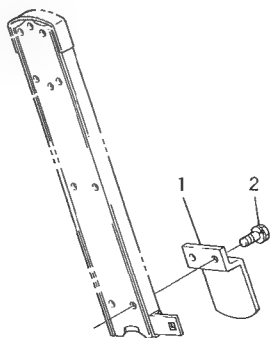
＊寒冷地用としてミッションオイルにクボタ純オイルUDTをおすすめします。

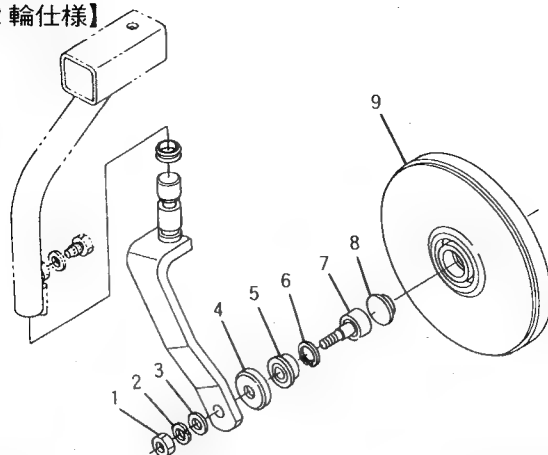
■グリース

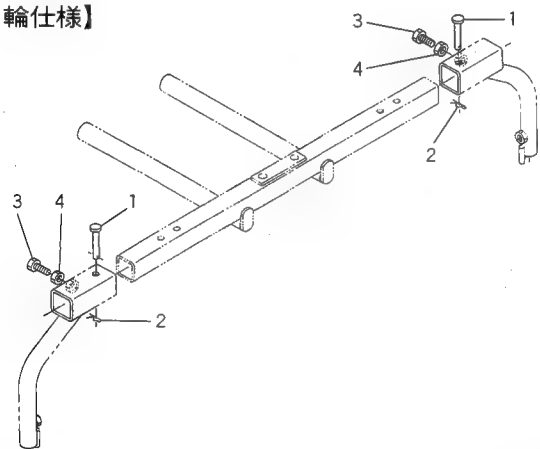
メ　ー　カ	グ　リ　ー　ス	
	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日　本　石　油	エピノックグリースAPNo.2	PAN WBグリース
コ　ス　モ　石　油	ダイナマックスEPNo.2	ロードマスターNo.2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリースEPNo.2	リゾニックスグリースNo.2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリースNo.2
モ　ー　ビ　ル　石　油	プレックス47	モービルグリースJL
エ　ッ　ソ　石　油	シャーシグリースL	リスタンWB2
出　光　興　産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
三　菱　石　油	シャーシグリースNo.2	ホイールベアリングHDグリースNo.2
ゼ　ネ　ラ　ル　石　油	シャーシグリースNo.2	WBグリースNo.2
キ　グ　ナ　ス　石　油	シャーシグリースNo.2	MPグリースNo.2

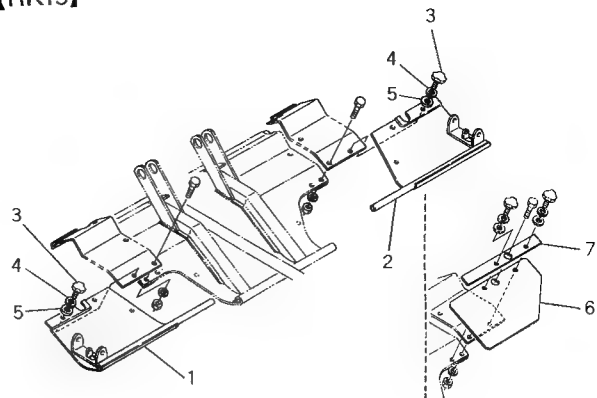
主な消耗部品一覧表

エアークリーナ エレメント 1　2 F-7646	ヒューズ 7 F-4757
燃料フィルタ 3 4(エレメント) F-6876改	ヒュージブルリンク 8 F-6013
油圧オイルフィルタ カートリッジ 【M仕様】 5 F-6915改	電球 9(ヘッドライト) 10(方向指示ランプ) F-4759
エンジンオイルフィルタ カートリッジ 6 F-4756	イージーチェッカ用ランプ バッテリチャージランプ エンジンオイルランプ グローランプ 一共通 11 F-5086

図番	品　名	品　番	図番	品　名	品　番
1	エレメントアッシ	52300-2578-0	7	ヒューズ10A	36730-7555-0
2	エレメントアッシ	67980-8263-0	8	ヒュージブルリンク	67111-5519-0
3	フューエルフィルタアッシ	15231-4301-0	9	デンキュウ	66071-5535-0
4	フィルタエレメント	15231-4356-3	10	デンキュウ	37410-5272-0
5	油圧オイルフィルタカートリッジ	67980-3712-0	11	ランプ	66101-5577-0
6	エンジンオイルフィルタカートリッジ	15852-3243-0			

図番	品　　名	品　　番	個数
1	ユニバーサルジョイントアッシ	70159-5811-0	1
2	ヨーク	70159-5812-0	1
3	スライドヨーク	79163-3123-0	1
4	ダブルヨーク	79180-3114-0	1
5	スパイダアッシ	79190-3125-0	2
6	ロックピンアッシ	70678-5822-0	1

【サイドドライブ仕様】

図番	品　　名	品　　番	個数
1	保護カバー	70159-5415-0	1

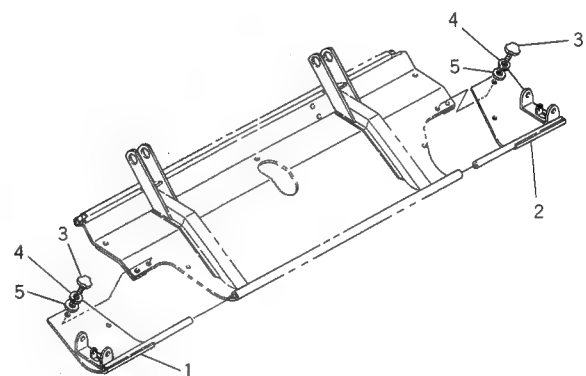
【サイドドライブ仕様】

図番	品　　名	品　　番	個数
1	カバー(サイドフレーム)	70159-5312-0	1
2	ボルト	01133-51220	2

【後２輪仕様】

図番	品　　名	品　　番	個数
1	ナット	02174-50160	1
2	バネ座金	04512-50160	1
3	平座金	04011-50160	1
4	カバー(ステー)	70159-5754-0	1
5	オイルシール(TCFY203712)	79153-3553-2	1
6	穴サークリップ	04611-00370	1
7	後２輪軸アッシ	79153-3552-0	1
8	シールキャップ	79163-3549-0	1
9	後２輪310	79153-7551-2	1

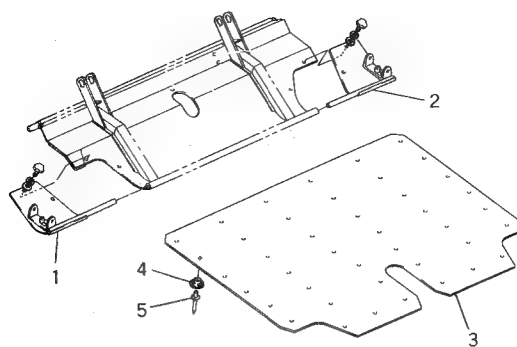
【後２輪仕様】

図番	品　　名	品　　番	個数
1	アタマツキピン	05122-51270	2
2	スナップピン	05516-51200	2
3	ボルト	01173-51230	2
4	ナット	02172-50120	2

【RK13】

F-8069

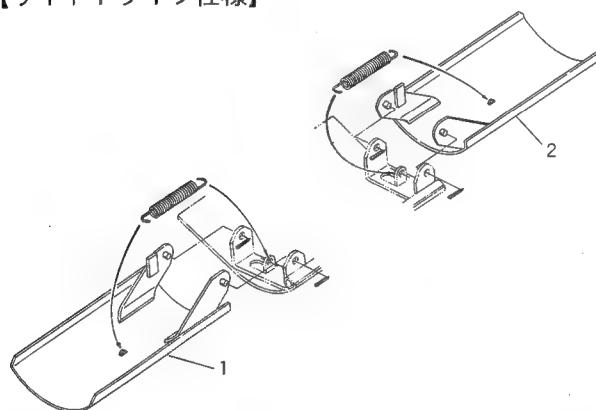
図番	品　　名	品　　番	個数
1	カバー(L,ホジョ)	70199-5651-2	1
2	カバー(R,ホジョ)	70199-5652-2	1
3	ノブボルト	01820-50815	6
4	バネザガネ	04512-50080	6
5	ヒラザガネ	04013-50080	6
6	マッドガード	70199-5653-2	2
7	プレート(オサエ)	70199-5654-2	2

【RK11】

F-8070

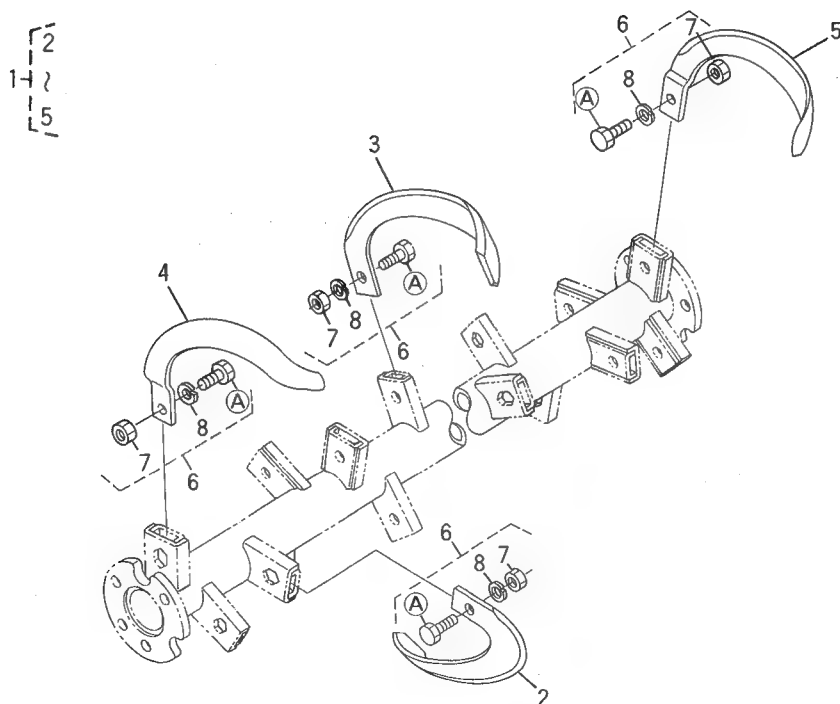
図番	品　　名	品　　番	個数
1	カバー(L,ホジョ)	70159-5651-5	1
2	カバー(R,ホジョ)	70159-5652-5	1
3	ノブボルト	01820-50815	4
4	バネザガネ	04512-50080	4
5	ヒラザガネ	04013-50080	4

【RS11・12, SC仕様】

F-8071

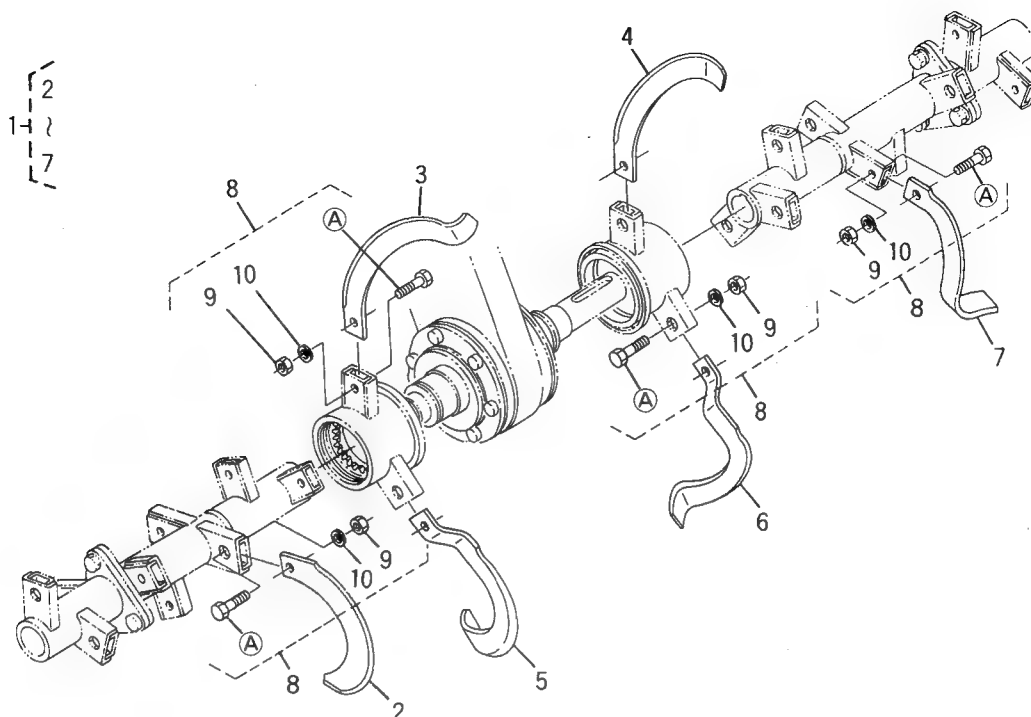
図番	品　　名	品　　番	個数
1	カバー(L,ホジョ)	70159-5651-5	1
2	カバー(R,ホジョ)	70159-5652-5	1
3	カバー(ゴム)【RS11】	70158-5645-0	1
	カバー(ゴム)【RS12】	70159-5645-0	1
4	ザガネ(SC)	70159-5646-0	42
5	リベット	70159-5647-0	42

【サイドドライブ仕様】

F-8072

図番	品　　名	品　　番	個数
1	カバー(エンチョウ L)	70529-5651-0	1
2	カバー(エンチョウ R)	70529-5652-0	1

【サイドドライブ仕様】

F-6929

図番	品　　　名	品　　番	個　数			備　考
			RS11	RS12, RS12E	RS14, RS14E	
1	なた爪アッシ	70171-5754-0	1	—	—	②～⑤
1	なた爪アッシ	70172-5754-0	—	1	—	②～⑤
1	耕うん爪アッシ	70104-5754-0	—	—	1	②～⑤
2	耕うん爪321 左	96181-1221-2	12	13	15	
3	耕うん爪321 右	96181-1222-2	12	13	15	
4	増幅爪322 左	79140-6261-2	1	1	1	
5	増幅爪322 右	79140-6262-2	1	1	1	
6	爪取付け部品 1	70461-5555-0	26	28	32	⑦, ⑧, Ⓐ
7	爪取付けナット	64135-9519-3	26	28	32	
8	バネ座金	04512-50100	26	28	32	

【センタドライブ仕様】

図番	品　　名	品　　番	個　　数		備　考
			RK8W・RK11	RK13	
1	耕うん爪アッシ	70198-5762-0	1	—	②～⑦
1	耕うん爪アッシ	70199-5762-0	—	1	②～⑦
2	耕うん爪321 右	96181-1222-2	11	13	
3	533なた爪 左	70101-5551-4	2	2	
4	533なた爪 右	70101-5552-4	2	2	
5	534変形爪 左	70101-5553-4	1	1	
6	534変形爪 右	70101-5554-4	1	1	
7	耕うん爪321 左	96181-1221-2	11	13	
8	爪取付け部品 1	70461-5555-0	28	32	⑨, ⑩, Ⓐ
9	爪取付けナット	64135-9519-3	28	32	
10	バネ座金	04512-50100	28	32	

アタッチメント一覧表

◆トラクタ

分類	品番	品名	用途・仕様		併用アタッチメント	適応トラクタ A-13	A-13 大径タイヤ	A-14	A-14 大径タイヤ	A-14 Gタイヤ	B52
補助車輪関係	96023 -0719-2	P15 反転ストレークアッシ	外径72.77cm 幅 15cm	5セット／台	96023-0249-0 7-14 ストレーク取付台	○					
			外径72.77cm 幅 15cm		96023-0250-0 7-16 ストレーク取付台		○	○	○	○	○
	99036 -2500-0	P200 反転ストレークアッシ	外径72.77cm 幅 20cm	5セット／台	96023-0249-0 7-14 ストレーク取付台	○					
			外径72.77cm 幅 20cm		96023-0250-0 7-16 ストレーク取付台		○	○	○	○	○
	96023 -0739-3	P30 反転ストレークアッシ	外径79.84cm 幅 30cm	5セット／台	96023-0249-0 7-14 ストレーク取付台	○					
			外径79.84cm 幅 30cm		96023-0250-0 7-16 ストレーク取付台		○	○	○		
	96023 -0249-0	7-14 ストレーク取付台	反転ストレーク取付け用		P15, P200, P30 の反転ストレークアッシを任意選択	○					
	96023 -0250-0	7-16 ストレーク取付台	反転ストレーク取付け用				○	○	○	○	○
ウエイト関係	96312 -2840-0	B1600DT 前輪ウエイトアッシ	重量18kg×2個（前輪用）			○	○	○	○		○
	96312 -2061-0	7-14 ホイルウエイトアッシ	重量21kg×2個（後輪用）			○	○	○			
	96312 -2014-0	8-16 ホイルウエイトアッシ	重量23kg×2個（後輪用）						○		
	96315 -1051-0	前部ウエイト本体	重量25kg 使用個数1個			○	○	○	○	○	○
	96315 -1540-0	B1-15 バンパウエイトアッシ	重量40kg 使用個数1個			○	○	○	○	○	○
その他	96316 -1410-0	A-13 3点リンクヒッチアッシ	3点リンク作業機用 延長ヒッチ付			○	○	○	○	○	
	96316 -2850-0	A-13 延長ヒッチアッシ	トレーラ等のけん引作業			○	○	○	○	○	○
	96397 -1510-0	B1500 洗車ポンプアッシ	吐出量55ℓ／分			○	○	○	○	○	○
	96314 -1540-0	B1-15 作業灯アッシ	12V15W			○	○	○	○	○	○
	96314 -4670-0	A-13 折りたたみ日よけアッシ	全高 A-13,176cm A-14,178cm			○	○	○	○	○	○

注）P200反転ストレークアッシをA-14(Gタイヤ)またはB52に使用する場合は，ロータリ等の作業機に接触するおそれがありますので，タイヤ外径よりも内側になるようにして使用してください。

◆ロータリ

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適応ロータリ RS11	RS12 RS12E	RS14 RS14E	RK8W	RK11	RK13
耕うん	70171-5754-0	なた爪セット	321号なた爪R・L各12本 322号なた爪R・L各1本		○					
	70172-5754-0	なた爪セット	321号なた爪R・L各13本 322号なた爪R・L各1本			○				
	70104-5754-0	耕うん爪アッシ	321号なた爪R・L各15本 322号なた爪R・L各1本				○			
	70198-5762-0	なた爪セット	321号なた爪R・L各11本 533号なた爪R・L各2本 534号なた爪R・L各1本					○	○	
	70199-5762-0	なた爪セット	321号なた爪R・L各13本 533号なた爪R・L各2本 534号なた爪R・L各1本							○
	70461-5555-0	爪取付け部品1	ボルト・ナット バネ座金 各1個	——	○ 26	○ 28	○ 32	○ 28	○ 28	○ 32
	96195-0550-0	200延長 爪軸アッシ	左右各10cm 延長	——					○	
整地	96272-2600-0	折たたみ整地部	延長整地幅 左右各25cm	RS12E・RS14Eは 補助カバーが必要	○	○	○		○	○
	96313-3600-0	折たたみ整地部 RS11E	延長整地幅 左右各25cm 補助カバー含む (但し 蝶ボルト取付け)			○ (RS12E)	○ (RS14E)			
うねたて	96220-7550-0	4号 うねたて機	溝幅12cm 羽根長さ 85.4cm	うねたて金具(03) (99042-1770-0)	○	○	○		○	○
	96220-7560-0	5号 うねたて機	溝幅15cm 羽根長さ 86.5cm		○	○	○		○	○
	96220-7570-0	7号 うねたて機	溝幅21cm 羽根長さ92cm		○	○	○		○	○
	99042-1770-0	うねたて金具(03)		4号・5号・7号 うねたて機(03)	○	○	○		○	○
	96230-7550-0	片培土機アッシ	溝幅16cm		○	○	○		○	○
マルチ・成形機関係	96280-3504-0	B1-15 平うねマルチアッシ (ヒッチなし)	マルチ爪なし,リヤカバー付 うね幅 80~120cm うね高さ 20~30cm フイルム幅 90~150cm	＊96280-2351-0 アステ用ヒッチ ＊96315-1540-0 B1-15バンパウェイトアッシ	○	○	○		○	○
	96280-5504-0	B1-15 平高うねマルチアッシ (ヒッチなし)	マルチ爪なし,リヤカバー付 うね幅 80~120cm うね高さ 15~30cm フイルム幅 110~150cm		○	○	○		○	○
	96280-7103-0	B1-15 小うねマルチアッシ (ヒッチなし)	マルチ爪なし,リヤカバー付 うね幅 47~55cm うね高さ 27~33cm フイルム幅 95~110cm		○	○	○		○	○
	96280-2504-0	B1-15 高うねマルチアッシ (ヒッチなし)	マルチ爪3対付,リヤカバー付 うね幅 55~76cm うね高さ 33~38cm フイルム幅110~135cm		○	○	○		○	○
	98619-9461-0	PHM-V-15 汎用平高うねマルチ (ヒッチなし)	マルチ爪3対付 リヤカバー付 フイルム幅95~180cm		○	○	○		○	○
	96280-5505-0	平高うね成形機 (ヒッチなし)	マルチ爪なし リヤカバー付		○	○	○		○	○
	96280-2505-0	高うね成形機 (ヒッチなし)	マルチ爪3対付 リヤカバー付 うね幅 55~76cm うね高さ 33~38cm		○	○	○		○	○

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適応ロータリ					
					RS11	RS12 RS12E	RS14 RS14E	RK8W	RK11	RK13
マルチ・成形機関係	98619-9561-0	PH-V-15 汎用平高うね成形機	マルチ爪3対付 リヤカバー付	＊96280-2351-0 アステ用ヒッチ ＊96315-1540-0 B1-15バンパウェイトアッシ	○	○	○		○	○
	98619-6561-0	汎用うね立マルチ (ヒッチなし)			○	○	○		○	○
	98619-0671-0	A-14 汎用平うねマルチ (ヒッチなし)	マルチ爪なし リヤカバーなし		○	○	○		○	○
	96198-0811-0	マルチ爪(右)			○	○	○	○	○	○
	96198-0812-0	マルチ爪(左)			○	○	○	○	○	○
リッジャ関係	98619-9961-0	STR-M 中型3畦リッジャ (ヒッチなし)		＊96280-2351-0 アステ用ヒッチ ＊96315-1540-0 B1-15バンパウェイトアッシ	○	○	○		○	○
	98619-9861-0	STR-2M 中型2畦リッジャ			○	○	○		○	○
	96230-1401-0	3連リッジャⅣ型 (固定培土)				○	○			○
	96230-1402-0	3連リッジャⅤ型 (開閉培土)				○	○			○

オイルは クボタ純オイル をお使いください。

● オイルはトラクタの開発研究から生まれたクボタ純オイルをお使いください。

■ エンジンには，

クボタ純オイル D 30，又は D 10W30

ディーゼルエンジン用

Z-1002　4 ℓ　20 ℓ

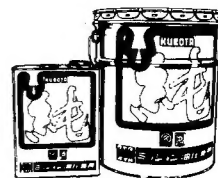
■ トラクタ本体には，

クボタ純オイル

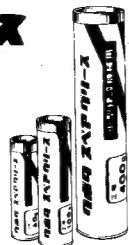
ミッション用

UDT

又は

スーパーUDT

Z-1003　4 ℓ　20 ℓ

■ グリースアップには，

クボタスペアグリース

Z-1005　60　100　400

■ ロータリなどには，

クボタ純オイル M80B又は M90

ミッション用

Z-1004　4 ℓ　20 ℓ

いずれもクボタが品質保証する最も適したオイルです。
購入先へご用命ください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社クボタ

事業所	住所	〒	電話
本　　　　社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06)　648-2111
東 京 本 社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03)　3245-3111
北 海 道 支 社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)　214-3111
東 北 支 社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022)　267-9000
中 部 支 社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052)　564-5111
九 州 支 社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)　473-2401
札 幌 支 店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011)　662-2121
仙 台 支 店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022)　384-5151
東 京 支 店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048)　862-1121
大 阪 支 店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)　41-8506
岡 山 支 店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)　79-4511
福 岡 支 店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092)　606-3161
堺 製 造 所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)　41-1121
宇 都 宮 工 場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286)　61-1111
筑 波 工 場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)　52-5112
枚 方 製 造 所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)　40-1121
西日本総合部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722)　45-8601
東日本総合部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)　52-0510
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町大曲工業団地３丁目１番地	〒061-12	電(011)　376-2335
九州部品センター	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)　606-3161
株式会社クボタアグリ東北			
秋　田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)　45-1601
仙　台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022)　384-5151
株式会社クボタアグリ東京			
東　京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048)　862-1121
新　潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025)　285-1261
株式会社クボタアグリ大阪			
金　沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762)　75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586)　24-5111
大　阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)　41-8550
株式会社クボタアグリ中四国			
米　子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859)　33-5011
岡　山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)　79-4511
高　松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878)　74-5091
株式会社クボタアグリ九州			
福　岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)　606-3161
熊　本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096)　357-6181

品番 67980－6252－4

Kubota